

十 雜件

1	中国軍の上海停戦協定区域内通過問題	809
2	中国による渤海沿岸密輸取締問題	839
3	福建省などにおける米国策動説	858
4	宋子文の日本寄港問題	887
5	青島市長辞職問題	898
6	前満州国駐日代表の香港訪問事件	909

日本外交文書

昭和期Ⅱ第一部第二卷
(昭和八年対中国關係)

日付索引

一 日中外交關係一般

1 昭和8年1月16日

内田(康哉)外務大臣より
沢田(節蔵)連盟事務局長
在米国出淵(勝次)大使 } 宛(電報)

山海關事件への中国側対応方針に関する呉鉄

城および彭學沛の内話について

本省 1月16日発

合第一四二號

山海關事件ニ對スル國民政府及中央黨部首腦部ノ態度及其ノ内政上ノ立場ニ關シ吳鐵城及彭學沛(行政院政務處處長ニシテ汪精衛腹心ノ部下ナリ)カ夫々須磨及上村ニ極秘トシテ内話セル所左ノ如シ

(イ)吳鐵城(往電合第八九號所報ノ通蔣介石ノ招電ニ接シハ日上京十二日歸滬ス)

滯京中各方面ト時局ニ關スル意見交換ヲ爲シタルカ中央政府及黨部ノ責任者ハ何レモ日支關係上此ノ上ノ事態惡化ハ勿論欲セサルモ山海關事件ニ關シテハ如何ナル條件

ノ下ニモ地方的解決交渉ニ入ラサルコトニ決定シ居レリ(尙須磨ヨリ本件ヲ無交渉ノ儘放置センカ双方ノ誤解ヨリ大局上面白カラサル事態ヲ惹起スル虞モアルヘク支那側ヨリ進ンテ其ノ過誤ヲ自認シ地方的ニアツサリ片着クルコト得策ナルヘシト述ヘタルニ對シ吳ハ自分トシテハ今ノ所日本軍カ自發的ニ元日以前ノ地區ニ撤退スルヨリ外解決ノ途ナシトノ意見ナル旨ヲ述ヘタル由)

(ロ)彭學沛

宋子文ハ山海關事件カ日本軍ノ熱河占領計畫ノ第一歩トシテノ豫定計畫ナルコトハ國民一般モ之ヲ承知シ居ル次第ナルヲ以テ政府トシテ本件ヲ地方問題トシテ手輕ニ片附クルニ於テハ一般ノ攻撃ヲ受ケ其ノ立場ヲ失フヘシ依テ慎重ノ態度ヲ持シ暫ク時機ヲ待チ輿論ノ氣勢カ「クー、ダウン」シタル頃ヲ見計ヒ交渉セントスル腹ナルカ其ノ解決條件ハ支那側ノ面目ヲ立ツルモノタルヲ要スルコト勿論ナリ殊ニ日本軍カ熱河侵入ヲ敢行セントシ居ル

コト今や明カニシテ南京側トシテハ相當ノ抵抗ヲ爲サスシテ熱河ヲ失ヒ若ハ關内ノ一部ヲ蹂躪セラルルカ如キコトトモナラハ輿論ノ攻撃ニ會ヒ國民政府ノ運命ニモ關スル惧アリ依テ國民ニ對スル手前相當ノ準備ヲ爲シ置ク要アリトノ意見ナルカ私見(彭學沛)ニ依レハ滿洲問題及山海關事件ニ關スル南京政府ノ機微ナル立場右ノ通ナルノミナラス滿洲問題ニ關スル日本ノ堅キ決意ハ蔣介石以下良ク承知シ居ルヲ以テ時日ノ經過ヲ待タントスヘク斯レハ滿洲問題モ漸次一般民衆ノ關心ヲ離レ行キ自然ニ解決ノ途ヲ見出し得ヘシ云々

聯盟ヨリ土ヲ除ク在歐各大使ニ轉電アリタシ

2 昭和8年1月20日 在広東吉田(丹一郎)総領事代理より
内田外務大臣宛(電報)

満洲問題に關する日本側態度は強硬すぎるな
と唐紹儀見解披露について

広東 1月20日後発
本省 1月21日前着

第三七號

二十日唐紹儀トノ會談ニ於テ唐ノ爲セル時局談御參考迄左ノ通り

「當地ニ於テハ往電第七四九號ノ如キ次第モアリ又山海關事件以來政府ハ勿論民間各種團體ニ於テモ夫々全國ニ通電ヲ發シ頗ル強硬ナル態度ヲ表示シ居レルカ凡テ之レ一種ノ「ゼスチューア」ニ過キスシテ決シテ武力ニ依ル抗日ノ如キハ其ノ眞意ニモ非ス又出來兼ヌルコトナリ陳濟棠カ最近軍備ニ汲々タルヤノ噂有ル處武人カ金ヲ持テハ武備以外ニ金ノ用途ヲ知ラサルハ當然ニテ敢テ特別ナル意圖有ルモノトハ信セラレス

「滿洲問題ニ關スル日本側ノ態度ハ餘リニ強硬ニ過クルヤノ感無キニ非ス、自分ハ目下外交當事者ニ非ス從テ現下ノ支那外交當局ノ態度ヲ代辯スルモノニハ非サルモ自分一己ノ私見ヲ以テスレハ滿洲問題ハ日支直接交渉ニ依ルヲ最善且唯一ノ解決方法ト存スルモ目下ノ日本ノ如ク斷シテ一步モ譲ラストノ態度ヲ續クルニ於テハ取着ク島ナク直接交渉ノ手懸ヲ得ルニ苦シム次第ナリ、日本カ直接交渉ヲ欲スルニ於テハ當方ハ之ニ應シ得ル何等カノ「ゼスチューア」ヲ示スノ必要有ルヘシ

支ヨリ上海ニ轉報アリタシ

3 昭和8年1月23日

在南京上村(伸一)総領事代理より
内田外務大臣宛(電報)

内田外相の議會演説を非難し東三省の主權回復までは和解せずと羅文幹外交部長談話発表について

南京 1月23日後発
本省 1月23日後着

第四七號

廿三日ノ新聞ニ發表セラレタル羅外交部長ノ談話要領左ノ通内田外相ハ議會演説ニ於テ單ニ東北ニ於ケル日本ノ暴行ニ關シテノミ説カレタルカ右ハ日本ノ武力侵略ト領土擴張ノ迷夢カ尙容易ニ醒メサルコトヲ證スルニ足ル昨年八月内田外相ノ極東ノ形勢ニ關スル演説以來既ニ數ヶ月ヲ經過セルカ其ノ聯盟ノ權威及九國條約ノ尊嚴等ニ對スル公然タル侮辱的態度ハ今猶減少シ居ラス即チ今回ノ演説ニ於テ偽滿洲國ノ存在ヲ正當ト認ムルノミナラス更ニ進ミテ其擴大ノ可能ナルコトヲ説キ且日本ノ熱河進入ノ決心ヲ公然闡明セリ此ノ種ノ誤マレル見解ト議論ニ對シ吾人ハ重ネテ辯駁スル

一 日中外交關係一般

先年自分ハ南下ニ先立ち蔣介石ト會見ノ際宋子文ヲモ同席セシメ「支那トシテハ日支親善ヲ外交ノ大方針トシ苟クモ利益ニ暗マサレ軌道ヲ外スニ於テハ日支兩國間ノ大事ヲ惹キ起スコト有ルヘキ」旨約二時間ニ亘リ忠言シタルコトアリ、蔣介石モ全然同意見ニシテ現在ニ於テモ此ノ點ニ付蔣ノ眞意ハ變ラサルモノ有ルヘシト存ス

「日支紛争カ國際聯盟ニ於テ解決不能ノ場合南京政府ハ孫科一派ニ引摺ラレ露國ニ對シ何等援助ヲ求ムルノ「デスペレイト」ナル態度ニ出テンコトナキヤヲ憂慮スル向有ルカ如クナルモ孫科ハ元來熱血兒ナリトハ云ヘ周圍ノ者ハ既ニ前年ノ容共政策ニ手ヲ燒キ居ルヲ以テ斯カル事態ハ萬々出現セサルヘシ、唯蔣介石カ如何ナル手段ニ依リ國民ノ攻撃ヲ押ヘ同時ニ自己ノ地位保存ヲ計ルヘキヤハ全く自分トシテハ想像シ得サル處ナリ

「張學良ハ頻リニ強カリヲ言ヒ居ルモ積極的ニ兵ヲ進メ日本ト正面衝突ヲ敢テスルカ如キコト有リ得ヘシトハ想像シ得ス云々

支、北平、天津、滿、奉天、青島、濟南、南京、漢口、福州、厦門、汕頭ニ轉電シ香港ニ暗送セリ

ヲ欲セサルモ支那ハ偽滿洲國ヲ取消シ東三省ニ於ケル固有ノ主權ヲ回復スル迄ハ調停又ハ和解其他如何ナル解決方法モ總テ不可トナス確乎タル決意ヲ有スルコトヲ聲明ス支、北平、天津、青島、濟南、漢口、廣東、福州、滿、奉天へ轉電セリ
支ヨリ上海へ轉報アリ度シ

編 注 『日本外交文書』昭和期Ⅱ第二部第二卷第1文書付記。

4 昭和8年1月25日 在中国有吉明（公使より内田外務大臣宛（電報））

熱河問題および張學良対策に関する満洲国側方針など板垣同国執政顧問の談話について

上海 1月25日後発
本省 1月25日後着

第五三號（極秘）

⁽¹⁾豫テ平津地方視察中ノ板垣少將ハ段祺瑞ノ南下ト前後シテ濟南南京經由廿二日內密來滬シタル爲（廿五日離滬）當地邦人記者中ニハ段ノ南下ハ同人ヲ學良ノ後釜ニ据エントスル

反亂ヲ起ス切掛又ハ口實ヲ作ル爲日本軍ノ一時的關内進出又ハ日本軍隊ニ依ル平津擾亂ヲ希望シ來ル者多ク從テ山海關事件ヲ地方的ニ解決セントスル方針出先官憲ニ充分徹底シ居ルハ事實ナルモ日本軍力絶對ニ關内ニ進出セサル旨ヲ公表スルハ雜色軍ノ士氣ニ關係スルヲ以テ此ノ點ハ慎重ナル考慮ヲ要スヘシ

⁽³⁾但シ關内進出ハ列國トノ紛議ヲ惹起スル虞アレハ假令萬一山海關方面ヨリ進出スル事アリトスルモ右ハ軍ニ内部擾亂ノ切掛ヲ付クル爲ニシテ右目的達成ノ上ハ直ニ軍隊ヲ引揚クル事必要ナリ學良ノ後釜トシテハ國民黨反對ノ國家主義團體タル中國青年黨ノ盟主曾琦等最モ適任ナルカ同人等ハ目下實力ヲ有セサルヲ以テ差當リ蔣張双方ト好關係ニアル段祺瑞ヲ以テ之ニ當ツルノ外無カルヘク滿洲國發達ノ過渡期ニアリテハ滿洲ト支那トノ軌轢ヲ少クスル爲蔣介石トモ相當ノ聯絡アル人物ヲ河北ニ据エル事必要ナリト考ヘラル

（三）段ノ南下ニ關シテハ自分ハ全然關係シ居ラサルヲ以テ其ノ目的等窺知シ得サルモ前記平津地方ノ空氣及段派内部ノ事情等ヨリ察スルニ段ノ部下中ニハ他日段ヲ學良ノ後

軍側ノ豫定計畫ニ基クモノナリ等ノ趣旨ヲ打電シタル向モアル趣ノ處（一）熱河問題（二）滿洲國ノ對學良政策及（三）段南下ノ用務等ニ關シ廿四日板垣カ須磨ニ語レル所要領左ノ通何等御參考迄

（一）熱河問題ノ政治的解決ハ滿洲國側ノ最モ希望スル所ニテ現ニ熱河軍及同地義勇軍中ニハ滿洲國ニ投降ヲ申出テ居ルモノ多數アリ目下待遇條件等ニ付接洽中ナリ外間熱河解決後ハ滿洲國ハ更ニ平津地方ニモ進出スヘシトテ危惧ノ念ヲ抱ク者モアル模様ナルカ長城ヲ以テ滿洲國ノ境界ト爲シ熱河問題解決後ハ長城以南ニ絶對進出セサル方針ハ中央ノミナラス出先軍憲ニモ充分注意シ居リ且滿洲國トシテモ東四省以外ニ手ヲ出ス餘裕無シ

⁽²⁾（二）學良ハ滿洲國軍及關外各種軍隊ノ舊主タル關係上同人家平津地方ニ散在スル新義勇軍ニ對スル援助等モ然ル可キ事乍ラ滿洲國ノ發達ニトリ精神的ニ重大ナル障礙ナレハ學良タケハ是非之ヲ追出ササレハ滿洲國ノ治安維持シ難シトハ滿洲國側一般ノ信念ナリ而シテ學良打倒ノ方策ニ關シテハ軍側ニ於テモ種々考究中ナルカ北方將領中ニハ學良^{（軍方）}下ノ軍隊及各種雜色軍隊中ヨリ先ツ學良追出シノ

釜ニ据エル際

⁽⁴⁾國民ヨリ段ハ日本側ノ策謀ニ依リ擁立セラレタルモノナリ等ノ賣國奴扱ヲ受クルヲ惧レ表面上蔣介石ト一致シテ國難ニ當ラントスル一種ノ「カモフラージュ」ヲ作り置ク必要有ル旨ヲ方說^{（方）}シ居タル者モ有リ蔣トシテモ結局學良ヲ見放ササルヘカラサルヲ感知シ日本側トモ良キ段ヲ擔ギ上ケ追テ滿洲國ト支那本部トノ間ニ同人ヲ中心トスル緩衝地帶ヲ作り上ケ漸次日支直接交渉ノ氣運ヲ作ラントスル下心ヲ有スルモノノ如ク又學良トシテモ結局下野ノ已ム無キヲ覺悟シタル爲茲ニ段ノ南下トナリ南京ニテ三省會合^{（軍方）}ノ上右ノ點ニ付協議ヲ遂ケタルモノト想像セラル云々

尙板垣ノ來滬ハ中央部ニ對シテモ全然內密ナル趣ニ付右談話ハ部外祕ニ願ヒ度シ

北平、天津、南京へ轉電シ上海へ轉報セリ

5 昭和8年2月2日 在濟南西田（畊一）總領事より内田外務大臣宛（電報）

中国側対日動向に関する姚以价の分析について

濟南 2月2日後発
本省 2月3日後着

第二六號

三十一日姚以介⁽¹⁾本官ニ對シ

一、日本軍ハ愈熱河攻撃ヲ開始スルモノノ如ク學良トシテモ責任上將又熱河ノ占領ハ北平方面日本ノ掌中ニ置カルル事トナレハ相當防備シ居リ日本軍モ準備ニ怠リハ無カラシモ完全ニハ行カサル可ク今春ヨリ夏ニ掛ケ相當ノ交戦アル可シト思料セラルル處支那側ハ熱河破ルレハ更ニ兵ヲ退キテ抗日ヲ續行ス可ケレハ現在ニテハ日本軍ハ平津ヲ攻撃セサル如キ態度アルモ勢ヒ同方面ニモ戰禍免カレサル可ク來年邊リハ益々時局重大性ヲ帶フニ至ル可シ

二、日支紛爭ニ付中國側ハ聯盟ニ據ルモサシタル效果無キハ漸次自覺セル模様ナルカ尙ニ割ハ希望ヲ棄テス他方米露ニ日本ノ牽制策依頼心ハ二割アリ残り六割ハ支那自力ニテ解決ヲ要ストセル處支那内ニテモ共產黨ハ別トシ國民黨及在野派ヲ綜合スルニ二派アリ(一)ハ東亞ノ和平的見地ヨリ歐米各國中國ニ同情スルモノアリト雖結局政治又ハ經濟的ニ中國ニ於テ利益ヲ獲得セントスル觀念ニ外ナ

ラサレハ日本ノ要望ニ或ル程度讓歩シテ之ヲ容レ日支提携シテ中國ノ眞ノ建設ヲ圖ル要アリトナスモノニシテ(一)ハ日本ノ對華政策ハ領土狹少ナレハ領土の侵略ハ傳統的ナレハ一時妥協ストモ結局蜀⁽²⁾ヲ得テ隴⁽³⁾ヲ望ムニ至ル可キニ付之レカ對抗ニハ歐米ニ縋ルノ外ナシトスルアリ(一)ハ段祺瑞ノ如キ之ニ屬シ韓モ同様ノ意ヲ有シ蔣介石ハ大体(一)(二)中間ニ屬シ日本ト交戦シ得サルハ充分承知セルモ今日ノ事態ハ日本ノ鼻息荒キト兩國ノ感情尖鋭對立セル爲國民ヲ納得シ得ス又日本側ニモ同様ナル考ヘヲ持テルモノ有ランモ責任者トシテハ實行シ難ケレハ結局當分ハ時局ノ成行ヲ見ルノ外無シ

三、⁽²⁾自分カ先般韓ト北上セシ際段派要人側トハ或ル筋ヲ經テ種々話合タルカ段今回ノ南下ハ蔣トシテハ段ヲ引出シ段ニ對スル世上種々ナル疑惑ヲ明カナラシムルト共ニ徒ラニ抗日ヲ唱フルモ簡單ニハ實行シ得ラレサルヲ段ノ態度ヲ藉リテ國民ニ示シ且ツ對外的ニハ一致シテ日本ニ當ル可キヲ見セン爲ニシテ段トシテモ從來日本トノ關係猜疑ヲ南下ニ依リ不言ニ釋明シ唯強硬ナル態度ヲノミ採ルトモ日本ヲ屈服シ得ラレサルヲ國民ニ知ラシメントスル意

一 日中外交關係一般

モアリ双方利用シ合ヘル状態ナリ日本トシテハ聯盟ノ關係如何ハ兎モ角トシ滿洲國ハ既成事實トシテ存在セシメ支那本部トノ間ニハ可然直接交渉ニ依リ妥協セントスルカ如キモ現在ノ兩國感情惡化ニテハ(一)意思アルモノモ兩國和平解決方法無ク此處一兩年中ニハ平和實現セサルヘシ四、聯盟トシテハ日本カ假令脫退ストモ直ニ壓迫的行爲ヲ採リ難ク米露トシテモ亦直ニ直接行動ニ出テサルニ付結局日支双方ノ關係ヲ更ニ尖鋭化シ双方ノ疲弊ヲ待チ壓迫ヲ加ヘントスル考ヘナルヤニ認メラルル處斯デハ日支双方ノ損失ニシテ尙今后二、三年今日ノ如キ状態ヲ繼續セハ自然其點ニ到達ス可キヤニ考ヘラルルニ付右ノ如キ事態ニ至ラサル間ニ速ニ解決セントセハ日本ハ熱河ヨリ更ニ平津ニ出テ山東河南ニ長驅占領ノ行動ヲ敢行センカ日本ノ疲弊モ早く到來シ支那トシテモ廣東派カ強硬ナル抗日ヲ唱ヘ乍ラ内心蔣ニ反對シ馮、閻等ノ對日ヲ云々スルモ本意ナラサルカ如キ事無ク眞劍ニ一致スルニ至ル可ク其機ニ乘シ日本ハ支那本部ヲ侵略スルノ意思無シトテ撤兵ヲ表明スルニ於テハ自然双方ニ和平解決ノ機ヲ早ムルニ至ル可シ但シ日本カ右ノ如キ行動ニ出テンカ恐ラク日支

兩國ノ疲弊ヲ待タスシテ日本壓迫ヲ始メ遂ニ世界戰爭ノ如キヲ惹起ス可キ虞アルニ付日本トシテモ斯ノ如キ斷乎タル行動ハ實行シ得サル可キニ付平和ノ見當付カサル次第ナリ云々ト内話セルニ付

本官ハ日本ハ滿洲本國ノ完成ヲ援助スルト共ニ日支提携ニ依リ東亞保全ノ外他意無キニ付輕々ニ支那本部ニ於テ無用ノ軍事行動ヲ採ル事無シト答ヘ置ケリ當方面空氣御參考迄支ヨリ上海ヘ、滿ヨリ新京ヘ轉報アリタシ

支、北平、漢口、廣東、滿ヘ轉電シ、青島、天津、南京、芝罘ヘ暗送セリ

6 昭和8年2月17日 在中国中山(詳一)公使館一等書記官より
内田外務大臣宛(電報)

平津銀行團による借款成立など宋子文の張學良援助策および宋らの抗日政策提唱への蔣介石の不滿に関する情報について

北平 2月17日前発
本省 2月17日前着
第七二號

往電第七一號ニ關シ

目下來平中ノ行政院秘書黃濬カ十六日原田ニ爲セル内話左ノ通り

一、宋子文ト平津銀行團トノ間ニ纏マリタル借款ハ救國公債ニ非スシテ國庫券ニシテ額面二千萬元ニ對スル手取金一千二百萬元ヲ中央ト前記銀行團ニテ折半負擔スルモノニテ右六百萬元ノ引受割當ハ中國交通ノ二銀行ニテ二百萬元中南、大陸、金城、中國實業ノ四銀行ニテ二百萬元鹽業、河北兩行一百萬、邊業銀行一百萬等ニテ一回四百萬元宛三箇月ニ分ケ北平財政委員會ニ交付ノコトナリ居レリ
二、南京對學良ノ關係ハ蔣、張間ハ昔日ノ如クナラス寧口宋張間ノ關係密接ニシテ右ハ宋カ學良系ノ邊業銀行ニ巨額ノ投資ヲ爲シ居ル等ノ財的關係モ其ノ主要理由ヲ爲シ居レルカ今同宋カ前記借款ヲ成立セシメタル外軍事方面迄種々劃策セルハ全ク學良援助ニ外ナラス
三、右ノ如ク宋ハ北ニ學良南ニ十九路軍ヲ操リツツ中央ノ政權ヲ壟斷シテ羅文幹、顧維鈞等ノ英米派ト組ミ以夷征夷策ヲ堅持シ抗日ニ邁進シツツアルカ蔣介石ハ内心之ニ不滿ニテ今回南昌ニ去リタルモ實ハ剿匪ニ託ツケテ重大時

天津 3月10日後発
本省 3月10日後着

第一五二號

本十日大公报主筆張熾章ノ内話要領左ノ通り御參考迄

一 日中外交關係一般

蔣介石北上ヲ機會ニ石家莊方面ニ赴ケル同社胡霖ヨリ蔣ノ北上ハ全ク學良下野ニ伴フ北支接收ヲ目的トスルモノト觀測セラルル旨來電アリタル處一方九日南京發電ハ中央ニ於テ黃郛ヲ北平市長ニ起用セントスル消息アルヲ傳ヘ居リ右ハ必スシモ實現不可能ナラスト認メラルル次第ナルカ中央カ曩ニハ比較的の日本側ニ當リ好キ何應欽ヲ北上セシメ更ニ黃郛ヲ北平市長ニ任命セントスルハ當方面ノ事態ヲ重大視シ穩健ナル大頭ヲ北支ノ重要地位ニ据ヘ北支維持ニ遺憾無キヲ期シ其ノ間對日關係ニ於テ事態擴大防止ニ意ヲ用ヅ居ルヲ充分觀取セラルル最近中央軍ノ北上ヲ傳フルモ目下中央トシテハ長江各地ニ於ケル共產軍ニ對シテハ勿論西南軍ニ對シテモ特ニ警戒ヲ要スルヲ以テ事實中央軍ノ大部分ハ依然之等ニ備ヘラレ其ノ北上セルハ僅ニ一部分ニ過キササル實情ナルヲ以テ蔣ニシテ自暴自棄ニ陥ラサル限リ北支ニ於テハ深く對日關係ヲ考慮シ地方維持ヲ主眼トシ穩健ナル態度

局ノ責任ヲ回避センカ爲ニシテ蔣トシテハ適當ノ機會ニ學良ヲ引退セシメ英米派ヲ却ケ汪精衛ヲ行政院長ニ引戻シ黃郛ヲ外交部長ニ任用シテ對日外交轉換ヲ計ラムト企圖シツツアル模様ナリ從テ學良ハ前記軍費取得ニ依リ茲約三箇月ハ其ノ命脈ヲ保ツヘキカ

(一) 軍費ノ不足
(二) 日本軍ノ熱河攻撃
(三) 汪精衛ノ歸來
(四) 内部ノ分裂
等ニ依リ愈今回ハ失脚ヲ免カレサルヘキヤニ見ラル支、滿、南京、漢口、廣東、青島、濟南、天津、奉天、哈爾賓ヘ轉電シ張家口ヘ暗送セリ
支ヨリ上海ヘ、滿ヨリ新京ヘ轉報アリ度シ

7 昭和8年3月10日 在天津桑島(主計)総領事より
内田外務大臣宛(電報)

黃郛起用など對日關係を顧慮した蔣介石の華北方面時局処理方策に関する張熾章大公报主筆の内話について

ヲ採ルモノト觀測セラル

支ヨリ上海ヘ、奉天ヨリ錦州ヘ轉報アリ度シ
支、北平、濟南、漢口、南京、廣東、滿、奉天ヘ轉電セリ

8 昭和8年3月15日 在中国中山公使館一等書記官より
内田外務大臣宛(電報)

張學良下野は蔣介石の策謀によるとの情報について

北平 3月15日後発
本省 3月15日後着

第一三三號

往電第一一五號ニ關シ

十五日林文龍カ原田ニ對シ爲セル内話左ノ通
一、支那ノ抗日政策モ學良ノ下野ニ依リ一新期ヲ劃シ漸次親日政策ニ轉換セントノ曙光見ユルハ同慶ノ至リニシテ一時黃郛ノ北上說アリタルモ同人ニ其ノ意無キ爲右ハ實現セサルヘク從テ周市長ハ依然留任ノ模様ニテ又停戰其ノ他日本側トノ話合ハ劉崇傑之ニ當ル模様ナリ
二、古北口方面ニテハ中央軍カ東北軍ノ熱河敗退ノ不甲斐ナ

天津 3月17日後発
本省 3月17日後着

第一六八號(極秘)

蔣介石ハ目下東北軍ノ收拾及北支將領懷柔ニ腐心シ居リ日本トノ直接衝突ヲ避クルノ態度ナルヤニ認メラルル處當方ニハ東北軍中ノ部隊其他北方將領ヲ糾合シ或ハ廣東派トモ連絡シ華北ニ第三勢力樹立ノ運動相當ニ行ハレ居ル處其ノ可否ハ別トシ之カ急速實行ハ目下ノ處困難ナリト認メラルルカ邦商モ亦財政的並軍事的内部問題對共匪問題及言語習慣ノ異レル南方軍ノ駐在ハ北方軍民ヨリ喜ハレサル事實更ニ廣東派ノ對蔣策動等ニ鑑ミ北支ノ支配ハ一時的ナルヘシトノ觀測モ行ハレ居ル次第ニテモアリ何レニスルモ當分靜觀ノ外無カルヘキ處出來得レハ此ノ際試ニ或程度迄蔣ヲ説キ例ヘハ(一)韓ノ山東ニ於ケルカ如ク何應欽ヲシテ華北ニ於ケル黨部ノ活動ヲ彈壓セシメ日支關係好轉ニ第一歩ヲ進ムルコト(二)抗日ヲ高調セサルコト(三)熱河ニ對シ政治的並軍事的工作ヲ爲サス消極的態度ヲ執ルコトニ付注意ヲ喚起シ置キタル上蔣ノ態度ヲ見ルコトトシ之カ爲ニハ或ハ「ラン

キヲ嘲笑セル結果東北軍ハ然ラハ中央軍自ラ戰線ニ立ツヘシト主張シ反撃ハ愚カ目下内輪喧嘩中ニテ宋哲元ノ反撃ハ之ニ依リ名聲ヲ博シ今後ノ地歩ヲ獲得セントスル魂膽ニ出テタルモノニテ其ノ反撃モ永續性無シ
三、今回學良ノ下野ハ全ク蔣ニシテ遣ラレタルモノニテ學良ハ蔣ト會見迄ハ蔣ノ慰留ヲ期待シ場合ニ依レハ前線ニ赴キ抵抗ヲ装ヒツツ局面ノ轉換ヲ計ル腹ナリシカ蔣ト會見スルヤ蔣ヨリ學良カ其ノ前日發セル辭職電報(往電第一一六號)ニ引懸ケ暫シ休養然ルヘキ旨言渡サレタル爲遂ニ拔キ差シナラヌ破目ニ陥リタル次第ニテ恐ラク蔣ハ學良上海出發ト共ニ其ノ軍隊ヲ舊西北軍同様支那各地ニ分散セシメ學良勢力ノ崩解ヲ計リ從テ今後ノ學良ハ馮玉祥ト同様ノ運命ニ陥ルヘシ
前電ノ通り轉電セリ
支ヨリ上海ヘ轉報アリ度シ

9 昭和8年3月17日
在天津桑島總領事より
内田外務大臣宛(電報)

蔣介石に対し華北における日中關係好転など對

「ブソン」邊リヲ動カスコトモ一方法カト思考セラル
右卑見御參考迄
支、北平ニ轉電セリ

10 昭和8年3月21日
在南京上村總領事代理より
内田外務大臣宛(電報)

蔣介石と羅文幹の協議により決定された國民政府の新外交方針に関する情報について

南京 3月21日後発
本省 3月21日後着

第一八五號
諜報者カ外交部秘書ヨリノ聞込トシテ内報スル所ニ依レハ羅文幹カ蔣介石ト協議ノ結果決定シタル國民政府ノ所謂新外交方針ハ大要左ノ如キモノナル趣ナリ
右ハ素ヨリ支那側ノ腹案ニテ未タ交渉ヲ開始シタルモノニ非ス將又其ノ眞僞モ疑問ノ餘地アル次第ナルカ御參考迄
二、今後ノ對日外交ハ交渉ヲ必スシモ拒否セサルモ原則トシテ積極長期抵抗ノ既定方針ヲ變更セス其ノ間交渉ノ可能性アル場合ニ於テモ單獨交渉ヲ避ケ利害關係有ル列強ノ

參加ニ依リ公開會議ノ形式ヲ以テ折衝ス

三、其ノ他ノ諸國ニ對シテハ英、米、佛、蘇聯等大國側ト密接ナル關係ヲ結ヒ就中蘇聯ニ對シ外交ノ重點ヲ置キ先ツ蘇支不侵略條約ヲ締結シ次テ蘇支秘密協定ヲ交渉ス其ノ骨子ハ支那ニ於ケル蘇側ノ赤化宣傳ヲ許サス又支那カ今後獨、佛等ヨリ武器ヲ購入スル場合日本ノ妨害有ル時ハ庫倫ヲ經テ北支那ニ輸送スルコトトシ其ノ際蘇側ニ於テ必要ノ便宜供與ヲ爲スコトヲ要求シ同時ニ將來庫倫、張家口間鐵道建設ノ場合蘇支合辦トスルコトヲ容認ス
外蒙ニ於テハ現狀維持ノ狀態(獨立ハ認メサル由)ニ於テ蘇側ノ特殊利益ヲ承認シ又蘇聯國營貨物ノ支那内地ニ於ケル「ダンピング」ニ反對セス又蘇聯軍事教官ヲ招聘ス尙又東支鐵道ニ關シ蘇側ノ要求有レハ其ノ回收期限ヲ二十五年間延期スル事等ヲ認ム可キ方針ナリ

三、佛國ニ對シテハ聯盟ニ於ケル其ノ支持ヲ必要トスル關係上前述蘇支交渉ニ付同國ノ了解ヲ求メ且武器ノ購入及借款契約(目下八千萬法借入交渉中ナル由)ニ付極力商議ス張學良ハ先ツ佛國ニ赴キ顧維鈞ト協力シ之カ實現ニ努力ス
四、英國ニ對シテハ西藏、四川地方ニ於ケル鑛山ノ開發ヲ許

容シ遍馬問題ニ付讓歩ス又團匪賠償金ヲ流用シ英國ヨリ機械、鐵道材料、武器、潛水艦ヲ購入ス

五、米國ニ對シテハ特ニ伍朝樞ヲ派遣シ中部支那ノ鑛山開發ヲ許容シ借款ニ依ル武器機械ノ購入及顧問ノ招聘ヲ爲スト共ニ大西洋艦隊ノ太平洋常駐方ヲ懇請シテ日本海軍ヲ牽制セシム云々

支、北平、滿、天津、廣東へ轉電セリ
支ヨリ上海へ轉報アリタシ

11 昭和8年4月15日 在中國堀内(干城)臨時代理公使より
内田外務大臣宛(電報)

我が方の对中国政策を非難した汪兆銘行政院
長の新聞記者への談話について

上海 4月15日後発
本省 4月15日後着

第二〇一號

十四日來滬ノ汪精衛力新聞記者ニ爲セル談話中日支問題關係左ノ通

(一)中日妥協ノ謠言有ル處妥協ノ爲ニハ日本カ東三省及熱河

上海へ轉報セリ

12 昭和8年4月17日 在濟南西田總領事より
内田外務大臣宛(電報)

内政上の諸要因により蔣介石は抗日よりも共產黨勢力討伐を優先するとの姚以价などの観測について

濟南 4月17日後発
本省 4月17日後着

第一二四號

往電第一一九號ニ關シ

一、十四日韓主席本官ニ對シ日本軍長城以南ニ進出ストモ支那側ハ急ニ抗日ヲ停止スル能ハサレハ結局或ル地點ニ對峙戰ヲ形成シ長城線同様ノ小競合ト宣傳策ヲ繰返スヘク斯クシテ紛爭ニ局部的ナリトモ解決ノ一段落ヲ告グルノ時期急ニ到來スヘシトハ考ヘラレスト(述へ)居タル所
二、十六日姚以价モ本官ニ對シ同様ノ意味ヲ述ヘタル後元來西南派其他蔣直系以外ノ各派ニシテモ蔣介石カ長期抗日ヲ表明スルノミニテ戰フカ如ク和スルカ如キ態度ニ不滿

ニ對スル侵略行爲ヲ放棄シ滿洲ノ傀儡政府ヲ取消スカ又ハ支那カ日本ノ侵略行爲及傀儡政府ヲ承認スルコトカ必要ナルカ日支何レモ之ヲ肯セサル現狀ニテ如何ニシテ妥協シ得可キヤ

(二)余ノ主張スル一面抵抗一面交渉ノ方針ハ今モ變ラズ勝利ノ自信ハ無キモ全力ヲ盡シ抵抗ノ決心ハ有り蔣委員長ノ北上督師ニ依リ大發展ハ無キモ熱河ノ役ニ比較シ抵抗ノ強キコトハ事實ナリ抵抗ノ決心ヲ抱キ全力ヲ盡ス以上一時ノ勝敗ハ問題ニ非ス聯盟ノ決議ハ日本ニ道德的制裁ヲ與ヘタルモ今後經濟的軍事的制裁ニ進ムヤハ斷定シ難キ處其處迄進マサレハ道德的制裁モ空言ト成ル可シ日本ノ新聞ハ支那ニシテ積極抗日ヲ續クルニ於テハ日本ハ關内ニ進攻ス可シト稱シ居ルモ日本國民中ニハ現在ノ如ク對支侵略ヲ續クルニ於テハ中日共ニ亡フ可シトノ正當論ヲ爲スモノ有ルハ注意ヲ要ス可ク抵抗ノ外世界各國ヲ喚起シテ日本ノ侵略行動ニ有效ナル制裁ヲ加フルト共ニ日本國內ノ有力者ヲ喚起シテ彼等自身ノ侵略行動ヲ制止セシムル様努力スルヲ要ス

滿、北平、天津、南京、廣東へ轉電セリ

ヲ懷キ居ル所西南派ノ如キハ滿洲問題ナカリセハ早くニ蔣派ト正面衝突ヲナシ居ルヘキモ外ハ滿洲問題ニテ日本トノ紛擾アルニ内部ニ共產黨問題等アリテ一意反蔣ニ邁進シ得サル實狀ニアリ假令或ル時期ニ蔣介石ヲ倒シ得ルモ之レカ繼承者ハ前同様抗日ヲ繼承スルニアラスハ又倒壊スヘク而シテ反蔣派モ抗日實行ノ力ナキハ蔣ト同様大體承知シ居リ

三、蔣介石カ共產黨ヲ壓迫シツツアルハ主トシテ浙江派又ハ上海等ノ財閥ノ意見ニ依ルモ他方歐米各國トシテハ抗日ノ爲長江方面ニ共產黨ヲ跋扈セシムルハ事尙重大ナル不利益ナルヲ承知セルヨリ各國ノ同情ヲ得テ其ノ支持ヲ受ケントスル意ヲモ含ミテ最近蔣ハ抗日ヨリモ先ツ共匪討伐ヲ高唱セル次第ナリ

四、大體支那ノ共產黨ハ第三「インタナショナル」トハ元ヨリ關係アルモ蘇聯邦ノ共產黨トハ多少性質ヲ異ニシ國民黨一部ノ政綱ナルニ蔣ハ全然彼等ヲ排斥シタリ現ニ朱德ノ如キハ朱培德ノ舊部下ニシテ相當勢力アリシ人物ナルカ蔣ハ同人ヲ任用セサリシヨリ共產黨トナリテ中央ニ反對シ賀龍ノ如キモ亦同意味ニテ中央ニ反對セリ支那ノ歴

史ニ徴スルニ張(脱)關羽ノ如キ皆當時ノ政府ニ容レラレスシテ一時ハ土匪又ハ反賊ト見做サレシモノカ蹶起シテ成功セシ人物ナリ故ニ蔣介石ノ勢力没落セハ其ノ直系部隊ハ又當分政權獲得者ニ對シ土匪トナリテモ反對スルノ外ナカルヘシト思ハル兎ニ角目下ノ蔣ハ滿洲問題ノ外ニ華北政局ノ危機、共產軍及西南派、其他反蔣派等ノ關係ヨリ甚タ困難ナル立場ニアリ

其尙馮玉祥ハ依然張家口ニアリ蔣介石ノ勸誘アルモ南下セス假令日本軍來襲ストモ動カストテ舊部下及孫殿英ヲ統ヘテ同方面ニ割據シ華北政變ニ乗セン意嚮ナルカ舊西北軍トシテモ必スシモ馮擁護ニ一致セルニアラサレハ馮ノ迷惑通りニ行クヤハ疑問ナリ云々ト内話セリ

前電ノ通り轉電セリ

13 昭和8年5月17日 在中国有吉公使より
内田外務大臣宛(電報)

日本軍による蔣介石打倒は共產黨勢力拡大を意味するため蔣を利用して同勢力討伐を図る方が日本にとり得策との陳彬龢見解について

ニ、自分(陳)ハ永年日本ヲ研究シ日本民族力難局打開ニ示ス底力ニハ常々敬服シ居リ又此ノ儘ニテハ全支ノ共產化ハ早晚避ケ難シト信スルモ(陳ハ支那ノ前途ヲ絶望視シ結局内地ハ共產化シ海岸線ハ國際共管トナル外ナシトノ持論ナリ)日本トシテハ何モ今直ニ斯ル困難ナル事態ヲ自ラ招來スルニモ當ルマシク寧ロ此ノ際ハ蔣介石ヲ活カシ之ヲ利用シテ共產軍討伐ニ當ラシムルカ如キ方法ヲ講スルコト得策ナリ

三、蘇側今回ノ東支賣却提議ニ對シ日本側ニ於テハ蘇側ノ内部的弱點之ニ依リ暴露セラレタリトナシ近キ將來ニ於ケル蘇側ノ極東ヨリノ總退却ヲスラ期待スル向モアリ自分モ之ヲ否定スル材料ハナキモ蘇側力近來益々平和政策ニ徹底シ行ク點ハ注目ニ値スヘク帝國主義的領土的野心ヲ捨テテ本來ノ面目思想的世界征服ニ邁進セントスル蘇聯今後ノ活躍コソ警戒ノ要アリ東支ノ賣却如キニ安心シ國內ノ困難ヲ輕視シ一氣對支問題ノ解決ヲ計ラントスルカ如キハ不識裡ニ蘇側ノ術策ニ陥ルノ危險ヲ冒スコトナルヘシ

滿、北平、天津、南京へ轉電セリ

上海 5月17日後発
本省 5月17日後着

第二六八號
日本及蘇聯通トシテ有名ナル陳彬龢(前申報主筆)ノ十六日館員ニ對スル談話左ノ通り

「最近日本軍ノ進出振り及板垣少將ノ暗中活動(五月十一日申報ハ北平特別通信トシテ日本軍ハ板垣ヲ天津ニ密派シ漢奸及失意軍人政客ヲ買収策動中ノ旨詳細報道シ居レリ)等ニ鑑ミ日本軍ノ平津入りハ最早不可避ノ如ク殊ニ支那側ハ表面上今尙徹底的抵抗ノ建前ヲ執リ居ル關係上武藤司令官ノ聲明ニ依ルモ日本軍ノ進撃ハ勢ヒ停止スル處無キヤニ見受ケラレ結局日本軍部ノ腹ハ蔣介石及國民黨勢力ノ完全ナル打倒ニ在リト想像スルノ外無キ處數年來共產軍勢力著ク伸張シ來リ蔣介石力辛ウシテ其ノ勢ヲ喰止メ居ル現状ニ於テハ蔣ノ没落ハ即チ群小軍閥割據時代ノ再現、進ンテ共產軍勢力ノ急激ナル全支的擴大ト成ルヘク假令傳ヘラルルカ如ク滿洲國ノ前衛トシテ華北ノ第三勢力樹立ニ成功スルモ之ニ依リ日本ハ直ニ共產軍ト對峙スル事ト成リ過去ニ數倍スル困難ニ逢着スルニ至ルヘシ

上海へ轉報セリ

14 昭和8年5月28日 在ニュー・ヨーク堀内(謙介)総領事より
内田外務大臣宛(電報)

対日妥協に断固反対の宋子文意向に関しソコ
ルスキー談話について

ニュー・ヨーク 5月28日後発
本省 5月28日後着

第一五八號(極秘)
往電第一五七號ニ關シ

御承知ノ如ク「ソコルスキー」ハ先年宋子文ノ顧問格トシテ極メテ親密ノ間柄ナリシモ其ノ後宋ノ國際聯盟接近策以來疎遠トナリタル儘今日ニ及ヒ居リ過日某支那人ノ斡旋ニ依リ久シ振リニテ面談セル次第ナル處其際宋ハ日支關係ニ付左ノ趣旨ノ意見ヲ洩セル趣ナリ

(一)日本カ今日北支ニ於テ爲シツツアル所ハ日支兩國ノ將來ニ鑑ミ重大ナル誤ト言ハサルヲ得ス日本カ一旦同地方ヨリ蔣介石ノ勢力ヲ驅逐シタル上ハ今後恐ラク數十年ニ亘リ治安ノ回復ヲ望ミ難カルヘシ殊ニ同地方ニ於テ支那側

カ日本ノ勢力ニ反抗スル爲ニハ必スシモ軍隊ヲ必要トセス學生其ノ他排日貨ノ策動ハ長ク絶ユル事無カルヘク斯クシテ日支間和解ノ望ハ全ク失ハレタリト言フヘシ

(二) 自分(宋)ハ今日ノ事態トナリテハ飽ク迄モ日本トノ妥協ニ反對シ今後幾十年ニ亘リテモ戦フヘク堅キ決心ヲ有ス蔣介石モ日本ト妥協セハ結局其ノ地位ヲ保ツ事困難ナルニ至ラン

(三)⁽²⁾「ソ」ヨリ兎モ(脱?)支那側カ北支方面ニ於テ日本軍ニ反抗スル事ヲ差控ヘナハ日本軍モ餘リ進出セス其ノ間ニ日本ノ文治派ノ意見モ漸次勢ヲ得テ支那側ト合理的和解ノ機運モ生シ來リシナルヘキニ支那側カ斯ル方策ニ出テサリシハ遺憾ナリト述ヘタルニ宋ハ日支雙方共右ノ事態ヲ阻止スル力無キ爲致方無シト答ヘ

(四) 又「ソ」ヨリ支那ノ非常時局ニ際シ貴下ハ良ク長ク海外ニ逗留シ得ルヤト質問シタルニ對シ宋ハ默シテ答ヘサリシ趣ナリ

(五) 宋ハ更ニ滿洲問題ニ關シテハ差當リ米國ヨリモ又國際聯盟ヨリモ援助ノ見込ナカルヘキヲ知ルモ今後支那内政上ノ改革ニ付テハ聯盟ノ援助ヲ相當期待スル旨ヲ語レリ

ル態度ニテ言葉少ク應酬シ尙眼病治療ノ爲先日來出勤セス今後引續キ一、二ヶ月ハ勤務シ得サルヘシト述ヘ又前顯兩國關係ニ付交談ノ際自分(羅)ノ努力ハ却テ兩國ノ爲ニナサルヤモ知レストテ笑話ニ紛ラシ多少捨鉢ノ態度ヲ示シ關稅問題ニ付テモ内部ノ不平ヲ漏シタル等(往電第三二五號)總テ熱意ナキ様子ニ見受ケラレタルカ察スルニ羅ハ此ノ上永ク其ノ地位ニ止マル考ナク(數日來日高總領事ニ於テモ此ノ種情報ヲ入手シ居ル趣ナリ)天津發大臣宛往電第三一〇號及當方電報ノ内情ハ事實ナルヘキヤノ印象ヲ得タリ尙羅ハ九日夜徐謨及鄭天錫ト共ニ主人役トナリ本使及隨員等ヲ非公式ニ晚餐ニ招待セリ御參考迄

(外部ニ發表セサル様致度シ)

支ヨリ上海へ轉報アリタシ

支へ轉報シ天津、濟南、青島、漢口、福州、廣東、滿、北平へ轉電セリ



16 昭和8年6月13日

在中国有吉公使より
内田外務大臣宛(電報)

蔣介石・汪兆銘らの日中關係改善への努力を

尙「ソ」自身トシテハ宋ハ蔣介石ト共ニ今ヤ支那内政上ノ地位困難トナリツツアリ早晚投出シノ已ム無キニ至ルニ非サヤト觀測シ居リ宋ノ談話裡ニ固キ決意ヲ觀取シタルト共ニ何ト無ク「デスパレイト」ノ印象ヲ得タル由ナリ米、英ニ轉電セリ

英ヨリ在歐各大使ニ轉電アリ度シ



15 昭和8年6月9日

在南京日高(信六郎)總領事より
内田外務大臣宛(電報)

羅外交部長は長くその地位に留まる意向なし
との觀測について

南京 6月9日後発
本省 6月9日後着

第三二六號

有吉公使ヨリ左ノ通

八日本使羅文幹ヲ訪問(私宅ニ)シタルカ羅ハ眼病ノ治療ハ抄々シカラサル趣ニテ何時ニナク元氣銷沈ノ体ニ見受ケラレ本使ヨリ話掛ケタル日支關係ノ改善、排日運動ノ停止、新關稅率ニ對スル警告等ノ問題ニ對シテモ極メテ氣乗セサ

評價し世論の刺激を避けるためしばらく北上
見合せ方意見具申

上海 6月13日後発
本省 6月13日後着

* 第三三四号

(編註) 往電第三一三三号ニ関シ

一、南京側殊ニ王正廷等カ黃郛ノ措置等ニ對シ充分ノ諒解ヲ有シ居ルコト南京發閣下宛電報第三二四号ニ依リ御承知

(注精衛カ)

(羅電ニ)

ノ通ナル處黃郛ハ數日中ニ政務委員會ノ組織ヲ完了スル豫定ナルモ(十二日汪兆銘本使トノ談ニ依ル)諸軍ノ整理ニハ尙多少ノ日子ヲ要スヘク此ノ際我方出先官憲ニ於テ内密ニ黃郛側ヲ指導シ排日彈壓等ニ関シ充分ノ努力ヲ爲サシムルコトハ極メテ必要ナルモ右実行ニ関シ取急キ派手ニ交渉スルカ如キハ却テ事態ヲ紛糾セシムルノミニテ效果無カルヘク此ノ點ニ付テハ關東軍岡村參謀副長ヨリ本部ニ電報セル意見ハ本使ニ於テモ至極尤モト存シ居ル次第ナリ

ニ他方南京側ニ於テ蔣、汪等カ日支關係改善ヲ決意シ相當ノ努力ヲ爲シ居ルコトハ前記往電本使汪精衛會談ノ外特

ニ長江筋ニ於ケル排日力最近相当緩和ノ傾向ニアルコト
(九日上流ヨリ下江セル一遣司令官ノ本使ニ對スル實見
談ニ依ル)等ニ鑑ミ大体首肯シ得ラルル處我方トシテ右
改善實現ノ爲一面前記黃郛側ヲ指導シテ排日ノ彈壓ヲ實
現セシムルコトニ依リ

⁽²⁾ 北方延ヒテハ一般ノ空氣緩和ヲ計ルト共ニ他面南京政府
部内抗日論者ノ懷柔、輿論ノ指導及反蔣運動ノ防遏等困
難且機微ナル關係ニ善處シ居ル蔣汪等ノ努力(蔣汪等ハ
是等事情ノ爲今俄ニ親日方針ヲ標榜シ難ク表面ハ依然抗
日方針ヲ維持シ實際ニ於テ抗日緩和ノ方途ニ出テ居ルモ
ノト認メラル)ヲ效果アラシムル爲我方ヨリ支那側輿論
ヲ殊更ニ刺戟セサル様注意スルト共ニ南京側ト絶ヘス接
觸シ之ヲ内面的ニ鞭撻指導スルノ要アリト存セラル(右
ニ関シテハ北平発閣下宛電報第二四六号黃郛ノ意嚮モ考
量ノ價值アリト存ス)

三、我方トシテハ右ノ如キ事情ヲ考量ニ入レ少クトモ前記蔣
汪等ノ努力ノ結果ニ付大体ノ見据付ク迄(例ヘハ宋子文
ノ歸國前後ニ於ケル輿論ノ傾向又ハ各地排日情勢ノ趨向
ヲ見極ムル等)ハ北方及南京側ニ對シ絶ヘス内面的ノ鞭

ノ趣旨ハ

(一) 日支兩國ハ速ニ現在ノ不自然ナル抗爭狀態ヲ脱シ歐米諸
國ノ力ヲ借ラス相提携輔翼スヘキモノナリ其ノ爲ニハ先
ツ支那側ニテ新聞記事論說ヲ取締リ輿論ヲ善導シ他方在
外使節ニ訓令シテ日支國交改善ニ留意セシメ双方國論ノ
鎮靜ヲ圖リ次イテ日支文化協力事業ヲ興シ更ニ兩國商工
業者ヲ提携セシメ交互ニ日支ノ重要都市ニ會合ヲ催ス等
ニ依リ漸次經濟的協調ヲ實現セハ排日排貨運動等ハ自然
ニ消滅スヘク各種政治問題モ容易ニ解決セラルヘシ

(二) 政治問題殊ニ滿洲問題ハ至難ニシテ支那ハ滿洲國ヲ認ム
ル能ハサルト共ニ日本ニモ其ノ立場アリ世界各國亦滿洲
國否認ノ態度ヲ示シタル次第ナルカ何トカ双方ノ面目ヲ
立テ經濟上ノ實益ノ大部分ヲ日本ニ歸セシムルカ如キ方
法ニテ解決ノ途アルヘク其ノ爲日支双方ヨリ成ル常設委
員會ヲ設ケ兩國限ニテ各般ノ問題ヲ研究セシムルコト然
ルヘシ

ト云フニアリ朱ハ更ニ有吉公使ヲ訪問ノ前日汪ニ呼ハレ右
ノ趣旨ヲ敷衍説明シタル由ナルカ其ノ際汪ハ滿洲問題ハ六
ヶ數問題ナルカ日本ノ政策ハ現在軍閥ニ左右セラレ居ルニ

撻指導ヲ怠ラサルト共ニ表面ニ於テハ我方方針ノ確乎不
動ナルコトヲ徹底セシムル意味合ニテ今暫ク靜觀の態度
ヲ執ルコト適當ト認メラル旁本使トシテハ右ノ含ヲ以テ
今暫ク北上ヲ見合スコトト致度シ

編注一 『日本外交文書』滿洲事變第三卷、八八二頁。

編注二 同右、八九三頁。

編注三 同右、八八九頁。

17 昭和8年6月14日

在南京日高總領事より
内田外務大臣宛(電報)

日中双方により委員会を設置し滿洲問題解決
を研究すべき旨朱鶴翔の提案について

南京 6月14日後発
本省 6月15日前着

第三三三號(極秘)

公使發閣下宛電報第三三三號ノ三ニ關シ

十四日朱鶴翔カ絶對極秘トシテ本官ニ内話スル所ニ依レハ
朱ハ先般汪精衛ニ命セラレ極秘ノ意見書ヲ提出シタルカ其

ハ非スヤト思ハルト云ヘルニ依リ朱ハ必スシモ然ラス要ハ
支那側ヨリ誠意ヲ批瀝シ妥當ナル解決案ヲ提示スルニアリ
然ラハ日本政府モ穩健ナル態度ニ出ツヘク世界諸國亦支那
ヲ支持スヘシトテ日支提携ノ要ヲ力説シタル趣ナリ

⁽²⁾ 朱ハ本官ニ對シ自分ハ元來日支提携論者ニシテ米國出身者
等ノ遣口ハ頼ムヘカラサルモノヲ頼ムモノニシテ國ヲ誤マ
ルモノト信シ居リ滿洲ニ於ケル張父子ノ對日態度ハ今日ノ
不幸ナル狀態ヲ來シタルモノトシテ遺憾ニ堪ヘス先年閻錫
山ノ北平政府ニアリ外交ヲ主宰セル時モ誠意ヲ以テ日支間
懸案ノ解決ニ當リタル經驗アリ爾來汪トハ比較的親密ノ間
柄ナルニ付日支國交改善ハ原則論ヨリモ具体的問題ニ付双
方誠意ヲ以テ解決ニ當ルヘシトノ趣旨ヲ汪ニ吹込ミ居ル次
第二テ本タモ汪ニ面會スル筈ナリト述ヘタリ

右ニ對シ本官ヨリ朱ノ日支親善意見ニハ同感ノ意ヲ表シ其
ノ第一歩トシテ排日貨終止ノ急務ナルヲ力説シ滿洲問題ニ
付テハ本官ノ在歐中及其後本邦及滿洲ニ於テ見聞セル所ニ
依ルモ朝野ノ意見一致シ居ル一方滿洲國ノ存在ハ嚴然タル
事實ナルコトヲ指摘シ之カ解決ニハ時ヲ要スヘキモ支那側
ノ誠意ノ表示カ最モ肝要ナル點ニ於テ全然同感ナリト應酬

シ置ケリ

本件會談ハ朱ノ立場モアリ外部ニ發表セラレサル様致度シ
支ヨリ上海へ轉報アリタシ
支、北平、滿へ轉電セリ

18 昭和8年6月28日

在中国有吉公使より
内田外務大臣宛(電報)

中国は外国借款で交通などの開発計画を進め
日本に対抗する決意とのライヒマン発言に関
しアーベンド内報について

上海 6月28日後発
本省 6月28日後着

第三七〇號

宋子文ノ歸國ト共ニ停戰協定成立前後ヨリ主トシテ黃郛等
ニ依リ代表サレ來レル南京政府ノ親日的傾向モ逆轉スルニ
アラス(ヤ)トテ種々ノ臆測行ハレ居ル次第ハ屢次電報ノ通
リニ有之宋歸國後ノ出方ニ付未タ的確ノ觀測ヲ下シ難キモ
其後ノ情報左ノ通り、何等御參考迄

「ライヒマン」ノ實話ナリトテ二十七日「アーベンド」ノ

北平、南京、天津、廣東、滿ニ轉電セリ

19 昭和8年6月29日

在中国有吉公使より
内田外務大臣宛(電報)

日本に対する不信は中国識者間に一般的との
張公權談話について

上海 6月29日後発
本省 6月29日後着

第三七七號

往電第三七〇號ニ關聯シ

宋子文歸國後ノ態度ヲ觀測シ兼テ出來得ル限り之ヲ善導ス
ル爲豫テヨリ大村ヲシテ宋ノ友人關係ト接觸セシメ居ル處
二十八日張公權カ大村ニ語レル時局觀御參考迄左ノ通(本
件談話ノ出所及張ノ名ハ發表セサルコト致度)

一、自分ハ滿洲事變勃發當時恰モ滿洲ニアリ支那人トシテハ
充分事情ヲ了解シ得ル立場ニアリ當時宋子文等ニ對シ
種々獻策スル所アリタルカ不幸ニシテ錦州事件上海事件
或ハ意外ノ事變引續キ起リ爲ニ支那側識者ヲシテ自分ノ
言ヲ信セシムルコト能ハス自分自身トシテモ日本ノ遣口

須磨ニ語ル所ニ依レハ國民政府ハ今後トモ米國以外各國

ヨリ出來得ル限り借款ヲ爲シ支那ノ交通、教育、衛生等
開發計畫ヲ進メ以テ來ルヘキ日本ノ侵略ニ對抗スルノ決
意ヲ有シ居リ曩ニ「ラ」及宋等ニ依リ計畫セラレタル聯
盟及各國ノ援助ニ依ル支那富強計畫ハ今後モ繼續シ行ク
意嚮ノ趣ナル處(往電第三二五號ノ(二)參照)漢字紙報道ニ
依レハ宋ハ倫敦ニ於テ怡和洋行等トノ間ニ機械及各種原
料購入費トシテ多額ノ借款ニ成功セル趣ナリ(外交部ニ
關係ヲ有スル諜報者ノ報告ニ依レハ宋子文ハ英米佛等ニ
對シ各國別ニ支那陸軍及空軍ノ改造建設ノ爲教官、機械
及原料等ノ提供方提議セル由)

二、二十六日漢字紙ハ張學良ハ近ク宋子文ト同道歸國スヘシ
トノ說アリ蔣介石ハ河北軍事ノ解決ハ尙學良ノ才ニ俟ツ
ヘキモノアルヲ認メ同人ヲ河北、察哈爾、綏遠、河南、
安徽ノ五省剿匪司令ニ任命方考慮中ノ趣ノ處學良舊部下
ハ尙十萬以上ヲ存シ整理ヲ加フルニ於テハ以テ國家ノ干
城タルヘシト報道シ居ル處二十七日路透、「チヤンセラ
ー」カ孔祥熙ノ談トシテ齋ス所ニ依レハ張學良ハ倫敦ニ
於テ宋ト會談ノ結果近ク相携ヘテ歸國ノ豫定ナル趣ナリ

ニハ見當付ケ難ク卒直ニ云ヘハ日本ニ對シ全然信用ヲ措
キ難シトノ感想ヲ抱キタリ而シテ此日本ニ對スル不信ノ
念ハ支那識者ノ通有性トナリ上海事變ニ引續キ北滿、熱
河、平津ト事件カ擴大スルト共ニ支那人一般ノ信念トナ
リ居ルモノニシテ從テ河北停戰ニ對シテモ始メヨリ充分
ノ信賴ヲ有セス況ンヤ其後李際春軍問題等ノ爲尙多大ノ
不安ヲ抱キ居ル次第ナレハ停戰協定ト共ニ兩國關係カ俄
ニ好轉スヘシトハ考ヘラレス又今日關係改善ヲ說クモ支
那人ヲ納得セシメ難キ實情ナリ從テ日本トシテハ前記支
那人ノ不信ヲ解クニ足ル事實ヲ示ス事カ肝要ニテ眞ノ關
係改善ハ其上ノ事ナリト思フ大亞細亞主義ノ如キハ支那
人ハ何人モ耳ヲ藉スモノナカルヘシ

20

昭和8年6月30日

内田外務大臣より
在中国有吉公使宛(電報)

宋子文帰国後の抗日活動抑制および張學良の
帰国阻止のため国民政府要人へ我が方意向に
つき注意喚起方訓令

本省 6月30日後9時40分発

第一二二號(極秘)

貴電第三七〇號ニ關シ

宋子文ノ歸國ハ止ムヲ得ストスルモ此ノ際張學良迄モ歸國スルコトハ面白カラサル結果ヲ生スルノ虞アルニ付宋歸國後ノ策動ヲ抑制シ且學良ノ歸國ヲ阻止スル爲早キニ及ンテ國民政府側ニ釘ヲ刺シ置クコト事宜ニ邁スト存ス就テハ右御含ノ上可然機會ニ左記趣旨ヲ以テ汪兆銘其ノ他要人ノ注意ヲ喚起セラレ結果同電アリ度

『支那側ニシテ從來ノ抗日排貨及遠交近攻策ヲ改メ國內ノ建設ニ努力スルニ於テハ我方亦好意ヲ以テ之ヲ迎フヘキハ累次表明シタル通ニシテ從テ我方ハ此ノ意味ニ於テ北支ニ於ケル黃郛ノ活動及今後ニ於ケル國民政府ノ態度等ヲ多大ノ興味ヲ以テ見居ル次第ナリ然ルニ目下滯歐中ノ宋子文及張學良トノ間ニ近ク兩人歸國ノ上相提携シテ舊東北軍ヲ糾合シ北支ノ擾亂及抗日運動ニ從事スヘキ密約成立セルヤノ情報アル處右事實ナルニ於テハ日本側ノ默過シ得サル所ニシテ殊ニ國民政府ニ於テ(イ)斯ノ如キ計畫ノ實行ヲ容認スルカ如キコト又ハ(ロ)學良ニ「ポスト」ヲ與フルカ如キコトアラムカ折角鎮靜シ來レル日本國民ノ神經ヲ刺戟スヘキノミナ

一般關係外交中日

(一)北支政權ハ今日迄ノ所停戰協定ノ勵行ニ付相當誠意ヲ示シ居ルモノト認メラレ我方ニ於テモ同政權ノ時局收拾ヲ出來得ル限り好意ヲ以テ迎ヘ居ル次第ニテ現ニ撤兵地域接收問題、北寧線開通問題等モ圓滿ニ進捗シ居ルハ同慶ノ至リナルコト尙ホ我方トシテハ北支政權カ從來ノ態度ヲ變更スルコトナク益々建設の方面ニ邁進スルニ於テハ一層ノ好意ヲ以テ之ニ臨ムヘキ意向ナルコト
(二)北支及中支ニ於ケル抗日運動カ相當緩和シタルヤニ認めラルルハ汪等具眼者努力ノ結果カト思考セラルル次第ニテ右ハ日支間ノ空氣好轉ニ資スル所尠ナカラサルヘキコ

ラス帝國政府ニ於テモ相當ノ措置ニ出テサルヲ得サルヘシ』
北平、天津、南京及滿ニ轉電セリ

21 昭和8年7月7日

内田外務大臣より
在中国有吉公使宛(電報)

排日活動停止および新聞稅率の見直しなど對
日態度轉換に關する具體的要望につき汪兆銘
に申入れ方訓令

付記 七月四日付、作成局課不明

「日支關係打開ニ資スヘキ具體的措置ニ付有
吉公使ヨリ汪兆銘ニ申入ノ件」

本省 7月7日後10時50分發

第一二八號(極秘)

往電第一二七號ニ關シ

黃郛ハ撤兵地域接收問題一段落ノ上ハ直ニ南下シ今後ノ方針ニ付蔣介石、汪兆銘等ト協議スル趣ナル一方宋子文モ來月上旬ニハ歸國スヘシト思考セラレ旁々此ノ際我方ハ國民政府ノ指導方ニ一段意ヲ用フルノ要アル次第ニテ貴公使ニ於テモ右趣旨ニ依リ從來ヨリモ頻繁ニ汪等ト接觸セラルル

ト但シ北支及中支ニ於テモ今尙ホ日貨検査員ナルモノ横行シ居ル土地アル由ニモアリ又福建其他南支方面ニテハ引續キ深刻執拗ナル抗日運動行ハレ居ル次第ナルニ付此ノ上ノ努力ヲ望マサルヲ得サルコト

北平(冒頭往電ト共ニ)南京へ轉電セリ

(付記)

* 日支關係打開ニ資スヘキ具體的措置ニ付有吉公使ヨリ
汪兆銘ニ申入ノ件

(八、七、四)

一、昭和八年六月九日有吉公使汪兆銘ト会見ノ際汪ハ同人ニ於テ對日感情轉換方ニ付努力シ來レルコト、將來日支兩國共存ノ主義ニ依ルヘキヲ切望スルコト等ヲ述ヘ尙ホ排日運動ニ付テモ種々陳辯セルモ結局ニ於テ『日支兩國ノ接近及邦交ノ改善ヲ期スル爲ニハ支那側ニ於テ排日行動ノ停止ヲ實行スルコト最大要件ナリ』トノ有吉公使ノ主張ハ良ク了解セリト述ヘタル次第アリ(支來電第三二四号)
二、然ルニ支那ノ排日運動ハ今尙ホ鎮靜ニ歸セス例ヘハ上海、漢口、其他長江沿岸各地ニ於テハ日貨検査員ノ横行絶エ

サル旨ノ報告アルノミナラス首都南京ニ於テサへ各界抗日会ナルモノカ引續キ活動ヲ續ケ居ル趣ナリ又南支地方ニ於ケル狀況ハ特ニ不良ニシテ我方領事ノ累次ノ抗議ニ拘ラス公安局員等官憲カ排日運動ニ関与シ居ル事例今尙ホ少ナカラス殊ニ福建ニ於テハ六月中旬省政府主腦部ニシテ激烈ナル排日演説ヲナシタルモノアル旨又厦門党部主催ノ下ニ排日大会開催セラレタル旨ノ報告アリ又広東ニ於ケル排日運動ハ膠着狀態ニアリテ其ノ害惡最モ甚ダシク何等改善ノ跡ナキ趣ナリ將又今次南京民主報^(五)ノ排日記事事件ハ國民政府取締ノ不徹底ヲ証明スル有力ナル材料ト云フヘク現ニ同紙ハ客年一月十七日不敬記事ヲ掲ケ問題トナリタルコトアリ今回ハ実ニ第二回目ナリ

三、次ニ支那關稅率引揚問題^(六)ニ付テハ其ノ不當ナルコトニ付我方出先ヨリ累次支那側ノ注意ヲ喚起シ支那側ニ於テ満足ナル反駁ヲ与ヘ得サル迄説示セルノミナラス前記有吉公使汪兆銘会见ノ節同公使ヨリ其ノ不當ナル所以ヲ懇説セル結果汪ニ於テモ新稅率ハ支那側ニテモ完備セルモノト考ヘ居ラス目下其ノ影響等ニ付研究ヲ繼續シ居ルニ付貴見ノ次第ハ充分考慮ニ供スヘシト約束セル経緯アリ

(支來電第三二五号)然ルニ最近ノ情報ニ依レハ目下立法院ニ於テハ財政部立案ノ改正案ヲ審議中ナルモ右改正案ハ前記我方ノ主張ヲ考慮ニ入レタルモノニ非ルヤノ趣ナリ(支來電第三二八〇号及第三二八二号)

四、就テハ最近ノ機会ニ有吉公使ヲシテ汪兆銘ニ面会ノ上前記ノ趣旨ニ依リ同人ノ注意ヲ喚起シ汪等カ日支ノ共存ヲ唱フル丈ケニテハ兩國關係ノ打開上何等ノ實効ナク要ハ實行ニアル次第ニテ少ク共排日運動ノ取締、關稅問題等差当リノ具体的案件ニ付誠意ヲ示ス肝要ナルヲ徹底セシムルコト事誼^(七)ニ適スルモノト云フベシ尙ホ不敬記事事件ニ付テハ此ノ際日高總領事ヲシテ別紙^(八)ノ趣旨ニ依リ再応支那側ト折衝セシメ支那側ニテ我方ノ要求ヲ容レサル上ハ有吉公使ヨリ直接汪兆銘ニ対シ事皇室ニ関スル種種事件カ甚シク日本國民ノ神經ヲ刺戟スルコトハ他國人ノ想像ニモ及ハサル所ニシテ現ニ至大惨果ヲ招來セル彼ノ上海事件ノ如キモ實ニ同地民國日報ノ不敬記事ニ端ヲ発シタルモノナルコトヲ詳述シ日支間ノ空氣ヲ改善シ將來不測ノ事端發生ヲ避ケムカ爲メニハ至急本件ノ円滿解決ヲ要スルコトヲ徹底セシムルコト適當ナルヘシ

22

昭和8年7月7日 在中国有吉公使より
内田外務大臣宛(電報)

宋子文帰國後の抗日活動抑制および張學良の
帰国阻止に関する我が方意向を唐有壬に申入
れについて

上海 7月7日後発
本省 7月7日後着

第三九五號(極秘)

貴電第一二二號ニ關シ

一、三日南京ニ出張セシメタル堀内ヲシテ本件南京側ノ意嚮ヲモ更ニ確メタル上必要アラハ汪精衛ニ申入レシムルコトトセル處往電第三九四號ノ二唐有壬トノ會談ニ際シ堀内ヨリ唐及汪ノ觀測ヲ聞キタル處唐ハ宋子文ハ八月初歸國ノ豫定ナルカ張學良カ同時ニ歸國スルカ如キコトハ無カルヘク又宋子文カ歸國後如何ナル態度ヲ執ルヘキヤハ的確ニ豫測シ難キモ唐ノ考トシテハ宋ハ米國ノミニ行キタリトセハ或ハ抗日的態度ニ出ツルコトアリ得ヘキモ英佛等ニテ支那ノ實狀ヲ説明シ援助ヲ求メタルニ對シ何人モ實質的ニ共鳴スル者ナカリシハ事實ニシテ(右ニ關シ四日汪精衛ハ岩松大

佐ト會談ノ節宋子文カ出發ノ際ハ未タ北支停戰協定締結ノ方針定マラサリシヲ以テ何等對日方針ニ觸レサリシハ事實ナルモ宋子文カ英佛ニ渡リテヨリ後ニ於テ國民政府トシテ英佛等ノ援助ヲ受クル爲運動スル様宋ニ命令セシコト無キヲ以テ宋ニ於テ此ノ種運動ヲ爲シタル筈ナシトノ旨ヲ内話シ居タル趣ナリ)

他方今日ニ於ケル國內ノ大勢ヲ見テハ宋トシテ抗日ヲ唱道スルカ如キ事ナカルヘク萬一斯ル事アリトセハ右ハ國民政府ノ政策變更トナリ一大政爭ヲ出現スヘク汪精衛トシテハ之ニ對抗スル充分ノ決心ト準備ヲ爲シ居ル次第ナリト内話セルニ付堀内ヨリ南京發閣下宛電報第三三二號公使トノ會談ニ際シ汪ノ話シタル汪ト學良トノ關係ニ鑑ミ公使ニ於テハ今更學良カ宋子文ト共ニ歸國シテ抗日ヲ蒸返スカ如キ事ハ考ヘラレサルモ萬一斯ル事アラハ兩國關係上極メテ憂慮スヘキ事態ヲ來スヘシト多大ノ關心ヲ有シ居ラルル次第ナレハ右ノ趣汪ニ傳ヘラレ度キ旨申入レ置キタル趣ナリ

ニ右唐ノ談話ニ依ルモ汪精衛ニ於テ張學良ノ歸國ニ對シ強ク反對シ居ル事明カナルノミナラス其ノ後各方面ニ就キ確メタル所ニ依ルモ本件ハ餘リ可能性ノ無キ事ト存セラレ旁

本使ニ於テ右以上何等具体的ノ申入ヲ爲ス事ハ差當リ之ヲ差控フル事ト致度シ
北平、天津、南京、滿ニ轉電セリ

23 昭和8年7月7日

在中国有吉公使より
内田外務大臣宛(電報)

宋子文の抗日活動および中国国内の反日感情
に關シパドウ国民政府顧問警告について

上海 7月7日後発
本省 7月7日後着

第三九七號(極秘扱)

往電第一二九號末尾ニ關シ

五日求ニ依リ(機密公第一六二號具申御參照)須臾「パドウ」ト會見シタル處同人ノ談話大要左ノ通

「宋子文ハ八月初旬ニハ歸國スヘキカ學良ノ同時歸國說ハ新聞其ノ他ニテモ大分不評判ナルノミナラス(往電第三七〇號ノ二ト同様ノ趣旨ヲ報道セル二十九日北平發聯合ハ當地各漢字紙ニ轉載サレ學良ノ總司令就任等ノ見出等ト相俟テ相當ノ反響ヲ起シタリ)未タ其ノ時期ニアラス

日本品ヲ狙フ様之ヲ鹽梅シ(「ダンピング」税ハ財政部ノ主管ナレハ詳細ニハ承知セサルモ實行急進論者モ相當アル模様ナレハ油斷ナリ難シ)

(三)民衆ノ抗日運動ハ表面ハ體良ク之ヲ取締ルモ反日思想ハ潛行のニ深刻化セシムルノ方針ヲ採ルモノト認メラル
三、尙宋等ハ右計畫ト併行シテ對外的ニハ諸外國ノ同情ヲ集ムル爲先ツ聯盟ニ對シ此ノ上共技術的及經濟的「コーポレーション」ヲ申入ルルト共ニ民國十九年三月ノ第三次中央全體會議ニ於テ蔣介石ニ依リ提案サレタル外資ニ依ル支那實業振興計畫(大體孫文ノ實業計畫ヲ基礎トス)ニ基キ各國別ニ投資ヲ求ムル一方今回ハ曩ニ支那カ各國ニ申入レタルカ如ク國民政府ハ支那ヲ統一セルカ故ニ之ニ投資セヨト云フカ如キ宣傳ヲ止メ列國カ支那ニ財政的援助ヲ爲スハ結局列國自ラノ不況ヲ救ヒ支那ノ統一ヲ助クル所以ナルヲ力説スル意向ニテ今後一定ノ時期ニ至リ歐米各國カ夫々自國ノ不況ヲ片着ケ得ル頃トモナラハ各國共市場開發ノ爲支那ヲ目掛ケ來ル可ク其ノ曉ニハ日本ハ全ク世界ヨリ孤立ノ狀態ニ陥ル可ク
現ニ日本ハ今迄支那以外ノ亞細亞列強植民地ニ綿製品等

トノ說一部ニ有力ナル爲同時歸國ハ多分實現セサルヘシト思考セラルル處右トハ無關係ニ支那ノ對日感情カ北支停戰協定成立後モ次第二深刻化シ居ルノ事實ハ此ノ際日本側トシテ充分認識ノ要アリ

二、最近日本方面ヨリノ情報ニ依レハ日本ハ支那カ對日妥協ニ傾キツツアリトテ相當安心シ居ル様見受ケラルル處右ハ恐ラク皮相ノ見解ナルヘク北支停戰協定ニシテカラカ支那側ハ強制ニ依リ已ムナク之ニ調印シタリト考ヘ居ルノミナラス同協定成立後モ日本ハ黃郛等ノ主宰スル北支方面ノ施政ヲ妨害スルカ如キ行動(例ヘハ李際春軍處分問題)サヘアリ右ハ上海停戰協定後日本ノ採レル「スポーツマン、ライク」ノ態度トハ大ニ趣ヲ異ニシ居ル爲日本ニ對スル猜疑ハ一層深マリ抗日ノ聲ハ徒ニ高マルノミナリ宋等ハ「ライヒマン」等ノ助言ニ依リ大體往年佛國ノ「ルール」占領ニ對スル獨逸ノ採レル消極的抵抗ノ「ライン」ニ依リ

(一)日本人及日貨ニハ手ヲ着ケサルモ之ト關係セル支那人ヲ槍玉ニ擧ケ

(二)表面上ハ各國ニ對シ一律ニ關稅ヲ引上クルモ主トシテ

ヲ捌キ來レルモ之トテ最近ハ困難ヲ感シ居ル次第ナレハ其ノ内ニハ日本モ參ルヘシト觀測シ居ルモノノ如シ

四、宋歸國ノ如何ニ依リ對日空氣カ急ニ逆轉スルカ如キコトハ先ツ無カルヘキモ國民政府要人中ニハ今尙日本ト妥協センヨリハ寧ロ國際管理ヲ受クルニ如カスト放言シ居ルモノ相當アル位ナレハ日本トシテモ彼此都合好キ應酬ヲ爲スニ迷ハサルコト無ク支那内部ニ生シ居ル反日感情ニ考慮ヲ拂ハルコト肝要ナリ自分ハ國民政府ノ顧問ナリトハ云ヘ日支ノ紛爭ニ對シテハ第三國人トシテ努メテ公正ノ態度ヲ執ラント期シ居ルモノナルカ支那側カ今少シク誠意ト分別トヲ示スノ要アルハ勿論ナルモ文明國ニシテ勝者タル日本側ヨリ率先シテ或ル種ノ「ヂエスチユア」ヲ爲シ支那側ヲ「リード」スルト共ニ排日運動ヲ停止セシムル様日本側ヨリ進テ適當ノ處置ヲ執ルコト必要ナルヘク日本トシテモモウソロソロ現實ニ即シ深甚ノ考慮ヲ拂ハルコト肝要ニテ此ノ儘ニテハ日支關係ハ何時迄モ埒明カサルヘシ(右排日終熄ヲ要求スル前提トシテ「バ」ハ例ニ依リ滿洲國主權ニ色ヲ着クルコト又ハ例ノ六條件ヲ日本側ヨリ率直ニ申出ツルモ一案ナリト述ヘ居

タリ)

滿、北平、南京へ轉電セリ

24 昭和8年7月11日

在中国有吉公使より
内田外務大臣宛(電報)

日中關係改善には滿洲問題に関し日本側の讓
歩が必要などの吳鉄城談話について

上海 7月11日後着
本省 7月11日後着

第四〇六號(極秘扱)

蔣介石ヨリノ招電ニ依リ六月二十日當地發盧山南昌ニ赴ケルモ剿共軍事多忙ノ爲遂ニ蔣ト面會ノ機ヲ得ス九日早朝歸來セル吳鐵城(最近楊永泰ノ後任市長說ハ此ノ邊ヨリ出テタルモノト認メラルル處吳ノ口吻ヨリ察スルニ同人ノ市長就任說ハ今ノ處事實ニ非スト觀測セラレタリ)ノ十日須磨ニ對スル時局談中御參考トナルヘキ點大要左ノ通
一、最近黨政要人中ノ大多數ハ日本ト合作ノ已ムナキヲ漸次自覺シ來レル模様ナルモ今尙日本ヲ猜疑シ日本ト妥協センヨリハ寧ロ列國ニ依頼スヘシト主張スル者アリ形勢豫斷シ

一 日中外交關係一般

雜ナル利害關係アルヲ確メ得タルヲ以テ中央トシテハ西南派大同盟說等ハ餘リ意ニ介シ居ラス
五、學良宋子文ノ同道歸國說ニ付テハ中央ニ於テモ種々心配セルモ結局當分學良ヲ歸國セシメサルコトニ決定セリ舊東北軍ハ今後完全ニ黃郛何應欽ノ統制ニ屬スルコトナルヘク馮玉祥ハ平和的手段ヲ以テ次第ニ北支政權外ニ追出ス計畫ニテ黃郛ハ七月末一應南京南昌ニ赴ク豫定ナリ言々
六、尙須磨ヨリ三ノ關稅問題ニ關聯シ我方調査ノ結果新關稅ハ日本ヲ目標トセルモノナレハ之ヲ緩和セサレハ今日ノ北支平靜ノ曙光モ何ノ效果ナキニ至ルヘシト反問セルニ吳ハ實ハ日本側ヨリ進テ滿洲問題ニ何かト色ヲ附ケサレハ日支關係打開ハ凡ソ困難ナリト言ヘルニ付須磨ヨリ右ハ不可能ヲ強フルモノニテ支那人連カ今同滿洲國問題ノ如キ假令日本力慾スルトモ最早如何トモ爲シ難キ既定事實ノ變更ヲ空賴ミスルカ如キハ先程貴市長ノ述ヘラレタル黨政要人ノ親日的傾向言々トモ背馳スルニアラスヤト應酬セルニ吳市長ハ滿洲問題片附カスハ日支關係ノ打開出來スト言フ譯ニハアラス只滿洲問題ニ附何トカ色ヲ附ケラルレハ解決容易トナルヘシト言フ意味ニ過キスト逃ケ須磨ニ於テハ吳モ滿

難ク反日的感情ノ緩和ニハ唯時ノ經過ヲ待ツノ外ナキ處佐々木到一大佐邊カ今尙李濟深等ヲ操縱シ居ルカ如キハ右感情ノ融和上障害トナル點鮮カラスト認メラル

ニ宋子文カ米、英、佛等諸國ニ於テ活動シ居ルハ事實ナルモ宋ハ經濟的借款ニ關スル用ノミニテ若シ日本カ同様ノ借款ヲ許スニ於テハ支那ハ喜ンテ之ヲ受クヘク宋ノ活動ハ決シテ以夷制夷ノ爲ニ非ス

三、新關稅率ハ實ハ國民政府ニ於テ豫テヨリ保護關稅政策實現ノ爲日支關稅協定ノ滿期ヲ待チワヒ居タルモノニテ増率モ一般的ニ大ナリトサレテ居リ決シテ日本丈ヲ目的トスルモノニ非ス從テ自分ハ財政專門家ニハ非ルモ之カ改訂ハ先ツ不可能ナリト思考シ居レリ

四、西南派ハ口ニハ抗日ヲ宣傳シ居レルモ軍艦ニテ日貨ヲ密輸スル等ノ實狀ニテ大シタコトナク濟棠ト蔣介石トノ間ニハ剿共ニ關シ相當ノ諒解アリ江西ノ共匪討伐ニ協力スルコトトナリ居ルモ江西カ完全ニ中央ノ統制ニ屬スルハ廣東ノ喜ハサル所ナレハ濟棠ハ內實ハ餘リ剿共ニ熱心ナラス又西南派ノ合作ニ關シテハ曩ニ黃紹雄派遣ノ結果陳銘樞、蔡廷楷、蔣光鼐ト李宋仁、白崇禧間ニハ到底合一シ得サル複

洲問題ニハ餘リ期待ヲ掛ケ居ラ(サル)ヤノ印象ヲ受ケタル趣ナリ

滿、北平、天津、南京、廣東、福州へ轉電セリ

25 昭和8年7月(2)日

在中国有吉公使より
内田外務大臣宛(電報)

關稅問題および宋子文の活動などに対する我
が方意向を張群に申入れについて

上海 發
本省 7月12日後着

第四〇七號

漢口宛往電第九號ニ關シ

十一日須磨張羣ニ面會ノ際

一、先ツ須磨ヨリ最近日支關係漸ク好轉ノ兆アルハ結構ナルモ一方(一)關稅問題(二)宋子文ノ活動ニ依ル以夷制夷ノ風說(三)南京及廈門ニ於ケル不敬記事等ニ徴スルニ支那一般ノ反日的感情ハ愈深刻且潛行的トナレルヤノ感アリ斯クテハ折角好轉シ來レル日支關係モ何時逆轉スルヤモ計リ難キニ付充分決意アリタク殊ニ關稅問題ニ於テハ支那側誠

26

昭和8年7月23日 内田外務大臣より
在中国中山公使館一等書記官宛(電報)

黄郭に対し排日活動停止および新関税率見直しなど我が方要望事項を中国要路に周知させるよう要請方訓令

付記 八月十四日付、作成局課不明

カス)蔣、汪、黄郭、何應欽及自分等ノ提携ハ相當固ク且自信モ有レハ御安(心)アリタク就テハ日本政府ニ對シ左記三點即チ
(一)大是化小小是化無
(二)感情ニ走ラス焦心性急ノ解決ヲ望マサルコト
(三)親日派ニ非サルモノノ内ニモ自分等ノ意見ニ對シ同情又ハ贊成ヲ表シ居ル者相當アルコト
右御傳達ノ上日本政府ニ於テモ自分等ノ決心及苦心ノ並大抵ニ非サルヲ諒トセラレ右三點ニ對シ深甚ノ御考慮ヲ拂ハルル様取計ハレタシト述ヘタル趣ナリ(本件談話發表見合ハサレ度シ)
滿、北平、天津、南京、漢口、廣東、福州へ暗送セリ

意ノ試金石トモナルモノナレハ蔣ニモ話シ是非何トカ解決ヲ見ル様盡力セラレタシト述ヘタル處

三、張羣ハ(一)關稅ニ關シテハ唐有壬ヨリ同人ニ對スル堀内書記官ノ説明ヲ聞キタルカ(往電第三九四號ノ二)先般汪カ自分ノ湖北行ヲ勸誘ノ爲密ニ來滬ノ際モ自分ニ對シ本件ハ支那側ヨリ自發的ニ何トカ措置スヘク目下立法院及財政部當局ヲシテ考慮セシメツツアリト語レル程ナレハ其ノ内ニハ何トカナルヘク(二)ノ宋ノ活動ニ關シテハ實ハ國民政府ニ於テハ上海事變以來内債ノ發行不可能トナレルカ去リトテ日本ノ如ク「インフレーション」政策ノ實行ハ出來サル爲結局外債ニ依ルノ外ナシトノ方策ヲ樹テ五千萬弗ノ對米借款ノ如キモ宋外遊前ヨリ既ニ支那ニ於テ話大体纏マリ居タルモノナリ宋ハ英佛等ニ對シテモ同様借款ノ交渉ヲ爲スヤモ計ラレサルカ之トテ全ク財政上必要ノ範圍ヲ出テサルヘク從テ若シ大村氏邊ヨリ話アラハ宋ハ喜ンテ日本ヨリモ借款スヘシ宋ハ元來日本ニ對スル認識不足ノ點ハアルモ日支問題ニ關シテハ常ニ自分等ノ意見ヲ徵シ努メテ實際的妥當ノ解決ヲ圖ラントシ居ル位ナレハ今同宋ノ行動ヲ以テ以夷制夷ト云フハ當ラス(三)

自分ハ北支ヨリ歸來後蔣汪トモ會見セルカ何レモ今後ノ方針トシテハ漸次反日感情ヲ緩和シ行ク意向ナルモ何分ニモ事件カ相當大ナリシ爲對日惡感ハ意外ニ深マリ居リ之カ改善ニハ充分時ヲ貸スノ要アリ就中福建ハ半獨立ノ狀況ニテ差當リ致方ナキモ其ノ他ノ地方ニテハ是非共漸次反日感情ノ緩和ヲ圖リタシ現ニ曩ニ漢口ニ於テ漢奸暗殺盛○行セル際ニモ當時自分ハ湖北、湖南、河南三省ノ政務處主任トシテ蔣ニ取締ノ命令ヲ出サシメ相當ノ成績ヲ舉ケタルコトアリト答ヘタリ

三、次テ須磨ヨリ宋歸國後歐米派ハ黄郭ノ政策ニ反對スルコトナキヤト試問セルニ張群ハ實ハ打明ケテ申上クレハ宋等ハ停戰協定ニ對シテハ反對シ居タルカ種々説明ノ結果次第二事情モ判明シタル爲漸次納得シタル模様ナルノミナラス元來宋ハ實際的政治家ナレハ歸國後頑強ニ協定ニ反對スルカ如キコトナカルヘク其他歐米派ト云フモ孫科ハ最近種々苦勞シタルセイカ非常ニ良クナリ今ハ大シテ毒ニナラス朱家驊ハ殆ト無力又羅文幹ニ關シテハ今ノ處申上ケ兼ナルモ同人ノ辭表ハ今尙其儘保管シアリ其内何トカスル積リニテ(行々ハ辭職ヲ許可スル意向ナルヲ仄

「國民政府ニ對スル折衝振ノ件」

本省 7月23日 発

第一一九號(極秘)

當方ニ於テハ北支ノ事態モ相當ノ落付ヲ見セ來リ戰區接收等圓滿ニ進行シ居ルニ顧ミ適當ノ機會ニ有吉公使北上ノ上形勢觀察ノ傍ラ黄郭等ト接觸シ今後トモ其ノ方向ヲ誤ラシメサル様指導ヲ與ヘ又外交團側ニモ連絡スルコト可然ト認メ居ル次第ナル處貴電第一一三號ニ依レハ黄郭ノ南下ハ多少遲ルル見込ノ由ナルモ何レニスルモ同人離平前有吉公使ノ北上ハ困難ト思考スルニ付貴官ニ於テ同人ニ面會セラレ同公使ノ傳言ニ依ル趣ヲ以テ同公使北上ノ上親シク申入ルル筈ナリシモ時日切迫シ居ルコトニモアリ貴官ヲ通スル次第ナル旨ヲ前置シタル上(イ)支那側ニテ從前ノ對日策ヲ放棄シ東洋ノ大局保全ノ態度ニ出テ來レハ我方亦充分ノ好意ヲ以テ之ヲ迎フヘキハ從來屢々表明シタル通りナルコト(ロ)黄郭カ北上ニ當リ有吉公使等ニ對シ爲シタル表意及北上後ノ其ノ行動ニ付テハ我方ハ好意ヲ以テ之ニ臨ミ其ノ成功ヲ祈リ居ルコト(戰區接收問題等ニ對スル我方ノ好意的態度ハ黄ニ於テモ諒トスル所ナルヘシ)(ハ)黄郭南京ヨリ歸來後北

支時局ノ收拾ニ付一層積極の二進ムニ於テハ我方ハ出來得ル限りノ援助ヲ與フル考ナルコト等(尙ホ當方トシテハ黃郭政權ニ對スル財政援助ノ方法トシテ往電合第一三八三號滄石鐵道建設其ノ他北支政權下ニ於ケル斯種事業ニ對スル投資等ヲ利用スルコト然ルヘキヤニ感シ居リ而シテ右目的ノ爲ニハ本邦資本家ヲシテ北支投資團ト云フカ如キモノヲ組織セシムルコトモ一案カト思考シツツアル次第ナルカ本件ハ差當リ貴官限りノ極秘含ニ止メ支那側及本邦人側ニ絶對ニ漏洩セサル様御留意相成度)ノ趣旨ヲ說示スルト共ニ一方排日運動、關稅率引上及宋子文ノ聯盟乃至列國側利用策等ニ對スル我方ノ態度ヲ黃郭ニ徹底セシメ同人南下ノ際此等ノ問題ニ付テモ我方ニ有利ニ蔣介石汪兆銘等ニ對シ「インフルエンス」ヲ及ホス結果トナル様仕向ケラレ結果回電アリ度

尙以上ニ付テハ在支公使宛往電第一〇四號、第一〇七號、第一一二號、第一二七號、第一二八號、第一三一號並ニ在英大使宛往電第一八一號、第一八九號、第一九〇號及巴里聯盟宛往電第九九號其ノ他累次ノ電報ヲ參酌セラレ度

支、滿、天津、青島、濟南、南京ニ轉電セリ

所期ノ目的達成方ニ努ムルコト事宜ニ通スルモノト認メラル

(別紙)

一、帝國政府ハ極東ニ於ケル其ノ權威ト實力トニ顧ミ同方面ニ於ケル平和ノ維持ハ實際上日本ノ努力ニ依ル外ナキコトヲ確信スルト共ニ右平和ノ維持カ日本ノ重大ナル責任タルヲ確信スルモノニシテ極東ノ平和ヲ確保シ延テ世界平和ノ増進ニ資セムトスル帝國ノ國是ハ實ニ此ノ確信ト自覺ニ由來スルモノナリ而シテ帝國政府カ支那殊ニ北支ニ於ケル政情ノ安定ニ至大ノ關心ヲ有スルハ單ニ支那内部ニ於ケル紛亂ノ防止ヲ希望スルニ止ラスシテ前記確信及自覺ニ基キ日支ノ國交ヲ改善シ極東平和維持ノ基調ヲ確立セムコトヲ所期スルノ見地ニ立脚セリ從テ帝國政府ハ右目的ノ達成ヲ阻害スル一切ノ事象ニ對シ凡有ル方法ニ依リ抗爭スルノ決意ヲ有ス

二、支那ニ於ケル排日運動カ前記目的ノ達成ヲ阻害スル大原因タルハ爭フヘカラサル事實ニシテ我方ニ於テハ右運動カ如何ナル形ヲ以テ行ハルルヲ問ハス支那側ノ峻擊ナル取締ヲ要求スルモノナルト共ニ該運動ノ結果在支邦人乃

(付記)

國民政府ニ對スル折衝振ノ件(堀内歸朝ニ付準備セルモノナリ、八、八、一四)

國民政府ニ對スル折衝振ハ「同政府カ日支國交改善及極東平和維持ノ爲誠意ヲ以テ我方ト協力スルノ態度ヲ執リ來ルニ於テハ我方亦充分ノ好意ヲ以テ之ヲ迎ヘ同國々内ノ整備等ニ對シ出來得ル限りノ援助ヲ與フルニ吝ナラサル一方同政府カ從來ノ抗日策ヲ維持スル限り我方ニ於テハ凡有ル手段ヲ講シテ對抗スヘシ」トノ緩嚴二途ニ出テ以テ國民政府ヲ我方ニ有利ニ誘導スルコトヲ主旨トスヘキモノナリト雖唯タ現下諸般ノ關係ニ顧ミルニ同政府側ニテハ日支國交改善及極東平和維持ニ關スル帝國ノ根本方針ヲ未タ充分ニ理解シ居ラサルヤニ認メラルル次第ニシテ從テ此ノ際前記緩嚴二途ノ中緩和ノ方面ニ重キヲ置クコトハ我方カ日支關係ノ打開ニ焦慮シ居ルヤノ印象ヲ與ヘ其ノ影響憂フヘキモノアルヲ以テ當面ノ折衝振トシテハ別紙ノ「ライン」ニ依リ先ツ以テ國民政府要人ニ對シ右帝國根本方針ノ徹底ヲ計ルト共ニ前記緩嚴二途ノ中峻嚴ノ方面ヲ印象セシムルニ懈怠ナキヲ期スヘク緩和ノ方面ハ寧ろ附加の二言及シテ徐ロニ

至權益ニ及フコトアルヘキ一切ノ侵害ニ對シテハ必要ノ場合何時ニテモ實力手段ニ訴フルコトヲ辭セサルモノナリ(尙ホ汪兆銘等ハ表面的ニハ排日取締ノ勵行ヲ云々シ居ルモノ一般の排日鎮靜セサルノミナラス國民政府各部ニ於テ當該各部カ本邦商社ニ對シテ有スル契約上ノ義務ヲ對日空氣ノ不良ヲ口實トシテ履行セサルコト(例ヘハ中日實業ノ電話材料賣込優先權カ右口實ニ依リ全然無視セラレ居ル件等)又此等各部ニ對スル本邦商社ノ物品ノ賣込ニ付殊更「フェアチヤンス」ヲ與ヘサルコト(山東鐵道其他ニ對スル材料賣込ニ付入札ノ機會ヲ殊更與ヘサル件等)等支那官憲ノ排日氣分盛ナルコトヲ追及スルハ此ノ際ノ急務ナルヘシ)

三、將又帝國政府ハ支那側カ外國ノ勢力ヲ利用シテ日本ニ反抗セムトスルニ對シテモ斷乎トシテ之ヲ排擊スルノ用意ヲ有ス而シテ帝國政府ハ支那政府乃至同政府ト連絡アルモノカ外國ニ對シ政治的、財政的及其ノ他ノ援助ヲ求メムトスル場合ニハ豫メ日本ノ了解ヲ求メムコトヲ期待シ又右援助ヲ求メラルル外國側ニ對シテモ日本ノ協力又ハ少ク共其ノ承諾ナクシテ該援助ヲ與ヘサルヘキコトヲ期

或ハ收入ヲ目的トシ又或ハ外國品一律ニ課税スルモノナリ等種々説明ハアルヘキモ課税物件ノ種類及率等ヨリ見レハ結局日本品ヲ目標トシテ引上ヲ計畫セラレタルモノト見ルノ外無キ處御承知ノ通華府會議ニ次テ關稅會議ノ際日置公使力各國ニ率先シテ關稅自主承認ノ方向ニ主動的役割ヲ演シタル結果

貴國⁽²⁾ノ關稅自主權ノ今日アル所以ナルカ今同ノ關稅引上ハ其ノ我國ニ對シ仇ヲ以テ報ユル所以ニシテ我國民ノ感情ヲ刺戟スル事極メテ大ナリ忌憚ナク言ヘハ貴國ニハ輸入有リテ輸出無ク日本ト異リ貿易決濟ニ資スヘキ海運業モ之レ無シ貴國ニ於テ一面排日、一面關稅障壁ニ依リ經濟的ニ我方ニ對シ挑戰セントスル場合ニハ我國亦滿洲國ヲ率ヒテ日滿經濟「プロツク」ヲ作ルニ至ルヘク斯クセハ支那對日滿ノ經濟的對立トナリ經濟問題ハ延ヒテ東亞ニ於ケル重大ナル局面ヲ展開セシムル事トナル次第ナルカ今や貴國ノ遣方ハ其ノ方向ニ向ヒテ進ミツツアルヤニ觀察セラレ憂慮ニ堪ヘサル處ナリ今回閣下南下ノ上ハ蔣、汪等ニ對シ右諸點篤ト申入レラレ度旨述ヘタル處

黃ハ有吉公使御傳言ノ次第了承セリト冒頭シ實ハ今回南下

ニ際シテハ日支外交ノ大方針ニ付蔣、汪ト協議スル考ニテ當方ノ大方針サヘ確立セハ支那側ニ於テ何ノ程度迄ハ讓歩シ得ルモノ何ノ點ハ日本側ニ於テモ了解セラレ度シト判然ト申述ヘ得ヘキカト存スル次第ナルカ

(一)⁽³⁾排日ニ付北支ハ御承知ノ通り取締ニ任シ居レルカ上海ニ於テサヘ現ニ南市ニ於テ特ニ日本品ノミヲ公然販賣スル店舗出來タル程ニテ之ヲ三ヶ月以前ノ上海ニ比較セハ一般空氣ノ變化著シキコトヲ知ルヲ得ヘク此ノ速度ヲ以テ進マハ半年、一年ノ内ニハ全支ノ空氣ハ一新スルコトト思考シ居ル次第ナリ

(二)關稅問題ニ付今日迄問題ノ經過ヲ承知セス唯最近須磨書記官ノ發言力新聞界ノ問題トナリタルコトヨリ關稅ニ關スル問題アルコトヲ承知シタル程度ナルモ一面ニ於テハ關稅ニ付支那カ滿洲ノ稅收ヲ失ヒタルコト及同地ニ於テ關稅制(度)ヲ整理シタル結果從來ノ年收約二千萬圓カ三倍以上トナリ七千萬圓ニ達スルコトモ今回關稅改正ノ一動機タル點ヲモ考慮セラレタク同問題ハ財政部ノ問題ニテ專門的事項ナルニ付細目ニ亘リテ兎や角容喙スルコト困難ナルモ日支大局ノ見地ヨリ中央ニ意見ヲ具申スヘシト答ヘタリ

待スルモノナリ蓋シ此等ノ援助ハ日本ノ協力若ハ承諾ナクシテ行ハルル限り支那政情ノ安定ニ資スルコト難ク却テ日支ノ國交ヲ紛糾シ極東ノ平和ヲ阻害スル結果トナル虞アリ(我方ニ於テハ日本ノ立場ヲ無視セル外國側ノ對支援助ニ對シ相當立入りタル妨害ヲナス位ノ考アルヲ仄スコト一策ナルヘク又米國五千萬弗借款等トモ關聯シ對支借款整理問題ノ從來ノ經緯ヲ辿リテ(別紙調書⁽⁴⁾參照)右整理方ニ付支那側ヲ「プレス」スルコトハ(但シ本件ニ付テハ滿洲國關稅收入ヲ「インボルブ」スルノ虞アルコトニ留意スルヲ要ス)整理ノ目的ハ達シ難シトスルモ支那側ノ新規外國借款ニ關スル策動ヲ抑制スヘキノミナラス將來我方ニ於テ借款整理問題ヲ云ヒ掛リトシテ何等カ政治的ノ手ヲ打ツヘキ緣由トナルコトアルヘシ)

四、帝國政府ハ支那側ニシテ誠意ヲ以テ日本ト協力シ極東平和ノ維持ニ貢獻スル爲同國政情ノ安定ニ努力セムトスルモノニ對シテハ單獨又ハ之ヲ欲スル列國ト共ニ有形無形ノ援助ヲ與フルニ吝ナラサルモノナリ(場合ニ依リテハ我方カ共匪討伐ニ付積極的援助ヲ與フルノ用意ヲ有スルコトヲ仄スコト一策ナルヘシ)

27 昭和8年7月26日 在中国中山公使館一等書記官より 内田外務大臣宛(電報)

黃郛に對し排日活動停止など我が方要望事項につき中央説得方要請ならびに黃は經濟的援助よりも政策上の援助を我が方に要望について

北平 7月26日後発
本省 7月26日後着

第三一九號(極秘)
貴電第一一九號ニ關シ

二十五日黃郛ヲ往訪シ有吉公使北上ノ上親シク申入ルル答ナリシモ時日切迫シ居ルコトニモアリ本官ヨリ傳言方電訓アリタル旨ヲ前提シタル上貴電(イ)、(ロ)、(ハ)ノ各項ヲ説述シ閣下(黃郛)南下ノ機會ニ蔣、汪ニ對シ閣下ノ意見トシテ説得ニ努メラレンコトヲ希望ス具体的事項ハ排日運動及關稅問題、宋歸國後ノ對日方針等ノ問題ナルカ

(一)抗日運動ハ地方ニ於テハ大部緩和セラレタルモ福州、湖南地方等ニ於テハ依然トシテ舊態ヲ改メサルコトヲ指摘シ(二)關稅問題ニ付テハ細目ノ點ハ專門的ニ亘ルカ故ニ之ヲ省略スルモ大体論ヲ言ヘハ今回ノ關稅引上ハ支那側ニ於テハ

無カリシ爲西原借款ノ現狀如何元金ハ勿論其ノ利子モ支拂ヘス而モ支那ニハ何モノモ残り居ラサルコト御承知ノ通ナリ右精神的ノ援助ハ即チ宋ノ歐米合作主義ニ對抗スル爲必要ナル援助ノ意味ナルヲ以テ平タク言ヘハ自分カ支那國內ニ於テ活動シ易キ様仕向ケラレ度キコトニシテ例ヘハ李際春解決問題ノ如キハ自分ノ立場ヲ難局ニ陥レタルコト大ニシテ中央並宋等ニ對シテモ之カ處置振ノ正當ナルコトヲ充分納得セシムルコト困難ナル内狀ナリ

停戰協定ハ單ニ戰鬪ヲ停止スルコトノミヲ記載シ居ルニ止マリ世界ニ對シテハ滿洲問題ハ未決ノ形トナリ居ルモ日支間ニハ右協定ニ依リ事實上解決シタル形ニテ斯ル重大ナル決意ヲ以テ東亞ノ大局ヲ維持セントシテ今回北上シタル次第ニテ

今日ニ至ルモ毎日二、三通ノ脅迫狀ヲ受ケ居ル狀態ナリ其ノ發信人ヲ取調ヘタル處黨部等ノ關係ニ非スシテ東北系ノモノナリ即チ停戰協定ノ爲歸ル可キ家ヲ失ヒタル輩ノ仕業ナルカ自分ハ生命モ名譽モ金錢モ超越シテ東亞大局ノ爲ニ盡ス決心ニ付脅迫狀ノ如キ意ニ介セス右協定ハ支那ヨリ言ヘハ日本ノ方ヘ一步踏出シタル譯ナルニ付日本側ヨリモ何

次テ宋歸國後ハ對日方針ニ變化ヲ來スモノト認メラルルヤ貴見如何又何等カ變化有リトスル場合之ニ對シ如何ナル方策ニ出テラルル考ナリヤ實ハ我方ニテハ閣下カ現在ノ方針ヲ繼續シ更ニ積極的ニ進マレントスル爲ニ必要有ル場合ニハ滄石等適當ナル名目有ラハ財政的援助ヲ爲スノ準備進行シツツアル次第ナリトテ冒頭貴電投資團ニ言及シタル處黃ハ右極秘ノ内報ヲ謝シ宋子文ノ歸國カ一船遅レ八月下旬或ハ九月上旬トナルヘク停戰協定ノ跡始末モ夫レ迄ニハ片附クヘキニ付八月申頃ニハ南下シ度キ考ナルカ南下ノ上ハ先ツ宋子文ノ借款其ノ他ノ策動力政府ノ命令ニ基クヤ又ハ宋一個人ノ思付ニ依ル活動ナリヤ從テ政府部内ニ之ニ對スル反對ノ空氣有リヤ否ヤ等ヲ突止メタル上ニテ對策ヲ決シ度キ考ナルカ御承知ノ通支那ニハ歐米ニ依頼スル空氣ハ廣ク且深ク一般ノ頭ニ滲込ミ居リ此ノ大勢ニ逆行スル事ハ甚タ困難ニシテ宋ハ棉麥借款聯盟援助等ヲ持歸リ歐米ト合作セハ現ニ斯クノ如キ良好ナル結果ヲ生スル事ヲ吹聴シ何人モ之ヲ認ムルヘク之ニ對シテ自分ハ多年ノ主張ニ基キ日支直接交渉ヲ主張シ最近停戰協定ヲモ總テノ障礙ヲ排除シテ調印スル運ニ至ラシメタルカ支那人トシテハ塘沽ノ停

戰協定ト歐米ヲ交ヘタル上海停戰協定トヲ比較スル事自然ニシテ上海ノ場合ハ歐米ヲ入レタ(ル)故ニ日本軍ノ撤兵モ短期間ニ行ハレ其後ニ何等ノ問題モ起ササリシモ今回ハ直接交渉ニ依レル爲調印後二ヶ月ノ今日戰地接收問題片附カス其上石友三ノ問題郝鵬問題等支那内部トシテハ面白カラサル問題續出シ居ルカ之等諸問題カ奇麗ニ片附ク迄ハ自分ハ中央政府ニ對シ歐米依頼ノ宋ノ方策ニ對抗シテ日支直接交渉進ンテ日支提携ヲ主張スルモ有力ナル發言トナリ能ハサル次第ナリ曩ニ御内話ノ財政援助ハ誠ニ感謝スル所ナルモ右ノ如キ經濟援助ノ準備ニ付テハ實ハ軍側ヨリモ御話ヲ聽キ居リ又日本產業方面ヨリモ内報ニ接シ居ル次第ナルカ自分トシテ日本側ニ御願シ度キ事ハ日支間國策ノ一致ニシテ大方針サヘ一致セハ一般國民ノ協力、實業界ノ取引、關稅問題其他凡ユル日支間ノ諸問題ハ極メテ容易ニ解決ヲ見ルヘク從テ日本側ヨリ自分ニ與ヘラルル援助ハ第一ヲ政策上ノ援助即チ精神的ノ援助トセラレタク

財政的援助ノ如キハ第二段ノ問題ニテ結構ナリト考ヘ居レリ曩ニ貴國ハ段祺瑞ニ對シ大ナル援助ヲ與ヘラレ軍隊モ出來、一億八千萬圓ノ金モ出來タルモ日支間ニ政策上ノ一致

等カ返禮ノ形ニテ一步踏出サルコトヲ得ハ自分ハ國民ニ對シ更ニ一步踏出ス様指導スルコトヲ得ヘシト言ヘルニ付本官ハ右返禮トハ如何ナルモノヲ意味セラルルヤ具體的ニ明瞭トナレハ公使ニ於テモ考慮セラルルカト思考スト述ヘ置ケリ

黃ハ更ニ進ンテ大ナル理想ヲ言ヘハ日支國策完全ニ一致セハ日本ハ海軍ノミヲ有シ支那ハ陸軍ノミヲ有シ大陸ハ支那ニ任シ日本ハ專ラ西洋ニ對スル防禦ヲ爲スコトナラハ世(界)ノ如何ナル國ト雖モ東亞ニ侵入シ得ルモノ無カル可シト迄言ヒ居タリ

支、滿、天津、青島、濟南、南京ヘ轉電セリ

28 昭和8年8月3日 在中国有吉公使より 内田外務大臣宛(電報)

各国資本家により組織される借款団からの借款は絶対に不可など廬山會議決定の外交方針に關し汪兆銘内話について

上海 8月3日後發
本省 8月3日後着

第四四七號(極秘)
往電第四四六號ニ關シ

一日夕彭學(沛)ヨリ堀内ニ對シ同日朝歸京セル汪院長ニ右往電ノ次第ヲ話シタル處院長ハ堀内ニ面談シ度キ意嚮ナリト通知シ來リタルニ付同夜九時堀内汪院長ヲ訪ヒ會談セル結果左ノ通り

一、先ツ堀内ヨリ汪院長カ兩國關係改善ノ爲努力セラレ居ル次第ハ先日公使トノ會談及其ノ後唐有壬、彭學沛等ノ内話ニ依リ承知シ(往電第四一五號前段ニモ言及シ)敬服シ居ル處ナリト述ヘタル處汪ハ今夜ハ外交辭令ヲ省キ數日來廬山會議ニ於テ外交上重要ナル決定ヲ見タレハ其ノ要點ヲ内密ニ御話シ度シト前置シ第一ニ關稅問題ニ付別電第四四八號^(編註)ノ如ク語リタル處

二、宋子文ノ英米ニ於ケル行動ニ付説明スヘシトテ

(イ)元來宋子文出發ノ際ハ停戰協定成立セス政府部内ニハ英米ノ援助ヲ得テ日本ニ對抗スヘシトノ考ヲ抱クモノモアリタルハ事實ナルカ協定成立ト共ニ政府ノ對日方針確定スルニ連レ英米等ノ援助ハ全然技術的性質(技術家ノ供給ヲ有スルモノタル可ク毫モ政治的意味ヲ

三、次ニ華北停戰協定後モ支那ノ對日方針ハ何等變更セストノ說ヲ爲スモノアルカ右ハ事實ニ非ス政府トシテハ協定成立ヲ契機トシテ兩國關係改善ノ方向ニ進ム方針ニテ折角努力シ居レリ但シ各種困難ナル事情ノ爲右努力ノ效果急速ニ現レサルハ遺憾ナルカ日本側ニ於テモ此ノ間ノ事情充分了解セラレンコトヲ希望スル次第ナリ

四、⁽⁴⁾右ニ對シ堀内ヨリ各種重要事項ノ内話ヲ受ケタルヲ謝シ右ヲ政府ニ報告シ差支ナキヤト尋ネタルニ汪ハ右公使及政府ニ報告セラレ差支ナキモ本件ハ極秘ノ決定ナレハ絶對ニ外部ニ洩レサル様充分注意ヲ請フ旨ヲ斷リタリ次テ堀内ヨリ關稅問題ニ付テハ往電第四四^(編註)號^(八カ)ノ通り述ヘ宋子文ノ活動ニ付テハ汪ノ思慮アル措置ハ敬服スル所ナルカ此ノ點ニ付テハ日本政府ハ重大ナル關心ヲ有シ居リ(貴電第二三七號ノ趣旨ヲ説明セリ)此ノ問題ニ付テハ公使ニ於テ近ク院長ニ對シ親シク御話シ度キ心組ナリシカ前記汪院長ノ御話ニ鑑ミ自分トシテハ右話合方ニ付公使ニ於テ再考セラルル様建言スル積ナリト述ヘタル上本件ニ付テハ我方ノ立場ヲ無視スルカ如キ事態ヲ發生セサル様此ノ上トモ院長ノ努力ヲ希望スル旨ヲ述ヘ置キタル趣ナリ

有ス可カラス又其ノ援助ハ支那ヨリノ提議ニ基キ支那ニ於テ之ニ對シ充分ノ「コントロール」ヲ行フコトヲ條件トシ其ノ旨宋子文ニ明確ニ訓令シアレハ列國ノ援助ニ依リ排日ヲ行フカ如キ危險毛頭ナシ

(ロ)宋子文ノ借款運動ニ付テハ日本ノ新聞等ニ喧傳セラレ居ルモ右ハ米國ニ於ケル棉麥借款ノ外何レモ事實ニアラス又支那ハ目下極度ノ財政難ニ苦ミ居ルヲ以テ財政上ノ責任者タル宋子文カ機會アル毎ニ如何ナル國ニテモ借款運動ヲ爲スハ已ムヲ得サル處ナルカ之等借款運動ニ關シ今回廬山會議ニ於テ一ノ原則即チ借款ハ各國ニ於テ個別的ニスルハ可ナルモ

⁽³⁾各國ノ資本家ヲ合シテ一ノ借款團ヲ作り之ヨリ借款スルハ絶對ニ不可ナリトノ方針ヲ決定セリ蓋シ右ノ如キ借款團ヨリ借款スルコトハ支那ノ主權ヲ損スル危險アル外必スヤ日本加入ノ問題起リ其ノ結果國內ニ於ケル反日論ヲ擡頭セシムル危險アルヲ慮リタルカ爲ニシテ右ノ原則ハ既ニ宋子文ニ明確ニ訓令シタル次第ナレハ右ニ依リ支那カ借款ヲ得テ排日ヲ行フカ如キ絶對ニ無キコトヲ了解セラレ得ヘシ

本電別電トモ外部ニ洩レサル様特ニ御注意ヲ請フ
本電、滿、北平、南京ニ轉電セリ

編 注 別電第四四八號は第563文書。

29 昭和8年8月8日 在南京日高總領事より
内田外務大臣宛(電報)

廬山會議の結果に関する汪兆銘報告演説について

南京 8月8日後発
本省 8月8日後着
第三九四號

汪精衛ハ七日中央黨部紀念週ニ於テ廬山會議ノ結果ニ關スル報告演説ヲ爲シタルカ其ノ要旨ハ

先ツ會議ノ要點ハ七月二十八日附蔣、宋連名ノ通電ニ依リ明ナル如ク中央ハ既定ノ方針ニ基キ國力ノ充實ヲ計リ國家ノ危亡ヲ救ハサル可カラサルカ其ノ先決問題トシテ

(一)農村ノ破産ヲ救ヒ幼稚ナル工業ノ向上ヲ促カシ國民ノ生産力ヲ發達セシムルト共ニ

(二)國家腹心ノ患タル共產匪ヲ剿滅シテ治安ヲ確保シ民力ノ

回復ヲ期セサルヘカサルコト

ヲ敷衍説明シタル後借款問題並對外技術合作問題ニ言及シ
(一)今日迄成立セル對外借款ハ米支綿麥借款ノミニシテ新借款團ノ如キモノノ成立ヲ認メタルコトナク且ツ之ニ依リ
毫モ主權ヲ損スルモノニ非サルコト

(二)立法院並中央政治會議ノ決議ニ明ナル如ク借款ノ用途ハ
農、工業ノ建設ニ充テ之ヲ内爭ニ流用セサルコト

ヲ聲明シタル後本件ニ關スル日本側反對並馮玉祥問題ニ關
シ左ノ通辨明シ居レリ

(一)今次ノ借款並對外技術合作ニ對シ日本側一部ニ於テハ所
謂以夷制夷政策ノ表現ナリトノ議論アル處中國ハ國內建
設ノ必要ヲ痛感シ各國トノ經濟上並技術上ノ關係増進ヲ
計ラントスル決心ニ外ナラス之レ素ヨリ國家ノ自立自存
ノ爲各國ト共存共榮ヲ計ランカ爲ナリ蓋シ支那現在ノ積
弱ナル國情ニテハ假令合從連衡ヲ圖ルモ尙他ヲ制スルニ
足ラス却テ自ラヲ損フ事ヲ知レハナリ即チ國力足ラサレ
ハ他ニ抵抗ヲ爲ス能ハサルノミナラス他トノ親善ヲモ期
スル能ハス又他ノ何人モ吾ニ對シ協力スル者ナカルヘシ
依テ吾人ハ過大ノ欲望ノ僥倖心ヲ捨テ此ノ際銳意專心實

らびに宋の日本寄港問題に関する汪の意向を

唐有壬内話について

上海 8月19日後発

本省 8月19日後着

第四七三號(至急、極秘)

往電第四六七號ニ關シ

汪兆銘ヨリ有吉公使ニ特ニ傳フヘシトノ命ニ依リ不取敢御
話スル次第ナリトテ十九日唐有壬ハ須磨ニ對シ大要左ノ通
リ内話セル趣ナリ

一、曩ニ汪ヨリ御話シタル通り自分等ハ日支關係打開ノ爲各
方面ニ亘リ準備中ノ處豫テ汪ト昵懇ノ間柄ナル羅文幹ハ此
ノ間ノ空氣ヲ察シ宋子文歸國後ノ汪ノ外交政策ヲ圓滿ニ遂
行セシムル見地ヨリ新疆視察ヲ名目ニ進ンテ辭職ヲ申出テ
タル爲汪ハ之ヲ諒トシ羅ノ辭職ヲ許可シタル次第ナルカ一
方劉崇傑モ近々辭職ノコトトナルヘク其後任ニハ自分ノ就
任說モアル處右ハ全クニ露骨ナレハ自分ハ暫ク從來通り中
央政治會議秘書長トシテ汪ヲ補佐スルコトトナルヘク之ニ
テ自分等ノ準備工作ハ愈完成セル譯ナリ

二、宋ノ日本立寄ニ關シテハ曩ニ汪ヨリ宋ニ對シ私電ヲ以テ

力ノ充實ヲ計リ以テ自救ノ道ヲ構スルノ要ヲ認ムルモノ

ニシテ之ヲ以テ他ヲ害スルモノニ非サルコトヲ茲ニ聲明ス
(二)察哈爾問題ニ對シテハ(イ)兵ヲ用ヒス(ロ)放任セストノ二方

針ヲ採ルモノナルカ國內統一ト團結ノ爲ニハ飽ク迄内戰
ヲ避クルコト當然ナリ然レトモ之ヲ放任スルコトハ邊境

ノ危險ヲ増大スルモノニシテ更ニ不可ナリ依テ吾人ハ馮
玉祥ニ對シ救亡ノ途ハ整然タル計畫ト一致ノ步調ニ依ラ

サレハ效ヲ期シ難ク徒ラニ抗日ヲ大言壯語スルモ自滅ノ
外ナキコト殷鑑遠カラス臺灣割讓當時ニ於ケル唐景崧劉

永伏ノ例ニアルコトヲ告ケ馮カ中央提出ノ條件ヲ容ルル
コトヲ望ムモノナリ右ニ對シ中央ノ誠意ト民衆ノ正確ナ

ル認識トハヨク輿論ノ力ヲ以テ兵ヲ用ヒストモ一切ヲ解
決シ得ルコトヲ信シ此ノ方針ハ事情ノ如何ニ拘ラス變更

セサル考ナリ云々委細郵報

支ヨリ上海へ轉報アリタク支、北平、天津、滿ニ轉電セリ

30 昭和8年8月19日

在中国有吉公使より
内田外務大臣宛(電報)

羅文幹外交部長、劉崇傑同次長の辭職問題な

日本政府當局ト交驩ノ得策ナル旨申入レ置キタルモ未タ回

電無キヲ以テ汪ハ更ニ張公權ヲ通シ宋ノ立寄ヲ勸誘セシメ
ンカト考ヘ居レリ又關稅問題ニ關シテモ出來得ルタケ貴意

ニ副フ様目下立法院ニ對シ至急審議方督促中ナリ

三、事情右ノ如クナルニ付テハ日本政府ニ於テモ汪ノ意ノア
ル處ヲ諒トセラレ曩ニ日本新聞紙上ニ現レタル宋ノ不評ヲ

回復セシムル様盡力セラルルト共ニ内政上自分等ノ困難ナ
ル立場ヲ了解セラレ汪ノ親日的外交云々等ノ宣傳ヲ爲サシ

メサル様新聞指導方御取計相成度シ(唐ハ汪一派ヲ親日派
等ト稱セス強テ何等カノ名儀必要ナラハ外交自主派トテモ

呼ハルレハ好都合ナリト附言セリ)

尙當方面ニ於テハ其ノ後宋渡日ノ氣運愈動キ來レルヤニ觀
測セラルル處支那側ト應對ノ必要モアリ冒頭往電末段ノ點

本使内密ノ含迄至急同電相成度シ

北平、南京、滿へ轉電セリ

31 昭和8年8月21日

在中国有吉公使より
内田外務大臣宛(電報)

華北における財政および裁兵問題、汪兆銘に

對する羅外交部長免職提議などに関し黃郭内話について

別電 八月二十一日發在中國有吉公使より内田外務

大臣宛第四七九号

我が方の物質的援助に関する具体例および匪賊討伐軍の停戦協定区域内派遣承認方などに關し黃郭提議について

上海 8月21日後着

本省 8月21日後着

第四七八號(極秘)

⁽¹⁾二十日本使黃郭ト會見(黃ノ希望ニ依リ許卓然ノ宅ニテ會合、有野及許同席)シタルカ別電第四七九號ノ通意見ノ交換ヲ遂ケタル外黃カ進シテ又ハ本使ノ質問ニ應シ内話セル處左ノ通(會談内容及會見場所發表セサル様致度)

一、今回南下ノ要務ハ主トシテ蔣介石ニ對シ北平赴任以來ノ經過ヲ報告シ併セテ將來ノ方針等ニ付打合ヲ爲ス爲ニシテ廬山滞在十二日中毎日一回乃至二回蔣ト會見シ初メ三日ハ專ラ赴任後ノ經過ヲ述ヘ其後ハ主トシテ今後ノ華北ニ於ケル方針及一般對日國交問題等ニ對スル討論ノ打合

ヲ爲シタルカ華北ノ裁兵及財政問題等ニ付一應ノ相談ヲ爲シタルモ詳細ノ打合ヲ爲スニ至ラス

⁽²⁾二、政府ノ對日方針ニ付テハ自分(黃)ハ既往ノ歴史ヨリ說キ起シ孫文ノ遺訓等ニ言及シ極力日支合作ノ必要ヲ說キタルニ對シ蔣ハ能ク之ヲ諒解シ日支兩國ノ提携合作ノ方針ニテ努力スヘキ旨ヲ明言シ之ニ伴フ各種ノ打合セモ大部分自分ノ意見ヲ容レ更ニ自分ノ申出テニ依リ汪精衛ヲ呼寄セテ(第二回目)相談ノ結果汪モ全部之ニ同意シタリ

三、右三人ノ決定シタル方針ハ大要ヲ既ニ宋子文ニモ電報シ

宋ヨリモ同意ノ旨返電アリ從テ宋ハ歸國後モ大綱ニ付表面的ニ反對スル事ナカルヘキモ唯華北ノ財政上ノ問題ニ付テハ表面援助ヲ裝ヒ實際ニ之ヲ實行セサルカ如キ事ナキヤノ點相當懸念セラル

四、⁽³⁾宋子文ニ對シテハ銀行業者等ノ意見モアリ歸國ノ途次東京立寄方既ニ政府ヨリ命令シアル處同(人)ハ我性強ク果シテ之ニ應スルヤ否ヤ疑問ナリ

華北ノ財政狀態ハ張學良時代ハ收入月額四百萬元支出四百(五十)萬元ニテ不足五十萬元(王克敏ノ案ニ依リ一ヶ月ノ支出ヲ三十五日分ニ充當シ遣リ繰リシ居リタリ)ナ

リシカ委員會成立後ハ雜軍ノ募兵増加(約六旅)煙酒稅ノ華北善後公債擔保充當、鹽稅及省政府鐵路局納金ノ減少等ニテ支出ハ五百萬元ニ増加セルニ反シ收入ハ僅ニ二百五十萬元ニ過キス右不足ハ今日迄ノ所善後公債其他ニ依リ補充シタルモ將來裁兵行ハルル迄ハ主トシテ中央ノ補助ニ俟タサルヲ得ス此點蔣汪トモ一應相談済ナルモ豫期ノ如ク實現シ得ルヤヲ懸念シ居リ裁兵問題ト共ニ最モ苦心シ居ル所ナリ尙自分赴任以來臨時ノ支出モアリテ中央ヨリ合計九百萬元ノ補助ヲ受ケタリ

⁽⁴⁾五、華北ノ雜軍整理ハ相當ノ時日ヲ待タルヘカラス其方法ハ一部ヲ他ニ移駐シ一部ヲ裁兵シテ農墾ニ當ラシメントスル考ナルカ何應欽ハ力足ラス結局蔣介石ノ北上ヲ必要トシ此點蔣トモ相談シタルカ蔣ハ江西ノ共匪討伐ハ尙約一年ヲ要スヘキ處被害ノ擴大セサル程度ニ追ヒ詰メタル上本年末頃ニハ北上スヘキ旨内諾セリ

(此點特ニ極秘ニ願フ旨述フ)

六、⁽⁴⁾于學忠ハ河北ノ實力者中最モ有力ナルモノト認メラレ居ル處其ノ實本人ハ極メテ單純ナル性格ニテ今回蔣トノ會見ニ於テ河北移駐問題等ニ對スル蔣ノ質問ニ對シテモ極

メテ其ノ單純振リヲ發揮セリ同人ハ他ノ將領ト異リ現在ノ地位維持ノ下心ヨリ學良ノ歸國ヲ希望シ居ラス(此ノ際黃ハ暗ニ將來于ヲ交迭スル必要アルカ如キ口吻ヲ洩セリ)七、目下廬山ニアル蔣作賓ハ之迄歸任ヲ肯セサル理由トシテ對日方針決定セサルコト及羅文幹ト折合惡シキコトノ二點ヲ舉ケ居レルカ自分(黃)ハ今回同人ニ對シ右二點トモ解決シタル旨ヲ述ヘ蔣介石トモ相談ノ上九月中ニ歸任セシムルコトニ同意ヲ取付ケタリ

⁽⁵⁾八、先日蔣介石ト會談中蔣ハ或ル書類閱讀ノ半ニ突然立上リ露國コソ支那ノ唯一ノ敵ナリト口走リタルコトアリ自分ハ右ヲ切掛ニ共產黨ハ日本モ英國モ其ノ他各國モ敵トスル所ナルニ政府ハ一方ニ共匪ノ討伐ニ苦シミ乍ラ他方ニ共產(黨)ノ本家ト復交セルハ矛盾モ甚タシト突込ミタルニ蔣ハ全ク左様ナリト首肯セリ

九、羅文幹ハ從來ノ行懸上陰ニ自分ノ政策ニ反對シタルカ(黃内話トシテ許卓然カ有野ニ語ル所ニ依レハ羅ハ劉崇傑ノ報道ニ基キ政治會議ニ於テ停戦協定ニ關シ日本側ト密約アル旨報告シ口ヲ極メテ黃ヲ非難シタルコトアリ又最近宋子文ニ對スル日本側ノ反對ハ黃ノ煽動ニ依ル旨汪

ニ内報セル事實判明シタル由)自分ハ今回汪精衛來盧ノ機會ニ羅ノ免職ヲ提議シ其ノ結果今回ノ移動ヲ見ルニ至レリ尙黃ハ二十二日當地發莫干山ニ赴キ約一週間滞在ノ上歸滬シ來月上旬北上歸任ノ豫定ナルカ成ルヘク宋子文ノ歸國ヲ待合セ一應宋ノ態度ヲ確メ度若シ其ノ態度面白カラサル時ハ今一度蔣介石ト相談シ度キ考ナリト語レリ
北平、南京、滿へ轉電セリ

(別電)

上海 8月21日後発
本省 8月21日後着

第四七九號(極秘)

二十日黃郛ト會談ノ際話頭ノ順序ニ應シ本使ヨリ適宜言及シテ意見ノ交換ヲ爲シタル點大要左ノ通り
宋子文^(二)ノ歐米ニ於ケル借款運動及聯盟援助要請ニ關スル策動ニ關シ本使ヨリ累次御訓令ノ趣旨ニ基キ既往ノ支那ノ政策ノ謬レルコト、日本ヲ無視シテハ何事モ成功シ得サルコト、聯盟援助ハ日本側ノ感情ヲ刺戟シ且共同管理ノ端ヲ開ク虞アルコト等ノ點ヲ累述シ尙對日政策轉換云々ノ談話ト對

ルハ如何ナルコトナリヤト試問シタルニ

黃^(三)ハ我方ノ好意ヲ謝シタル上滿洲ハ今更支那ニ返還ヲ要求スルモ不可能事ナルヲ承知シ居リ又之ヲ承認スルコトモ出來サルニ付當分此ノ儘トシ自然ノ解決ニ俟ツノ外ナシト答ヘ所謂日本側ノ「ゼスチュア」ノ意味ニ付明答ヲ避ケタルカ本使ヨリノ追求ニ對シ黃ハ實ハ河北ニ於テ日本側ノ財政的援助ヲ求メ度キ事項ハ種々アルモ自分ハ兩國ノ爲ニハ河北ヲ目當トセス原則トシテ國民政府ニ對スル援助望マシク又其ノ方法モ慎重ナルヲ要スヘシ(黃ハ例ヘハ共匪ハ日支共同ノ敵ナルモ假ニ日本カ蔣ニ討共ノ武器ヲ供給スルトセハ支那國民ノ反對ヲ受クヘキモ支那カ一大兵工廠ヲ設置シ日本カ之ヲ財政的ニ援助ストセハ問題起ラサルヘシト附言シ暗ニ此ノ種問題カ話題ニ上リタルヲ仄カセリ^(四))

三序ヲ以テ本使ハ新關稅率ニ付テモ言及シ其ノ不當ノ點ヲ略述シ注意ヲ喚起シタル處黃ハ本問題ハ先日汪精衛トモ話シタルコトアリ其ノ(際)汪ハ改正ノ意向アル旨ヲ語り居タルカ尙今一應汪ノ注意ヲ促スヘシト答ヘタリ
四又本使ヨリ張學良ノ歸國說ニ對スル我方ノ態度ニ付テ述ヘタルニ黃ハ自分モ張ノ歸國ニハ反對シ居レルカ張ハ是迄

照シ嚴重ニ黃ノ注意ヲ喚起シタル處黃ハ良ク了解セル旨答ヘタル上宋ノ歐米ニ於ケル此ノ種策動ニ對シテハ當時自分(黃)ヨリモ蔣及汪ニ警告シタル所ナルカ右ハ殆ト宋ノ獨斷行爲ナルコト判明セリ尙今回自分ハ蔣ニ對シ孫文ノ遺訓ニ國際合作トアルハ必要ナル技術及財政等ノ援助ヲ各國ヨリ受クルコトモ含マル可キ處右ハ各國ト個々ニ行ハル可キモノニシテ聯盟ノ如キ共同機關ノ援助ヲ求ムルハ共管ノ端ヲ開クモノニシテ將來ニ累ヲ貽ス虞アル旨注意シタル處蔣モ首肯シタル由附言セリ

三黃ハ支那側ノ對日方針轉換ニ關スル說明ニ關連シ支那側ニテハ既ニ華北停戰協定ニ依リ日本ト接近合作ノ第一歩ヲ踏出シタル次第ニ付日本側モ支那國民ヲ慰ムヘキ何等カノ「ゼスチュア」ヲ示サレンコトヲ希望スト述ヘタルニ付右ヲ切掛ニ本使ハ累次御電訓ノ趣旨ニ基キ支那側ニ於テ日支合作ノ精神ヲ以テ我方ト接近ヲ計ラントスルニ於テハ我方ハ好意ヲ以テ迎ヘ相當ノ援助ヲ惜シマサルヘク特ニ貴下ノ親日政策ニ對シテハ精神的ハ勿論物質的の方面ノ援助ニ付テモ盡力スル用意アリトノ趣旨ヲ告ケ唯滿洲國ノ既成事實ニ對シテハ一歩モ讓ル能ハサルモ支那側ノ我方ニ求メントス

宋子文ヲ通シ一回王樹翰ヲ通シ一回蔣宛ニ歸國シタキ旨電報シ來リタルカ蔣ハ之ヲ許可セス且下萬福麟邊リカ尙引續キ運動中ナルモ當分歸國ヲ實現セサル見込ナリト答ヘタリ(許卓然ハ黃ノ談トシテ學良ハ少クトモ本年中ハ歸國ヲ許ササルコトニ内定シ居ル旨前日有野ニ語りタル由)

五以上ノ外本使ハ河北ノ現狀等ニ關シ何等我方ニ對スル注文アリヤト質シタルニ黃郛ハ極メテ非公式且腹藏無キ希望ナリト前置シ

(一)河北ノ人心安定ノ爲ニ舊東北軍ノ整理實行ト熱河ニ於テ多數日滿軍ノ駐屯セサルコトカ(地勢上ノ關係ヲ述フ)望マシ
(二)停戰協定ノ不駐兵區域内ニ於ケル匪賊討伐ノ爲已ム無キ場合少數ノ支那軍隊ヲ入ルルコトヲ承認セラルレハ好都合ナリ尤モ討伐終了ト同時ニ引揚ク可キハ勿論ナリ(黃ハ右停戰協定ヲ變更セントスルカ如キ意ニハ非ス誤解無キヲ望ム旨附言セリ)

(三)長城線以內ノ日本側ノ撤兵ヲ速ニ實行セラレンコト望マシト述ヘタルニ付本使ハ(三)ニ關シテハ尙多少時日ヲ要ス可キモ其ノ内必ス解決ス可キ旨言明シ置ケリ
尙右ノ外日貨排斥取締方ニ關シ言及シタルカ要領別途電報ス

北平、南京、滿へ轉電セリ

32 昭和8年8月23日 在南京日高總領事より
内田外務大臣宛(電報)

宋子文日本寄港問題などに關し汪との意見交換について

南京 8月23日後発
本省 8月23日後着

第四〇五號(極秘)

⁽¹⁾二十二日外交部長兼任ニ對スル挨拶旁汪精衛ヲ往訪ス從來ト異リ通譯トシテ外交部黃秘書立會ヒタル爲餘リ立入りタル話ヲ差控ヘタルカ會談要領左ノ通

一、本官ヨリ汪從來ノ對日態度ヲ多トシ今回ノ外交部長兼任ヲ祝シ上海ニ於ケル有吉公使黃郭會談ノ模様ヲ知り欣幸ニ存スル旨ヲ述ヘタルニ對シ汪ハ打解ケタル態度ニテ右會談ノ次第ハ自分モ報告ニ接シ満足シ居レリ實ハ今般唐有王ヲ常務次長ニ任命スルコトナレルニヨリ將來ハ腹藏ナク同人ト接觸ヲ保タレタシトテ黃、唐等ノ活動ニ期待スル所アル氣配ヲ示セリ右ニ對シ本官ヨリ累次ノ御電

本ニ立寄ラサルコトナリタリトテ國民政府ノ對日態度ニ變更ヲ來ス如キコト無キ次第ナリ(本官ヨリ爲念本件ハ日本政府ノ希望ニ基クモノニ非ス國民政府及宋ニ於テ日本立寄ヲ希望スルナラハ我方ニ於テハ虛心坦懷彼下面接意見交換スヘシト云フ趣旨ナリト説明セルニ汪ハ右ノ次第好ク諒解シ居レリト述ヘタリ)

三、本官ヨリ國民政府對日誠意ノ表示トシテ關稅率問題及首都ニ於ケル抗日會取消等二期待スル旨ヲ述ヘ具體的事例カ日本輿論ニ及ホス效果ヲ說キタルニ對シ汪ハ立法院モ近ク休會開トナルニ付關稅問題ノ審議ヲ開始スヘク孫院長モ自分ノ意嚮ヲ体シ居レハ宋歸國後ニハ何等カ貴方ニ有利ナル決定ヲ見ルニ至ルヘシト思ハルル旨ヲ述ヘタリ
四、最後ニ汪ハ國民政府部内ニ親日ト親英米ノ二派對立シ居ル様日本ノ新聞ニ傳ヘラレ居ルハ事實ニモ反シ内政上自分等ノ立場ヲ困難ナラシムルコト甚タシキ儀ナレハ日本政府ニ於テ輿論指導方特ニ配慮セラレ度キ旨ヲ力說セリ
支、北平、滿ニ轉電セリ

報ニ基キ支那側カ日支合作ノ方針ニ出ツルニ於テハ好意的態度ヲ以テ之ニ接シ必要ナル援助ヲ惜マサルヘキ我方ノ御方針ヲ説明シ置キタリ

尙汪ハ本官ノ質問ニ對シ今後河北ニ於ケル外交問題ハ黃郭ノ手ニテ處理スルコトナレハ別ニ外交部ヨリ人ヲ派スル考ナク劉崇傑ハ公使トシテ歐洲ニ駐在セシムル豫定ナリト答ヘタリ

三、本官ヨリ日支兩國要人間ニ隔意ナキ意見交換ヲナスコトハ兩國國交改善ノ爲大ニ效果アルヘシトテ蔣公使歸任及宋子文本邦立寄ノ件ニ言及セル處汪ハ右ニ同意ヲ表シ左ノ通述ヘタリ

⁽²⁾蔣ハ血壓高キ爲目下廬山ニテ休養中ナルカ九月ニ入ラハ南京ニ來ル筈ニ付其ノ際歸任實現スル様取計ヒ度ク考ヘ居レリ

(回)元來宋子文ノ使命ハ華盛頓會商及倫敦會議參加ノ二ツニシテ其ノ他ノ諸國訪問等ハ同人ノ發意ニ係ルモノナレハ日本立寄モ同人ノ意思ニ任ス外無キ次第ナルカ本件ハ自分モ同感ナルニヨリ私電ヲ以テ立寄方勸告シ置キタリ宋ヨリ返電アリ次第御知ラセスヘシ萬一宋カ日

33 昭和8年8月25日 在中国有吉公使より
内田外務大臣宛(電報)

黃郭は廬山にて蔣、汪との会見後辞表を撤回し華北における地位の強化に自信を得た模様について

上海 8月25日後発
本省 8月25日後着

第四八七號(極秘)

⁽¹⁾二十三日許卓然ノ有野ニ對スル談話ニ依レハ「北平出發ノ際黃郭ハ辭表ヲ懷ニシテ南下シタル由上海ニ先着ノ黃夫人ヨリ聞キ及ヒタルニ付廬山ニ在ル黃宛慰ノ電報ヲ發シ置キタル處黃ハ上海着後自分(許)ニ對シ黃ノ携行セル對日及北支善後方針ハ何レモ全部蔣、汪ノ容ルル處トナレル爲辭表提出ノ必要無キニ至レルノミナラス黃ヨリ蔣、汪ニ對シ萬一宋子文カ歸國後右方針ニ反對シ財政部長ヲ辭スル等掬ネ出シタル時ハ如何ト迄追及シタルニ兩人共其ノ際ハ宋ヲ辭職セシムルノミト言明シタル旨竝蔣ハ萬一ノ場合ヲ考慮シ財政部長ノ後任サヘ内々物色シ居ル模様ナリ」ト語レル趣ナリ

三又根本中佐カ二十三日須磨ニ内報スル處ニ依レハ二十日

第三四八號

商震、湯爾和及袁良カ三十一日新任挨拶ノ爲往訪セル三浦ニ語レル要領左ノ通

一、河北ニ於テ對日方針ニ付最近廬山ニ於テ蔣汪黃ノ三巨頭間ニ完全ナル意見ノ一致ヲ見タル次第ナレハ宋ノ歸國ニ依リ右ノ大方針ニ動搖ヲ來スカ如キ事ハ萬無カルヘシト一致セル觀測ヲ爲シ居レルカ尙湯ハ宋子文ニ付日本側ニ於テ種々神經過敏ナル報道傳ヘラレ居ル趣ナルモ案スル様ノ事無カルヘク且蔣介石ハ其ノ性質ニ鑑ミ右ノ如ク確立セル方針ニ對シ萬一異見ヲ唱フルカ如キ者有ラハ部下トシテ存在ヲ許ササルヘシト語り又商震モ宋子文ハ相當先ノ見ユル男ニシテ所謂政治家ナレハ反對的態度ニ出ツルカ如キ事ハ恐ラク之無カルヘシト述ヘタリ

二、宋子文カ日本ニ上陸セサリシ經緯ニ關シ南方ヨリ得タル消息ナリトテ湯爾和ノ語ル所ニ依レハ當初宋子文日本寄港ニ際シ親交有ル重光次官其ノ他朝野ノ有力者ト意見交換ヲ望マレ宋モ其ノ氣ニナリ居リタル處早クモ日本ノ新聞ニ書立テラレタル結果忽チ上海方面ニ反響ヲ與ヘ言論界ニ有力ナル反對意見ヲ表示セラレタル爲宋ハ板挾ミト

ナリ遂ニ其ノ儘歸國スルニ至リタル次第ナリト

三、曩ニ停戰協定成立ニ依リ河北ニ於テ對日方針大綱決定ト同時ニ日本側ト關係良カラサル舊東北軍ヲ移駐スル事トナリ宋子文ニ電報シ張學良ニ通告了解ヲ求メシムルト同時ニ舊東北軍側ニ對シ直ニ移駐方命令ヲ下シタル處其ノ代表者タル于學忠ハ種々困難ナル事情ヲ訴ヘテ聽從セサリシニ付之ヲ廬山ニ招致シ説得ニ努メタルモ依然態度ヲ變セサルノミナラス學良ノ歸國ヲ阻止スルノ措置ヲ執ルト同時ニ兎ニ角宋子文ノ歸國ヲ待チ學良ノ意嚮ヲモ斟酌シテ最後ノ決定ヲ爲ス事トナシタル次第ナルカ宋子文ハ一兩日中ニ南京經由廬山ニ向フ筈ナリ(商震談)

四、新疆方面ニ「ソビエツト」ノ勢力加ハリツツアルハ事實ナルカ同地方ノ住民ハ一般ニ頭腦ノ程度低キヲ以テ之ヲ急速ニ赤化スル事困難ニシテ世間ニハ大袈裟ニ傳ヘラレ過キ居レリ去リ乍ラ同方面ヲ此ノ儘ニ放置シ能ハサルニ付前記舊東北軍ヲ之ニ移駐シ日本側ト疎隔スルト同時ニ之等ヲシテ赤化ノ防止ニ當ラシメント計畫シツツアルモノナリ(同上)

五、袁良ハ北平ノ治安維持ニ付出來得ル限りノ力ヲ盡シ何人

黃郛ハ根本ニ對シ「羅文幹ハ劉崇傑等ト結托シ監察院ニ自分ノ彈劾案ヲ提出セシメント監察委員間ニ策動シ居ル趣聞知シタルニ付廬山ニ蔣ヲ訪ヒ相談シタル處蔣ハ汪ヲ呼寄セ協議ノ上羅、劉兩人ヲ辭職セシムルコトニ決定セル次第ニテ又自分ヨリ蔣ニ對シ日本側トノ關係上華北ニ於ケル黨部ノ越軌行動取締ノ必要ヲ力説シタル處蔣モ華北ノ治安維持ノ爲ニハ國民黨の色彩濃厚ナラサル團體ヲ中心トシテ之カ調整ニ當ラシムルノ已ム無キヲ認メ王揖唐等ニ内命ノ上同人ヲシテ之カ具體的計畫ヲ運ラサシムルコトナレノミナラス

唐有壬ノ兄ニシテ士官學校出身ノ唐(不分)從來ヨリ反國民黨の色彩ヲ有スヲ顧問トシテ王ヲ援助セシムルコトヲ承認セルヲ以テ自分ノ北支ニ於ケル地位モ相當安固タリ得ヘキ見込付キタルニ依リ辭表提出ヲ見合ハスコトシ上海ニテ宋ト會見ノ上北上ノ途ニ付クヘク途中馮ヲ訪問シテ抗日的態度ヲ取消サシメ韓復榘ト會見シテ北支行政ニ對シ其ノ協力ヲ求メ又歸平後宋哲元ヲ招致シテ察哈爾問題ヲ商議シ更ニ追テ葛敬雲(電カ)ヲ伴ヒ山西ニ關ヲ訪ネ斯克テ五全大會迄ニハ完全ニ北支地盤ヲ固ムルト共ニ其ノ間蔣介石ノ親日的政策

ノ確立ヲ俟テ相携ヘテ日支關係ノ打開ヲ計リ度考ナリ」ト語レル趣ニテ一方十九日東京ヨリ來滬セル何澄○ノ談ナリトテ船津ノ須磨ニ齎ス所ニ依レハ「何ヨリ黃ニ對シ日本軍部ニ付確メタル處軍側ニ於テハ萬一華北ニ於テ反黃運動等起ルモ黃反對ノ團體ヲ援助スルカ如キ意嚮無キ旨報告セルニ黃ハ大ニ安心シタル様見受ケラレタル」趣ナリ(以上發表見合セラレ度シ)

事情右ノ如クニテ黃ハ蔣ト會見後益々華北行政ニ自信ヲ得タルモノノ如ク宋歸國後餘程ノ變化無キ限り愈既定方針ニ依リ邁進ノ決心ヲ固メタルモノト認メラルル處以上本使ト黃郛トノ會談補足旁何等御參考迄

南京、北平、滿ヘ轉電セリ

~~~~~

34 昭和8年8月31日 在中国矢野(真)大使館參事官より  
内田外務大臣宛(電報)

宋子文帰國後の政局および旧東北軍の移駐問題  
などに関する商震など有力者の談話について

北平 8月31日後発  
本省 9月1日前着

タルヲ問ハス苟モ法ニ觸ルル者ハ容赦無ク處分スル方針ヲ執リツツアリト語リ從來ノ如ク黨部ヲ氣兼スルカ如キ態度ヲ示サス極メテ自信有リケニ見受ケラレタル趣ナリ  
六 黃郭ハ九月十日又ハ夫以前ニ北平ニ歸着スル筈ナル旨袁良ハ語レリ

支、天津、濟南、青島、南京、漢口、廣東、奉天へ轉電セリ  
支ヨリ上海へ轉報アリタシ

35 昭和8年9月2日 在中国有吉公使より  
内田外務大臣宛(電報)

宋子文および黃郭の我が方への不満に関する  
張公權の談話について

上海 9月2日後発  
本省 9月2日後着

第四九四號

大村ハ豫テヨリ某ト密接ノ聯絡ヲ保チツツ張公權等支那側要人ニ對シ日本ノ立場ヲ充分説明セシムル様努力ヲ續ケ來レル處三十日午前(黃郭ト宋子文ノ第一次會見ハ三十一日午後)宋ト會談セル張ハ大村ニ對シ宋ノ意嚮ナリトテ

釀成シ行クコト緊要ニシテ「參ツタラ謝リニ來イ」ト謂フ様ナ日本側ノ態度ハ誠ニ遺憾ナリトテ日支關係打開ノ爲ニハ日本ノ態度緩和ノ必要ナルヲ熱心ニ力説セル趣ナリ御參考迄(發表見合セラレタシ)  
滿、北平、南京へ轉電セリ

36 昭和8年9月2日 在中国有吉公使より  
内田外務大臣宛(電報)

宋子文との會談に関連して宋が直ちに抗日活動を開始する虞れはないが政策協調を得るには時  
日と日本側の説得が必要と黃郭談話について

上海 9月2日後発  
本省 9月2日後着

第四九五號(極秘)

二日須磨二時間ニ亘リ黃郭ト會談セル處黃宋會見ニ關スル黃ノ談話要領左ノ通  
一、三十一日午後宋子文ノ茶會ニテ宋ト會見セルモ同日ハ別ニ立入りタル話ハナク次テ昨一日午前十時ヨリ二時間宋ト差向ヒニテ種々會談シタル處元來自分(黃)ト宋トノ關係ハ

(一)日本側ハ自分(宋)ヲ排日ノ親分ナリトテ頻リニ反宋的宣傳ヲ爲シ居ルモ自分ノ歐米ニ於ケル行動カ何故排日のナリヤ自分トシテハ全ク(其ノ)譯了解出來ス

(二)支那ノ輿論及國民感情ニ照シ今ノ所滿洲問題ヲ切離シテ日支問題ヲ解決スル方法ハ考ヘラレス日支關係ハ當分ノ間現狀ヲ續クルヨリ他ニ途ハ無ク支那トシテハ今日以上ノ排日ヲスル必要モ無イ代リニ今日急ニ積極的の親日策ニ轉換スル必要ヲ認メス

(三)歐米四ヶ月ノ旅行中最モ其ノ必要ヲ痛感セルハ支那ノ經濟的建設ニシテ今後自分ハ専心之カ計畫ニ從事スル考ナリトノ旨ヲ傳ヘ更ニ張、宋會談ノ結果得タル印象トシテ宋トシテモ黃郭ノ河北施政政策ニ對シ特ニ反對スヘキ理由モ無ク又其ノ意思モ無キヤニ觀測セラルル旨内話スルト共ニ曩ニ黃郭モ自分(張)ニ對シ「日本人ハ援助ト言ヘハ直ク金ノ談ヲ持出スモ河北ニハ財政的援助以外ニ日本ノ支援ヲ必要トスル問題多數山積シ居リ自分ノ最モ希望スル所ハ日本ノ精神的援助ナリ」トテ日本側ノ遣方ニ對シ種々不平ヲ漏ラシ居タル通り日支關係ノ好轉ハ到底急速ニハ望ミ難キニ付軍側トモ密接ノ聯絡ヲ計リツツ北方ヨリ漸次良好ノ空氣ヲ

民國十六年漢口ニ於ケル會見カ初對面ニテ後自分ノ外交部長時代モ宋ハ多ク上海ニアリタル爲會議以外ニハ會談シタルコト殆ドナク懇談ハ今回カ始メテノ位ナリ

三 今次會見ニ於テモ宋ハ年少氣鋭ノ勢力或ハ自己ノ將來ヲ顧念シ居ル爲カ自分ノ如ク國家又ハ東亞ノ爲捨身ノ努力ヲナスト云フ様ナ風ハナク又今回ノ外遊ニ依リ多少得意トナリ居ル様見受ケラレタルカ何レニセヨ宋ノ日本ニ對スル知識ハ如何ニモ貧弱ニテ知人ト云フモ僅重光次官位ノモノニテ其考方ハ概ネ歐米ノ知人ニ影響サレ居ルヲ以テ今後ハ努メテ日本側ヨリ宋ト接觸ノ機會ヲ作ラルルコト肝要ナルヘシト痛感セリ

三以上ノ如キ關係ニテ宋トノ會談ハ結局一般論ニ止リ御互ニ遠慮勝ナ腹ノ探合ヒニ過キサリシモ會談中

(一)宋ハ塘沽協定ニ對シ在歐支那公使連カ辭職ヲ申出テ或ハ協定反對運動ヲ起サントシタルコトアルニ對シ自分(宋)ハ彼等ヲ集メテ之ヲ慰撫シタル程ナリトテ河北ニ於ケル自分(黃)ノ隱忍自重ノ措置ヲ賞讃シ

(二)又國際合作ニ關シ宋ハ將來歐米諸國ヨリ援助ヲ受ケ得ル見込相當出來タリト語レルニ付自分ヨリ歐米ノ援助ノミ

ニ依頼シ日本ヲ刺戟スルハ得策ナラスト注意セル處宋モ戰闘用飛行機ノ購入、鋼鐵廠ノ設置其他軍事的建設事業ニ關シ歐米ノ援助ヲ求ムルコトハ之ヲ差控フヘキモ一般生産の建設事業ニ關スル計畫ハ豫定通り遂行シ度シト答ヘ<sup>(三)</sup>  
<sup>(三)</sup>河北財政ニ關シテハ宋ヨリ月額五百七十萬元ノ要求ハ多キニ過クルヲ以テ學良時代同様四百六十萬元位ニテ賄ハレ度又極力增收ノ途ヲ講シ大体三百萬元位(現在ハ二百五十萬元)ノ收入ヲ上クル様努力アリタキ旨申出タリ  
 四、何レニセヨ今次面談ニ於テハ未タ何等具体的討論ニハ入ラス宋ハ自分ニ對シ頻リニ同道(宋ハ一日夜赴寧セリ)廬山ニ赴ク様勧誘シ居タルモ會談中宋ノ口吻ヨリ察スルニ宋ノ胸中ニハ前記諸問題ニ關シ相當ノ成案ヲ藏シ居ル様見受ケラレ旁廬山會議ハ自分ノ列席ヲ見スシテ何等カノ決定ニ達セシムルコト便利ナリト考ヘタルヲ以テ兩三日中留守宅整理ノ都合アリトノ口實ニテ廬山行ヲ斷ハリ置キタル處若シ汪蔣宋會談ノ結果必要アラハ招電ヲ俟テ廬山ニ赴クモ遅カラス又若シ既定ノ方針通り決定スルニ於テハ自分ハ此ノ儘近ク津浦線ニテ北上スヘシ  
<sup>(四)</sup>五、之ヲ要スルニ宋カ今俄ニ抗日ノ氣勢ヲ舉クルカ如キ事ハ

第四九七號(極秘)  
<sup>(一)</sup>二日黃郛ノ須磨ニ對スル時局談中御參考ナルヘキ點大要左ノ通  
 一、于學忠ハ北支財政問題ニ關スル打合セヲ口實ニ今尙南京ニ滯在中ナル處其目的ハ實ハ萬福麟等ト相談ノ上宋子文ヨリ學良歸國ニ關スル消息ヲ聽取センカ爲ニシテ學良ハ最近所持金モ殘リ少クナリ又外國生活ニモ倦怠ヲ感シ來レル爲歸國ノ希望ヲ洩シ居レリ國民政府トシテハ日本側トノ機微ナル關係ヲ考慮シ居ルハ勿論ナルモ學良歸國ノ場合同人ニ與フヘキ地盤問題ニ關シテモ豫メ研究ヲ爲シ置ク必要アリ最近學良及舊東北軍ノ西北駐屯說アル處于等ハ西北ニ逐遣ラレルコトヲ嫌ヒ内々之ニ反對シ居ルノミナラス一方舊東北軍ヲ西北ニ移駐セシムル時ハ彼等ノ大半ハ土匪又ハ共匪ニ爲リ變ル惧レモアリ學良歸國問題ハ中央トシテモ中々取扱難キ問題ナリ  
<sup>(二)</sup>二日支關係打開ノ爲ニハ單ニ政治的協定ノミニテハ不充分ニテ經濟的財政のニ密接ナ聯絡ヲ付ケルコト必要ナリ日本

上海 9月2日後発  
 本省 9月2日後着

萬ナカルヘキモ宋ハ自分等ト異リ相當ノ野心ヲ有スルヲ以テ自分等ノ政策ト協調スル迄ニハ尙相當ノ時日日本側ノ熱心ナル説得トヲ必要トスヘク又宋ハ汪、蔣及自分カ先般廬山ニテ協定セル方針ニ對シテハ半ハハ賛成ハシ居ルモ過去ノ成行ニ鑑ミ半ハハ今尙迷ヒ居ル様ノ狀態ナルモ事實上宋ハ歐米ニ於テ何事モ爲シ居ラス又實力ヲ以テ前記方針ニ反對スルノ困難ナルヲモ承知シ居ルヲ以テ結局ハ自分等ノ政策ニ靡キ來ルモノト觀測セラルル處唯宋ハ此ノ點ニ關スル西南派ノ反對、殊ニ新聞宣傳等ニ依ル輿論ノ反對ヲ極力心配シ居ルヲ以テ此ノ點特ニ取扱方注意ヲ要スルモノト考ヘラル云々  
 (本會見内容發表セラレサル様致度シ)  
 北平、南京、滿ニ轉電セリ  
 ~~~~~  
 37 昭和8年9月2日 在中国有吉公使より
 内田外務大臣宛(電報)
 張學良帰国問題、日中經濟提携問題、関税問題などに関する黃郛の内話について
 ハ徒ラニ宋ノ外資輸入ニ反對シ居ルモ早く北支ノ狀態ヲ綺麗サツパリト片附ケ北支ノ對日空氣ヲ緩和セシムルト共ニ此ノ空氣ヲ次第ニ南方ニ推廣ケ少クトモ長江位迄ハ一日モ早く日支經濟提携ノ出來得ル様工夫セサル可ラス又例ヘハ今時福建ノ共匪問題ニ關シテモ國民政府ト日本側トカ協力シテ共同ノ敵タル共匪ヲ討伐シ此ノ精神ヲ更ニ押進メテ兩國ノ善隣關係恢復ヲ策スルコト肝要ナリ
 三、關稅問題ニ關シ宋ハ何レノ國ト雖一年ニ一度位ハ稅率改正ノ必要ニ迫ラルルモノナレハ新稅率モ實績ニ徴シ若シ支障アラハ支那側ヨリ自發的ニ之カ改正ヲ爲スニ何等各ナラサルモ
^(三)日本側ヨリ正式ノ抗議又ハ新聞等ノ宣傳アルニ於テハ右改正モ輿論ノ手前非常ニ困難トナルヘシト語り居タルカ此ノ點ハ日本側トシテモ充分注意ノ要アルヘク今後此ノ種問題ニ關シテハ直接南京政府ニ言ハレス自分ニ御話アリ度左スレハ自分ハ内面ヨリ充分努力シ見ルヘシ
 四、自分等ノ方針ニ對スル孫科ノ態度ニ關シテハ直(接)ニハ承知セサルモ汪兆銘ノ内話ニ依レハ汪ハ孫ト密接ナル聯絡ヲ保チ居ルヲ以テ心配無キ趣ナリ

其尙八月廿二日より天津日報ニ連載サレタル「浮上ツタ親日ノ巨頭」ナル記事ハ何者カノ爲惡意ノ翻譯ヲ加ヘラレ各地黨部ニ配布サレ自分ニ對スル反對宣傳ニ利用サレ居ルヲ發見セルカ右以外自分ト有吉公使トノ會見ニ關スル日本新聞記事中ニハ恰モ自分ニ於テ親日政策ノ保障ヲ與ヘタルカ如キ書振リヲ爲セルモノアリ此(種)記事ニハ自分ハ毎度乍ラ非常ナル迷惑ヲ蒙リ居ルニ付今後ハ軍側トモ充分協議ノ上取締方此ノ上トモ御盡力相成度シ

北平、南京、滿へ轉電セリ

38 昭和8年9月9日

在中国有吉公使より
内田外務大臣宛(電報)

黄郭よりの旧東北軍整理問題などに対する我 が方の援助方要請について

上海 9月9日後発
本省 9月9日後着

第五〇八號(極秘)

黄郭ヨリ今回ノ廬山會議ハ自分等ノ希望ニ對シ至極満足スヘキ結果ヲ得タルニ付安心ヲ請フ旨許卓然ヲ通シ内報シ來

リタルカ黄ハ不日出發歸平スヘキ趣ニ付本使ハ九日挨拶交換旁黃ト會見セリ會談要領左ノ通
一黄ハ先ツ廬山ヨリ受ケタル報告ニ依ル趣ヲ以テ同地ノ會議ノ狀況ニ關シ

(イ)蔣介石以下要人會議ニ於テ宋子文ハ相當長時間ニ亘リ經濟會議及歐米視察ノ狀況ニ關スル報告ヲ爲シタルカ各種ノ事項ニ對シ特ニ自己ノ意見ヲ述ヘス專ラ實情報告ヲ爲セリ
(ロ)對日態度及方針等ニ付前回ノ廬山會議(蔣、汪、黃ノ會合)ノ結果ニ付蔣介石ヨリ説明ヲ爲シタルニ對シ宋ハ何等異議ヲ挾マス總テ之ヲ承諾セリトテ其ノ具体的内容ニ付説明ヲ避ケタルモ特ニ本使ノ安心ヲ請フ旨及今後トモ兩國ノ事態改善ニ努力シ度ク偏ニ日本側ヨリモ協力ヲ切望スル旨附言セリ

(2)河北ノ財政問題ニ關スル本使ノ質問ニ對シ黃ハ本問題ハ曩ニ宋ノ着滬當時一應ノ了解ヲ取付ケアル處本日後刻宋ト會見(宋ハ八日午後來滬)ノ上詳細ノ打合ヲ爲スコトニ約束シアリ自分(黃)ハ此際從來ノ如ク河北カ財政上殆ト獨立シ不足額丈ケ中央ノ補助ヲ求ムルノ制度ヲ取止メ之カ管理ヲ中央ニ委セル方法ヲ採ランカトモ考ヘ居レリ左スレハ今張

學良系統ニ依リ亂雜ニ徵收セラレ居ル各種收入整理ノ責任モ中央ニ於テ負擔セシメ自分ハ所要ノ豫算ノ配賦ヲ受クルコトトナルヘク此點ニ付テハ宋ト懇談スル豫定ナリト述ヘタリ
三、次テ黃ハ日本側ニ對スル希望トシテ

(イ)長城線附近ノ接收ハ今尙完了セサル處日本軍ノ撤兵等ニ關シ日本側カ今一層好意的態度ニ出テ解決促進ニ資セラレンコト希望ニ堪ヘス

(ロ)東北軍ノ整理ハ今後ノ重大問題ニシテ現ニ北平ノ一公安局長ノ更迭ニ對シテモ學良系ハ彼レ是レト騷キ立テ居ル位ナレハ移駐裁兵等ニ對シテハ相當ノ影響ヲ見ルコトナルヘシ差當リ之カ具体案決定シ居ラサルモ將來之ニ關シ日本側ノ援助ヲ願フコトアルヤモ知レス其際ハ好意的助力ヲ御願シタシ

(3)ト申出テタルカ右(ロ)ノ意味ニ關シ本使ヨリ質問シタルモ黃ハ今ノ處別ニ之ヲ決定シ居ル次第ニ非ストテ具體的説明ヲ避ケタリ

四、本使ハ河北ノ排日貨問題ニ言及シ天津近郊ノ抑留貨物ハ漸ク解放セラレタルモ尙事態ハ完全ニ改良セラレ居ラストテ今後ノ取締方及黨部ノ活動抑壓方ニ付注意ヲ喚起シタル

ニ對シ黃ハ日貨ノ抑留及黨部ノ不法活動等ハ絕對ニ爲サシメサル様嚴重措置スル積リニ付安心アリタク唯田舎ノ地方ニテハ從來ノ情性モ有リ俄ニ方針ノ徹底セサル點有ルヘク且ハ私益ノ爲種々策動スル者有ルモ今後充分取締ル積ナリト語レリ
其ノ外本使ヨリ新關稅率問題及國產標記問題等ニ付言及シタルニ對シ黃ハ機會有ル毎ニ日本側ノ主張ヲ援助スヘキ旨約セリ
尙黃ハ九日夜又八十日朝當地發津浦線ニテ北平ニ直行スル豫定ナル由(本電内容發表セサル様致度)

北平、南京、滿へ轉電セリ

39 昭和8年9月13日
在中国有吉公使より
内田外務大臣宛(電報)

中国は国力充実のため当分日本を刺激しない
政策を採るべきとの点で蔣、汪と意見一致の
旨孫科内話について

上海 9月13日後発
本省 9月13日後着

第五一九號(極秘)

十二日孫科須磨會談ノ要領左ノ通

先ツ孫科ヨリ

「最近日本新聞ハ廬山會議其他要人會商ノ度毎ニ日支關係ノ好轉ヲ傳ヘ居ルモ右ハ如何ナル事實ヲ基礎トスルモノナリヤ諒解ニ苦シム次第第二テ日支間ニハ尙幾多ノ猜疑心アリ現ニ上海陸戰隊ノ新兵舍ニ關シ數日前ヨリ種々「センセーショナル」ナ報道アリ現狀ハ假令支那側要人ニ於テ日支間空氣緩和ノ爲種々工夫ヲ凝ストモ日本側ニ於テハ之ニ酬ヒル工夫モ見エサル狀態ナリ塘沽協定以來支那側ニ於テ積極的抗日ヲ止メ且之ヲ「デイスカレッジ」スルニ努メ居ルハ事實ナルモ右ハ實力不足ノ爲已ムヲ得サルニ出テタルモノニテ自分始め心アル支那人ハ依然トシテ日本ニ對シ反感ト疑惑トヲ有シ居リ率直ニ言ヘハ支那ノ實狀ハ自國ノ無力ト失政ニ自暴自棄トナリ政府ノ建設的計畫モ無氣力ノ爲大衆ニハ一向「アピール」セサル狀態ニアリ一方支那輸入品ノ大宗タル外國產米麥等ハ本年ハ世界各國ノ不況ノ爲極メテ安價ニテ從テ内國產ノ價格ハ生産過剩ノ際ト同様ナル安價トナリ爲ニ一般國民ノ購

買力ノ減退ハ想像以上ニテ殊ニ農村ハ其疲弊甚シク棉麥借款、聯盟ノ協力等ハ之カ急速ナル回復ヲ計ラン以外他意ナシ

二⁽²⁾

廬山會議ニ於ケル宋子文ノ報告ニ依レハ歐米諸國中實力ヲ以テ支那ヲ援助シ吳レルモノハ一モ無ク又聯盟ト雖モ餘リ當テニナラサル趣ニ付蔣、汪及自分等ハ宋ニ對シ總テ徒ニ外國ニ頼ルノ無益ナルヲ説明スルト共ニ一同要スルニ自力ヲ以テ國力ノ充實ヲ圖ルノ外策無キヲ悟リ之カ爲ニハ當分日本ヲ刺戟スルカ如キ措置ニ出テサル事得策ナル可シトノ意見ニ一致シタルモノトテ要スルニ前述ノ如キ心理ヲ反映セル一時的ノ便宜ノ措置ニ過キスシテ之ヲ以テ日支關係好轉セリトハ言ヒ難シ然レトモ右ノ如キ狀態ニテ押進マンカ猜疑ハ獨リ日支ノミナラス日米間等ニモ波及スヘク現ニ米國內友人ヨリ自分ニ對シ日米戰爭說ヲ傳ヘ來ルモノ相當アル位ナリ右ハ今ノ所一片ノ假想ニ過キサル可キモ假ニ斯様ノ事態發生スル場合ニハ支那ハ何レニモ與シ得ス又勝敗ノ決何レニアルニセヨ結局兩國間ノ板挾ミトナリ損害ヲ受ク可キ事明カナリト述ヘタルニ付

三、須磨ヨリ右ハ貴下カ嘗テ廣東政府時代汪兆銘ト共ニ述ヘ

ラレタル日本ノ陸、海軍ハ單ニ日本ノ爲ノミナラス支那更ニ進ンテハ東洋ノ爲ニ存スルモノナリトノ意見並ニ尊父孫文ノ大亞細亞主義ノ根幹ヲ爲ス思想ニテ今日率直ニ此ノ點ニ觸レラレタルハ意外ナリ此ノ大局ヲ辨ヘラレハ直ニ滿洲問題ヲ不問ニ附シ排日ヲ停止スル等小事ヲ棄テテ敢然大道ニ附カルル事肝要ナラスヤト應酬セル處

四⁽³⁾

孫ハ今ニ至リテ廣東時代ニ於ケル前言ヲ返ス理ニハ非サルモ九月十八日以前ノコトハ其ノ非支那側ニ在リタランモ(自分ノ鐵道部長時代學良カ滿洲ノ鐵道問題ニ關シ種々辭ヲ左右ニシ日本側ヲ「イリテート」シタルコトアルヲ知悉シ居レリ)其ノ後ノ事ハ何ト觀テモ日本側ノ無理押ナレハ此ノ際虛心坦懷ニ實質のニハ差當リノ「ヴァーデイクト」ヲ容レ右「ライン」ニ折レテ出ラレマシキヤ滿洲事件以來日本ハ凡テノ事柄ニ關シ「イニシアテイブ」ヲ取ラレ支那ハ全然受身ナリシコト又外交ハ凡テ「ギブ、アンド、テイク」ナル可キコト等ヲ考慮セラレ日本側ヨリ一ツ政治家の手ヲ打タレテハ如何右手ノ出テサル限り猜疑ハ解ケストテ何時ニ無ク消氣ケテ見エタルニ付

五、須磨ハ右ハ前述ノ大局ヲ忘レタルニ出ツル考ニテ今ハ唯

東洋ニ於ケル日本ノ立場ヲ了解セラルルコト肝要ナリ今日トナリテハ滿洲問題ハ如何ナル「ライン」ニ依ルニセヨ日本側ノ意嚮ニテ解決ノ出來ル問題ニ非サレハ暫ク之ヲ問ハス須ク現實ノ事態ヲ直視シ今次廬山會議ノ決定ヲ更ニ一步進メ例ヘハ關稅ノ改訂ヲ實行スル等日支間當面ノ障礙ヲ除去シテ具體的ニ誠意ヲ披瀝スルコト必要ナリト酬ヒタルニ

六⁽⁴⁾

孫ハ關稅問題ハ稅則委員會及財政部ニ於テ專ラ取扱ヒ居ルモノニテ未タ正式ニ立法院ノ問題トハナリ居ラサルモ要スルニ增收カ目的ナルヘケレハ若シ實施後所期ノ目的達成セラレサルニ於テハ之ヲ改訂スルモ可ナルヘク(須磨ヨリ新關稅ハ特ニ反日ノ目的ヲ有スルコト密輸ノ増加セルコト等ヲ詳細説明シ置ケル由)立法院ニ廻付ノ際ハ御話ヲ參考トスヘシト答ヘタリ

孫科ハ最近數ヶ月間ハ當方ヨリ夫レトナク再三接觸ノ機會ヲ作りタルニ拘ラス面會ヲ避ケ居ル様見受ケラレタルカ同日ハ快ク面會シ全体トシテ平常トハ語調モ和ラキ極メテ眞面目且熱心ニ感想ヲ述ヘ居タル趣ナリ御參考迄

(本電内容發表セサル様願度シ)
北平、南京、滿へ轉電セリ

40 昭和8年9月18日 在中国有吉公使より
広田(弘毅)外務大臣宛(電報)

廬山會議にて決議された国民政府の政策方針
要綱に関する黄郭よりの情報について

上海 発
本省 9月18日後着

第五三〇號(部外極秘)

(1)十六日陶尙銘ト共ニ來滬ノ根本中佐ハ同日午後黃郭トモ會談シタル趣ノ處十七日同中佐ノ須磨ニ内話スル處大要左ノ通黃郭ノ談ニ依レハ十六日早朝着滬ノ汪兆銘ハ黃ニ對シ今後國民政府ノ採ルヘキ政策トシテ汪、蔣、孫科、宋子文、張靜江、吳稚暉、李石曾、曾仲鳴、蔣作賓、唐有壬外二、三名ノ連署セル第三次廬山會議ノ決議ヲ手交シ且會議ノ席上直接蔣介石ヨリ宋ニ對シ右要綱ハ今後署名人ノ連帶責任ニ於テ遂行スヘキ國策ノ最後の決定ナレハ其ノ儘署名サレ度シトテ宋ノ署名ヲ得タル経緯アルヲ説明シ黃ノ安心北上方

德憑シタル趣ノ處黃カ絶対極秘ノ含ヲ以テ自分(根本)ニ内示シタル右要綱ハ大要左ノ如キモノナリ
前言

國際政局ノ大變轉ハ日本今後ノ行動(ヲ)自由ナラシメ中國ノ將來ヲ著シク暗澹タラシメタリ此ノ變局ニ處スル爲開誠扶公ノ精神ヲ以テ左記五項ノ政策ヲ行フ

一、外交方針

甲、對日方策

東四省ノ割讓(讓)滿洲國ノ承認ハ之ヲ敢テ爲シ難キモノ次要ノ點ニ付左記ノ妥協精神ヲ以テ進ム

(一)心理、行動、言論ニ賴ツテ日本ヲ刺戟スルカ如キコトヲ避ク

(二)日本ヲ刺戟スル事項(例へハ新關稅率等)ヲ漸次改變ス

(三)華北ニ於ケル日本トノ關係ハ特ニ慎重處理スヘシ

乙、對外方策

國難救済ノ爲外國ノ援助ヲ求ムルモ借款ハ團體ヨリ受ケス單獨借款ヲ爲ス又長期借款タルヲ要ス

二、五中全會

廣東ノ反對ニ鑑ミ黨章ノ許ス範圍内ニ於テ大會ヲ延期ス

三、棉麥借款
民國二十三年ニ國民參政會、二十四年ニ國民大會ヲ開催ス

(一)軍事ニ使用セス
(二)使途左ノ通

(イ)農村ノ復興
(ロ)紡績ノ統制
(ハ)幣制ノ改革

(三)江西省剿匪ニ伴フ補助費トシテ一千五百萬元ヲ流用ス

右(イ)及(ロ)ノ使途ヲ有效ニスル爲全國經濟委員會ヲ改組シ蔣ハ右委員長ヲ辭シ汪、孫、宋ノ三常務委員制ト爲ス別ニ監察委員會ヲ組織シ使途ヲ監視セシムルト共ニ要スレハ右委員ノ半數位ヲ民間ヨリ選出ス

四、財政方策

甲、中央

中央ノ政費ハ月額約三千二百萬元ノ處收入ハ約二千萬元ナレハ約半ヶ年分ノ右不足額ヲ補填スル爲約一億萬元ノ公債ヲ發行ス

乙、華北

華北ノ出納ハ總テ財政部ニ於テ之ヲ統制シ政費及軍費

ノ總支出ヲ月四百五十萬元ニ限定ス

五、行政方策

地方行政官(省主席、縣長等)ノ任期ヲ更正ス

本電配布ハ最少限ノ範圍トセラレ度シ又其ノ内容殊ニ黃ヨリ内示セル事實ハ絶対ニ外部ニ洩レサルコト致度シ

(欄外記入)

軍側電報要旨

米國五千万弗借款ハ經濟委員會ヲシテ管理セシメ軍費ニ使用セス但剿匪地域復救費トシテ千五百萬元ヲ支出ス

41 昭和8年9月20日 在南京日高總領事より
広田外務大臣宛(電報)

近日帰任の蔣作賓駐日公使を往訪し排日問題
および関税問題に関し意見交換について

南京 9月20日後発
本省 9月20日後着

第四六八號

二十日蔣作賓ヲ往訪シ今般歸任スルコトナリタルハ日支

國交改善ノ爲ニハ兩國要人ノ意見カ正シク相手方ニ傳ヘラルコトノ急務ナルヲ痛感シ居(リ)本官トシテハ欣快ニ堪ヘサル旨挨拶シタルニ對シ蔣ハ年來ノ舊知タル閣下ノ御親任ハ衷心ヨリ喜フ處ニシテ同人ノ祝電ニ對シ閣下ヨリ鄭重ナル御返電ニ接シ感激シ居リ閣下ヨリ速ニ歸任方懇慫ノ次第モアリ出來得ル限り速ニ歸任致度數日中ニ上海ニ赴キ茲一週間位ニハ出發(單身)ノ豫定ナリトテ本官ヨリモ特ニ閣下ニ宜シク傳ヘラレ度ト依頼セリ

本官ヨリ日支國交改善ノ第一歩ハ排日排貨ノ終止及關稅率等ノ改善ニアル旨ヲ說ケルニ對シ同感ヲ表シ政府トシテハ表立タサル様ニ排日ノ緩和取締ニ努力シ居リ其ノ實績ハ最近ノ輸入統計ニモ現ハレ居ル通りナリ關稅問題ハ複雜ナル事情アリテ急速實現ハ困難ナルヘキモ汪精衛唐有壬邊ニテ精々努力中ニシテ自分モ相當盡力シ居ル旨述ヘ居タリ

支、北平、滿ヘ轉電セリ

42 昭和8年9月28日 在中国有吉公使より
広田外務大臣宛(電報)

日中關係打開の根本的政策に關し黃郛ノ親日

一 日中外交關係一般

汪、宋子文及孫科等ノ談話並ニ其ノ他ノ各種情報ヨリ判斷シテ略々正確ナリト認メラル(往電第五〇八號、第五二一號、第五九一號等御參照)然レトモ右廬山會議決定ノ對日方針ノ實行方ニ對シ政府要人ノ眞意ハ遽ニ之ヲ補促シ難ク且右ハ其ノ立場ニ依リ必シモノナラサル事勿論ニシテ例ヘハ黃、汪一派ハ自派勢力保全ノ爲積極的ニ日本ニ接近スルヲ辭セサルモノト思ハルモ

宋子文(宋ハ右對日方針ニ對シ充分ノ贊意ヲ表シ居ラス内心不服ヲ感シ居レリト各方面ノ消息モ有リ)孫科等ニ至リテハ其ノ從來ノ對日態度及之カ背景タル歐米勢力トノ關係上少クトモ消極的ニ日本ヲ刺戟スルカ如キ事ヲ避クルニ止マリ今直ニ積極的ニ我方ニ接近スルノ態度ニ出ツルカ如キハ困難ナリト認メラル蔣介石ノ對日態度ハ直接之ヲ明確ニシ難キモ最近ニ於ケル黃、汪一派ノ談話等ニ依リ之ヲ推斷スルニ前記廬山會議ノ決議ハ大体ニ於テ蔣自身ノ對日態度ヲ現スモノト認メラル尤モ蔣介石カ前記ノ如キ對日方針ヲ執ルニ至レルハ我方ノ確平タル態度及自國ニ不利ナル今日ノ國際關係上已ムヲ得サルニ出テタルモノニシテ將來内

派の勢力増大が急務でありその援助は彼らの立場を考慮して行うべき旨意見具申

上海 9月28日後発
本省 9月28日後着

第五六九號(極秘)

①國民政府ノ對日方針ハ曩ニ華北時局收拾ノ爲黃郛ノ起用ヲ觀テ以來黃、汪ノ努力ニ依リ漸次親日的傾向ヲ示シ來リタルモ他方一般的排日風潮ノ繼續及之ヲ利用スル各地方勢力ノ反蔣運動ノ外歐米ニ於ケル宋子文ノ活動及政府部内ニ於ケル黃、汪反對派ノ策動等ノ爲右傾向ノ發展極メテ遲々タルモノアリ之カ歸趨ハ宋子文ノ歸國ヲ控ヘテ逆睹シ難キ狀態ニ在リタリ然ルニ宋子文ノ歸國後直ニ開カレタル第三次廬山會議ニ於テハ右ノ如キ不安定ナル狀態ニ在リタル對日方針ハ或ル程度迄明確ニセラレタルモノノ如ク即チ日本ニ對シテハ滿洲國ノ承認ハ爲ササルモ其ノ他ノ問題ニ付新ニ日本ヲ刺戟スルカ如キ事項ハ漸次之ヲ改善スルノ方針ニ付曲リナリニモ意見ノ一致ヲ觀タルモノト觀測セラレ右ノ觀測ハ往電第五三〇號廬山會議ノ決議ナルモノノ外其ノ後ニ於ケル黃、

論ナルノミナラス其ノ他ノ要人ノ態度ニ付テモ素ヨリ同様ナリト思考ス

ニ支那側一般的ノ對日感情ハ其ノ後幾分緩和ノ傾向ニ在ルハ事實ニシテ右ハ各地特ニ北方及長江沿岸ニ於ケル排日ノ氣勢幾分緩和シ居ル事各地ニ於ケル九、一八紀念日ノ狀況等ヨリ見テ首肯セラルル處ナルカ他面潛行的ノ排日運動ハ依然繼續シ殊ニ南京ニ於テハ却テ其ノ甚シキモノアルヲ見ル右ハ職業的排日者流カ排日緩和ノ傾向ヲ阻止スル爲取締ノ不備ニ乘シ活動ヲ逞フスルニ依ル外南京政府部内カ不統一ニシテ各派相牽制ノ策ニ出テ居ル過渡的ノ現象ナルヘシトモ思考セラルル處

③之ニ關聯シテ所謂「ヤング、チヤイナ」カ日本ニ對シ深酷ナル怨恨ヲ有スル事實ハ之ヲ看過スルヲ得ス彼等ノ中責任ノ地位ニ在ル者ハ其ノ感情ノ發露ヲ適宜抑制シ得ルモ然ラサル者ハ即チ常ニ對日感情激發ノ原動力タルモノナリ

③對支關係打開ニ關スル我方ノ對策ハ支那側ヲシテ東洋ニ於ケル日本ノ地位ヲ承認セシメ此ノ基礎ニ於テ我方ト協調セシムルニ在ルコト從テ其ノ結果トシテ支那カ建設事業ノ爲外國ノ援助ヲ求ムルニ當リテハ必ス日本ヲ參加セシムル

點ニ關シ黃汪等一派カ充分ノ努力ヲ爲シ居ル事明カニシテ引續キ彼等ノ一層ノ盡力ヲ指導スルト共ニ宋子文ノ説得ヲ必要トスヘク之カ爲ニハ宋カ特別ノ利害關係ヲ有スル綿麥借款ノ運用技術合作及支那銀行界ノ運命等ニ對シ前記(四)ノ如ク我方ニ於テ有効ナル妨害策又ハ援助策ヲ實行シ得ル事ヲ利用スル事一案ナルヘシト存ス

(二) 一般の排日ノ禁遏ニ關シテハ支那側當局ヲシテ常ニ我方ノ確平タル決意ヲ感知セシメ絶エス之ヲ督勵スルト同時ニ一般の空氣ノ改善ニ努ムル事必要ニシテ之カ爲ニハ彼我官民接觸ノ機會ヲ頻繁ニスル外支那側輿論ニ對シ新ナル刺戟ヲ與フルカ如キ事態ノ發生ヲ嚴重ニ防止スル事必要ナルヘク更ニ進ンテハ速ニ北方ニ於ケル排日ヲ緩和セシメ之ニ伴フ該地方ニ於ケル邦人ノ貿易企業及投資ヲ増進セシメ之ニ依リ北方支那人ノ生活ヲ安全幸福ナラシメ以テ南方ニ於ケル排日反對ノ氣運ヲ助長スル事肝要ナリト思考ス

四、前記各種對策ノ實行ニ際シテハ第一ニ支那政府部内ニ於ケル黃汪等親日の傾向ヲ有スル者ノ勢力増大ヲ援助シ之ヲ中心トシテ一般の親日傾向ヲ有スル者ノ勢力増大ヲ計リ進

ハ勿論差當リ政府自ラノ排日行爲ヲ是正セシメ(例ヘハ新關稅率ノ緩和原產國標記條例ノ改正我方對支借款ノ整理及契約履行ニ付誠意ヲ表セシムルコト等)漸次一般の排日ノ禁遏ヲ實行セシムルニ在ルコト當然ナルカ右對策ノ實行ニ當リテハ前各項ニ述ヘタル支那ノ一般の情勢及政府内外各派ノ對立關係ヲ考慮ニ入ルルハ勿論帝國ノ對外關係殊ニ對米對露關係ノ調整ト相俟ツテ慎重ナル態度ニ出ツルコト肝要ナリト思考ス

(イ) 即チ支那側ヲシテ前記我方ノ立場ヲ承認セシムル爲ニハ各派要人ニ對シ凡ユル機會ニ於テ根強ク之ヲ説得スルコト必要ナルカ其ノ結果我方ニ於テ支那ニ對シ其ノ大亞細亞主義ヲ強行スル意圖ヲ有スルカ如キ印象ヲ與ヘサル様充分注意ヲ要ス

(ロ)⁽⁴⁾ 外國ノ援助ニ對スル我方ノ參加ヲ主張スルニ當リテハ兩國カ經濟財政的及政治的ニ緊密ナル關係ニアルカ爲日本ノ協力ナキニ於テハ其合法的作爲不作爲ニ依リ支那ノ建設事業ノ進行カ必然のニ諸種ノ障礙ヲ蒙ル事情ヲ暗示シテ(例ヘハ往電第五三五號日本ノ非協力ニ依ル棉麥借款運用上ノ支障又ハ交通銀行借款整理ノ問題等日本ノ對

支借款契約上ノ權利ノ行使ニ依リ生スヘキ支那財政上ノ困難ノ如シ)我方ノ協力ヲ求メシムル様説得スルコト適當ナルヘキモ之カ爲日本カ恰モ外國ノ對支援助ヲ排斥スルカ如キ觀ヲ與フルコトハ之ヲ避ケサルヘカラス從テ今日ノ場合我方トシテ支那側ノ接近ヲ誘致スル爲利益ヲ提供スルノ大局上不可ナルコト勿論ナルモ而モ支那側ヲシテ我方ノ援助ヲ求メシムル様仕向クル爲ニハ單ニ前述ノ如キ我方ノ非協力ニ依リ支那側ノ蒙ムルヘキ各種ノ障害ヲ暗示スルノミナラス場合ニ依リテハ進テ支那側ヲシテ我方ノ協力ニ依リ受クヘキ利益ヲモ期待セシムルコト必要ナルヘク之カ爲ニハ單ニ北方ニ對スル財政援助(閣下發北平宛電報第一一九號)ノ外必要ニ應シ南方ニ對シテモ各種ノ援助ヲ與フル様具體的研究ヲ遂ケ置クノ要アリト思考ス(例ヘハ共匪討伐ニ關スル援助上海復興乃至大上海建設ニ對スル財的及技術的援助交通銀行借款整理交渉ヲ機會トシテ支那側銀行家ヲシテ本邦銀行界ノ援助ヲ求メシムル案ノ如シ)

(ハ)⁽⁵⁾ 政府自体ノ行ヒ居ル排日措置ノ是正ニ付テハ關稅問題ニ關シテ今日迄ノ處末タ我方ノ希望ヲ達成シ難シト雖此ノ

ンテ政府ノ親日政策ノ實行ヲ促進スル事肝要ナルヘク之カ爲ニハ出來得ル限り黃郭ヲ支持シテ速ニ北方ニ於ケル事態ノ安定ヲ計ラシメ之ニ依リ黃郭一派ノ勢力ノ確立ニ資スル事差當リテノ急務ナリト思考ス

(六) 尤モ不自然ニ且ツ露骨ナル黃郭援助カ大局上有害ナルコト既ニ御承知ノ通ニ有之又右ト同時ニ前記三(ロ)及(二)ニ述ヘタル趣旨ニ依リ宋子文、孫科一派ノ我方ニ對スル接近ヲ促進スルコト必要ニシテ之カ爲メニハ前記宋一派ニ對スル我方ノ妨害策又ハ援助策ノ實行方ニ猶豫メ準備シ置ク必要アリト認ム

五、前記對策ハ主トシテ現下ノ行詰マレル對支關係ノ打開ヲ目的トスル謂ハハ消極的ノモノナルカ今ヤ支那側ニ於テハ我方ノ確平タル態度自國ニ不利ナル國際關係ノ情勢及國力疲弊ノ事情等ニ鑑ミ積極的抗日ノ氣勢ヲ缺キ居ルハ事實ナルヲ以テ前記ノ趣旨ニ基ク我方ノ努力ハ早晚或ル程度迄其ノ效果ヲ收メ得可シト存スルモ同時ニ支那有識者ノ間ニハ前記情勢ニ依リ多分ニ投ケ遣リ的氣分漲リ居ルヲ以テ我方ニ於テ彼ヲ責ムルニ躁急ナルトキハ今日ノ所謂親日分子モ其ノ立場ヲ失ヒ遂ニ全支那ヲ率ヒテ自暴自棄ニ陥ラシメ其

第四五二號
 往電第四五一號唐紹儀談話ノ内滿洲問題ニ關スル唐ノ意見
 左ノ通
 一、日本トシテハ今更滿洲國承認ヲ取り消スコトハ困難ナル
 ヘク支那側トシテハ又今之ニ承認ヲ與フルカ如キコトハ
 不可能ニシテ日支問題ノ「デッドロック」ノ感アリ
 二、然レ共自分ノ觀ル處ニテハ日本カ支那ニ對シ頻リニ滿洲
 國承認ヲ云々スルハ決シテ策ノ得タルモノニアラス既ニ
 事實上滿洲ヲ把握セル以上支那側ノ承認ノ如キ問題ニア
 ラサルヘク支那側ノ一片ノ承認ノ如キ果シテ何等ノ役ニ
 立ツヘキヤ徒ラニ之ニコダハリテ南京ニ承認ヲ迫ルカ如
 キハ考モノナリ支那側ノ承認等問題ニセストシドシ既定
 計畫ノ下ニ開發セラレテハ如何日本カ滿洲國ノ問題ヲ出

ス度毎ニ無用ニ支那民衆ヲ刺戟シ一部策動家ノ乗スル處
 トナルモノナリ西南ノ抗日モ日本カ滿洲國問題ヲ論スル
 コトヲ避クルニヨリテ鮮カラス緩和セラルヘシ
 三、滿洲國承認問題ニ付テハ日本同様支那側モ無用ノ事ヲ爲
 セル感アリ如何ニ支那カ滿洲國ヲ承認セス滿洲ハ我カ領
 土ナリト云フモ事實既ニ支那ノ手ヲ離レ居ルモノハ最早
 致シ方ナカルヘシ他國ニ繼ツテ之ヲ取戻サントスル計畫
 ハ今後モ幾度カ試ミラルヘキモ先ツ先ツ成功覺束ナシ一
 旦取り戻シタレハトテ支那ハ目下ノ如キ内情ニテハ獨力
 ニテ之ヲ開發スルハ到底不可能ナリ
 四、要スルニ日本モ支那モ餘リ本問題ニコダワリ過ル嫌アリ
 尤モ支那トシテハ甚タシク面子ヲ損セラレタル次第ナレ
 ハ此ノ點ハ充分考慮ノ要アリ何レニシテモ茲一二年ハ殊更
 ニ本件ヲ取り立テテ問題トスルハ更ニ益無キコトナルヘシ
 五、自分カ斯克云ハハ支那人トシテ聊カ妙ニ感セラルルコ
 トアランモ自分ハ誠心誠意東洋ノ平和ヲ希望シ東洋ノ和
 平ノ爲ニハ日支間ニ決シテ事ヲ構フヘカラスト信シ居レ
 ハナリ云々
 支、北平、南京、滿、天津、濟南、青島、漢口、福州、厦

ノ極支那ノ時局ハ拾收スルニ道ナキニ至ル可キ虞アリト思
 考セラル從テ我方トシテ日支關係ヲ恒久的ニ調整スル爲メ
 ニハ前記對策ノ遂行ノ模様如何ニ依リ積極的建設策ヲ以テ
 支那ヲ指導スルノ用意アルコト肝要ニシテ此ノ點ニ關シ前
 記援助策ノ外例ヘハ治外法權ノ撤廢問題等ニ付テモ之カ促
 進方ニ付相當ニ準備シ置クノ必要アリト存セラル
 六、將又前述ノ如キ支那一般的情勢ノ下ニ於テハ前記我方對
 支關係打開策ノ實行方ハ未タ之ヲ天下ニ公表スヘキ時期ニ
 アラス今暫ク内面的ノ折衝ヲ以テ之カ實效ヲ收ムルニ努力
 スルコト肝要ナルノミナラス右内面的折衝ニ際シテモ我方
 ヨリ進ンテ利益ヲ提供スルカ如キハ嚴ニ之ヲ避クルコト必
 要ニシテ我方トシテハ前記三冒頭所述ノ如ク支那側ニ於テ
 日本ノ地位ヲ承認シテ我ト接近スルノ意向ヲ示ササル限り
 之ト協調シ得サル確乎タル國策ヲ有スル旨ヲ常々先方ニ印
 象セシムルコトニ努ムルヲ肝要ト思考ス之ニ加フルニ此種
 我方内面的努力ハ必スシモ豫期ノ如キ效果ヲ收メ得サル場
 合アル可ク之ニ對シ我國論ハ極メテ沈着ノ態度ヲ採ルノ必
 要ナルハ勿論其他ノ場合ニ於テモ支那側ノ一舉手一投足ニ
 影響セラレサル様我國論ノ統制ヲ計ルコトハ支那側ヲシテ

確乎不動ノ我カ立場ヲ了解セシムル爲ニ極メテ必要ノコト
 ト思考ス以上ハ累次御訓令ノ御趣旨ヲ体シテ本使ニ於テ對
 支交渉ノ準標ト心得居ル處ニ有之御參考迄申進ス何等御意
 見モアラハ御同示ヲ請フ
 滿、北平、南京ヘ轉電セリ
 昭和8年9月28日 在中国有吉公使より
 広田外務大臣宛(電報)
 華北情勢視察および中国側ならびに外交団と
 の接洽のため北平出張承認方稟請
 上海 9月28日後発
 本省 9月28日後着
 第五七一號
 河北ノ情勢視察旁支那側及外交團ト接洽ノ爲本使(妻同伴)
 十月十五日頃出發(日取ハ往電第五七〇號赴寧ノ模様ニ依
 リ決定致度シ)往復約一ヶ月ノ豫定ニテ北平ニ出張致スヘ
 シ尚須磨有野横川ヲ同行致度キニ付併セテ御承認ヲ請フ
 ~~~~~

門、汕頭へ轉電シ、香港へ暗送セリ、  
支ヨリ上海へ轉報アリ度シ

45 昭和8年10月7日

在英國松平(恒雄)大使、在米國出淵大使、  
在ソ連邦大田(為吉)大使他宛(電報)

全国經濟委員會拡充および旧東北軍整理問題  
など最近中国政局に関する観測について

本省 10月7日後7時発

合第一八四八號

支那情報

往電合第一六九四號ニ關シ

一、宋子文ハ九月三日廬山ニ赴キ蔣介石ノ下ニ汪兆銘、孫科  
其他ノ要人ト協議ヲ遂ケタリ其ノ際蔣介石ヨリ冒頭往電  
ノ一黃郛等ト話合ヒタル對日方針ヲ説明セルニ對シ宋子  
文ハ別段異議ヲ表明セサリシ趣ナルカ一方宋子文ノ主張  
ニ基キ從來行政院(汪兆銘カ院長タルコト御承知ノ通り)  
ニ屬セル全國經濟委員會ヲ擴充シテ(汪及宋子文、孫科ヲ  
常務委員トス)政府直屬トナシ今後國民政府一切ノ經濟

計畫ヲ審查決定シ聯盟派遣ノ技術員ヲ右計畫ノ技術的方  
面ニ參與セシムルコトトシ又米國五千萬弗棉麥借款ノ使  
途運用モ同委員會ノ手ニ委ヌルコトナリタル由ナリ即  
チ蔣介石ハ右往電ノ二ノ末尾ニ豫測セル通二原的(元々)外交政  
策ヲ執リ少ク共表面上對日方針ヲ緩和スルト共ニ宋子文  
ヲシテ外國側ノ援助ヲ利用セシメントスルモノノ如ク且  
汪兆銘ヲ引續キ行政院長ノ地位ニ置キツツ自身ハ當面ノ  
問題タル剿共軍事ニ專念スルモノト認メラル斯クテ中央  
政局ハ小康ヲ得居ル次第ナルモ財政狀態等相當憂慮スヘキ  
狀態ニアリ國民政府ノ前途依然トシテ多難ナルヲ思ハシム  
ニ、黃郛ハ河北財政問題ニ付引續キ宋子文ト折衝ヲ重ネ居リ  
タルカ話合付キタル模様ニテ九月中旬歸平ノ豫定ナリシ  
處黃郛ハ前電一ノ如ク豫テ舊東北軍移駐ノ計畫ヲ有シ又  
其ノ他舊東北系(同系ハ今尙ホ北支ニ於テ相當根強キ勢  
力ヲ有ス)ノ勢力減殺ヲ企圖シ居ルニ對シ同系分子不平  
滿々タルモノアリ然ルニ黃郛カ其ノ小手試トシテ其ノ南  
下中ニ北平公安局長タル舊東北系ノ鮑毓麟ヲ罷免シ青島  
公安局長余○管○毓○後任ニ命シタル爲同系諸將領及要人等  
ハ不服ヲ唱ヘ出シ余ノ就任モ行惱トナレル一方馮玉祥失

一 日中外交關係一般

脚以來進退ニ窮シ居タル方振武、吉鴻昌等ハ失意ノ將領  
ヲ驅集メテ舉兵シ九月下旬察哈爾ヨリ北平方面ニ南下ヲ  
開始シ來リ(其ノ際方吉軍ハ懷柔方面ニ於テ北支停戰協  
定ニ基ク支那軍隊不可侵區域ニ入レル結果我方カ同軍ヲ  
「バック」シ居ルヤノ疑惑ヲ抱キタル向アルモ我方ニ於  
テハ嚴然タル態度ヲ以テ同軍ノ前記區域外撤退ヲ強要セ  
リ)北支ノ事態一時憂慮スヘキ形勢ニ陥レルヲ以テ黃郛  
ハ北上ヲ見合ハセタル模様ナルモ其ノ後方振武軍モ漸次  
解消ノ運命ニアルモノノ如ク又余管毓○正式ニ就任セル  
ヲ以テ差當リ北支ノ不安去リ黃郛ハ十月二日上海ヲ出發  
シ二ヶ月振ニ歸平セリ即チ黃郛政權トシテハ今後尙舊東  
北軍ノ整理其他困難ナル諸問題アルモ黃郛ノ方針ハ大体  
中央ノ支持ヲ得タル上前記今次ノ小波瀾ノ解決ニヨリ其  
ノ基礎ハ漸次固マリツツアルヤニ觀測セラル

三、尙ホ曩ニ西南側ノ提議セル五全大會延期問題ハ時局多端  
ヲ理由トシテ中央ノ容ルルコトコナリ同大會ハ明年十一  
月迄延期スルコトナレリ將又西南方面ノ政情ハ相變ラ  
ス大ナル變化ナシ

四、福建省閩西ノ共產軍ハ其後輿地ヘ引上ケタリトノ報道モ

アリ一方延平方面モ討伐軍ニヨリ恢復セラレ福州ノ危險  
モ大体去レル趣ナルカ閩北方面ニハ尙相當兵力ノ共產軍  
アリ十九路軍側モ進ンテ討伐ニ向フ氣力ナク唯表面平靜  
ニ歸シ居ルモノト認メラル尙蔣介石ハ十月初旬ヲ期シ第  
五次共匪討伐ヲ行フ旨傳ヘラル

46

昭和8年10月7日

在中国中山公使館一等書記官より  
広田外務大臣宛(電報)

棉麥借款の使途および宋子文の横浜寄港中の  
動靜などに関する李振一の談話について

北平 10月7日後発  
本省 10月7日後着

第四二六號

黃郛一行歸平ニ付六日先ツ李振一ト一般情勢ニ付忌憚無キ  
會話ヲ交換シタルカ主ナル點左ノ通

(一)廬山會議ニ於テハ一般原則ト辦法トヲ決議セリ前者ハ開  
○誠布公ニシテ對外關係ニ於テハ日本ニ對シテモ滿洲國承認  
ヲ除キテハ如何ナル事項ニ付テモ交渉ニ應シ對内關係ニ於  
テハ廣東ニ對シテモ其ノ發言權ヲ相當ニ認メ採用スヘキモ

ノハ之ヲ採用スルコトナリ要スルニ内外何レニ對シテモ一切「トリツク」ヲ用ヒサル方針ニ定マレリ實際辦法ハ農村復興水利交通ノ開發ニ重キヲ置クコトナレリ所謂技術合作ニ關シテハ外國現存ノ個人企業例ヘハ三井、大倉等トノ合作ヲ原則トシテ承認スルモ例ヘハ「シンジケイト」又ハ國際團體ノ如キ團體的合作ハ排斥シ合作スヘキ事業ハ前掲三種ノ事業ヲ主トスルコトニ決セリ棉麥借款ノ使途モ同様軍費ニハ使用セス右三種ノ事業ニ使用スル方針ナリ

(二)宋子文ノ地位ニ關シ蔣ハ宋ノ過去ノ遣口ニ付相當強ク叱責ヲ加ヘタルカ如ク今後ハ一切外交ニ容喙セス專ラ財政ヲ主管スルコトニ納得セシメタル結果財政ノ關スル限りハ華北ノ財政モ宋ノ主管スル所トナレリ宋ハ橫濱ニ於テ何人ニモ面會セスト稱シ居ルモ實ハ山下龜三郎氏ニ會見シタルカ如ク又伊東已代治<sup>(三)</sup>伯ニモ會見シタル模様ナリト云フ尙宋ハ日本ニ對スル認識薄キハ周圍ニ之ヲ教フルモノナキ結果ナルカ宋自身ハ日本ニ關シ案外舊式ノ考ヲ拘キ居レリ又必スシモ排日思想ヲ有スル次第第二非スシテ華族位ノ肩書ヲ有スル相手ナラハ日支問題ニ關シ話ヲシテ見ルモ差支ナシト近親ニ語リタル由ナリ

(三)關稅問題ニ關シ我方ハ同問題ヲ重大視シ居ル次第ナルカ右交渉ノ成行ニ關スル見込如何トノ問ニ對シ李<sup>(宋)</sup>ハ結局ハ相當日本ノ希望ヲ容ルルコトナルヘキモ忌憚ナク言ヘハ現在ノ如ク公使カ直接汪精衛ニ對シ理論ヲ以テ當ラルルコトハ日本ニ取り不得策ナルヘク寧ロ何人カ中間者ヲ立テ徐々ニ法ヲ設ケテ進行セラルルコト却テ捷徑ナルヘシ尙右ニ付テモ(二)宋ノ權限ノ問題ヲモ考慮セラルルコト肝要ナリト附言セリ

支、南京、天津、滿ヘ轉電セリ

47 昭和8年10月14日 広田外務大臣より  
在中国有吉公使宛(電報)

有吉公使の北平出張承認について

本省 10月14日後6時20分發

第二一二號

貴電第六〇二號ニ關シ

聯盟總會モ閉會シタルコトニモアリ又差當リノ重要問題タル關稅率引下ニ關スル交渉モ貴電第五九七號ノ經緯ナルニ就テハ此ノ際貴電第五七一號御稟申ノ通ノ豫定ニテ北上セ

ラレ差支ナシ尤モ今後事態ノ移轉ニ依リテハ右貴電御申越ノ期間内ニモ南下方ヲ煩ハスコトアルヘキニ付其ノ點御含置相成度

48 昭和8年10月14日 在中国中山公使館一等書記官より  
広田外務大臣宛(電報)

宋子文の対日態度および羅文幹の新疆視察の

事情に関する黄郭の見解について

北平 10月14日後發  
本省 10月14日後發

第四三五號(極秘扱)  
往電第四二六號ニ關シ

十四日黃郭ヲ往訪セリ

(一)宋子文ノ對日態度ニ付質問シタル處黃ハ最近南下中宋歸國前豫メ同郷ノ所謂浙江財閥ニ申含メ宋歸國ノ際右財界關係者ヨリ宋從來ノ態度ヲ變更スルコトノ必要ヲ説カシメ宋カ以前トハ相當變化シ居ルコトヲ認メタル上直接宋ニ面會シ目下ノ日支關係ニ於テ宋ノ從來ノ態度ヲ變更スルコトノ必要ナル所以ヲ説明シタル處宋ハ好ク之ヲ了解

シ將來ハ火ニ油ヲ注クコトハ一切爲ササルヘキモ此ノ際直ニ日本ト握手スルコトハ自己ノ政治的立場上爲シ難キニ付此ノ點ハ諒解セラレタシト云ヘルニ付之ニテ互ニ握手ヲ爲シタル實情ニシテ宋ノ心底如何ハ之ヲ知ラサルモ差當リ親日政策ニ對シ積極的反抗ヲ試ムル憂ハ無キモノト信シ居レリト答ヘタリ

其後廬山會議ニ於テ蔣ヨリ訓令的ニ對日方針ヲ述ヘ右ニ對シ蔣ヨリ宋ニ異存無キヤヲ念ヲ押シ宋ハ充分了解セル旨ヲ回答シタル次第ナリ

(二)羅文幹ハ今尙外交部長ノ官職ヲ有シテ新疆<sup>(疆)</sup>或ハ「セミパラチンスク」方面ニテ顔ト面會ノ由報道セラルル處右ハ支那側ノ對露方針ニ何等カ新シキ問題ヲ生シタル次第ナリヤノ質問ニ對シ黃ハ廬山會議ニ於テ外交ハ内政ト一致セサルヘカラサルコトニ方針ヲ確定シ居リ目下ノ内政上ノ重大問題ハ共匪討伐ニアリ外交ニ於テ蘇聯ト提携スルハ矛盾スルカ故ニ斯ル心配ハ御無用ト存ス

羅文幹ノ新疆<sup>(疆)</sup>行ノ事情ハ實ハ蔣作賓カ日本ヘノ歸任ヲ溢リタル(脱)理由ニアリ一ハ國策ノ確立セサルコトニシテ二ハ外交部長ト意見ノ一致セサル點ナリ南京政府力對日

群ヲ財政部長タラシメントシタルモ(張ハ上海市長時代上海銀行家ノ好感ヲ得タル由)右ハ餘リ露骨ニシテ宋ヲ窮地ニ陥ルルハ西南派ト通スル惧モ有リ(既ニ多少聯絡ヲ取り始メタルヤノ噂モ有リ)トノ汪等ノ意見ヲ容レ孔祥熙ヲ据エ且宋ノ主催スル經濟委員會ノ祕書長タル秦汾ヲ常務次長トシテ宋ノ顔ヲ立ツルト共ニ同委員會ノ事務費融通ノ便ヲ計リヤリタル實情ナルカ政府財政ノ遺練ハ募債ニ依ルコト不可能ナルコト一般ニ了知サレタル今日何人モ財政ノ局ニ當ルモ大シテ變リ無カル可シ

汪一派ハ當初蔣、宋ノ争ニハ傍觀者ノ立場ニ在リタルモ汪、黃等ノ政策ニ對シ宋ノ反對カ原因トナレル次第ニハアリ今後宋一派ハ極力汪、黃一派ノ打倒ヲ謀ルヘク既ニ其ノ徵候現レ來レルヲ以テ(往電第五八九號參照)唐等トシテハ慎重ノ態度ヲ執リ彼等ニ乘スヘキ隙ヲ與ヘサル要有リ從テ黃鄂ニ對シテモ日本側ノ理解有ル支持ヲ切望ス尙宋等ハ蔣介石ト日本側トノ間ニハ或種ノ了解有リテ財政的援助ヲ受クルモノト信シ居ル模様ナリ

右ニ關シ同日陳儀ハ須賀海軍武官ノ突込ミタル質問ニ答ヘ汪、黃一派ハ極端ニ宋一派ノ策動ヲ警戒シ苟モ彼等ニ攻撃

方針ヲ廬山ニ於テ確立シタル以上ハ羅ハ種々ノ點ニ於テ外交部長タラシムルニ適セサリシモ本人ハ外遊ヲ好マサリシ故當初四川方面ニ靜養スル案モアリタルモ英國側ノ思惑ヲ顧慮シ新疆ニ變更サレタル次第ナリ其結果蔣作賓ノ理由トスル事情兩者共消滅シ赴任ヲ見タル次第ナリ

(三)奉山北寧兩鐵道聯絡問題モ昨今ノ空氣ナラハナルヘク早ク解決スルコト親善増進上有效ナルヘキ旨述ヘタル處黃ハ目下ノ急務ハ灤東匪賊問題ト方吉兩軍問題ナルカ故ニ先ツ之等ヲ解決シタル上ノコトニシタキ考ナリト言ヘリ

(四)黃鄂北上以來廬山會議迄ニテ去ル五月二十二日夜貴下(小官)ニ御約束シタルコトハ大体實行シタル積リナルカ今後ハ日支關係ノ新方面ノ開拓ニハ暫ク時ヲ要スヘシト言ヘリ

(五)舊東北軍ノ整理ハ如何ニスル方針ナリヤトノ質問ニ對シ本問題ハ蔣カ北上ノ上決定スヘキ次第ナルヘキモ北上ノ時機ハ共匪討伐ト大ナル關係アリ急速ニハ行カサルヘシト思考スト述ヘタリ

冒頭往電ノ通り轉電セリ

~~~~~

49 昭和8年11月9日

在南京日高總領事より
広田外務大臣宛(電報)

宋子文財政部長辭職の事情などに関する唐有壬の内話について

南京 11月9日前発
本省 11月9日後着

第五九〇號(極秘)

(1) 宋子文辭職及其後ノ政局ニ關シ五日唐有壬ノ岩松武官ニ對スル内話大要左ノ通

宋ハ歸國直後ノ廬山會議ニ於テ蔣、汪、黃一派ノ首唱セル對日外交方針ニ敢テ反對セサリシモ其後百方之ヲ打破セント試ミ李石曾稚暉等ヲ動カシテ聯盟本位ノ政策ヲ蔣ニ説カシメ或ハ舊東北將領ヲ使喚シ或ハ張學良ニ電報シテ其歸國ヲ促シ「ライヒマン」亦剿匪ヨリモ經濟建設ノ急務ナルヲ進言セルモ蔣ハ宋ノ棉麥借款ノ不手際ヲ見「ライヒマン」ノ態度ヲ苦々シク思ヒ又稅警團カ宋ノ手ニヨリ益裝備ヲ整ヘ其手兵化スルヲ忌ミ宋カ蔣ト拮抗スル政治上ノ勢力ト成ルヲ恐レ蔣宋ノ關係漸次離隔シ宋ハ蔣ノ剿匪費用ノ捻出ヲ澁ル爲遂ニ衝突ヲ來シ宋ノ辭職ヲ見タル次第ニシテ蔣ハ張

ノ口實ヲ與ヘサル爲差當リ河北ニ於ケル滿洲國側トノ各種交渉ニハ極メテ消極的態度ヲ執ル腹ヲ定メ右ノ方針ハ最近唐及莽(唐有壬ノ兄)ヲ北上セシメ委細黃等ニ説明セシムル手筈ナレハ日本側ニ於テモ此ノ間ノ事情ヲ諒トセラレタシト懇談セル趣ナリ

右ハ孰レモ多少片寄リタル情報ト思ハルルモ御參考迄出所極秘ニセラレタシ

支ヨリ上海ヘ轉報アリタシ

支、北平、天津、滿ヘ轉電セリ

~~~~~

50 昭和8年11月9日

在南京日高總領事より  
広田外務大臣宛(電報)

内政上の機微なる状況に鑑み我が方が華北問題などに関し寛容の態度をとるよう彭学沛切望について

南京 11月9日後発  
本省 11月9日後着

第五九二號(極秘)

(1) 往電第五八九號ニ關シ



「九日彭學沛カ本官ノ問ニ應シ極秘トシテ語レル要領左ノ通り

宋ノ辭職ハ蔣宋間ノ争ニ基クモノニシテ其眞因ニ付テハ汪精衛モ充分知ラサル所ナルカ財政事項及蔣宋ノ反目カ主因ナリト思ハル汪ハ宋ニ對シ好意的態度ヲ示シ調停ニ努メタルカ成功セス尤モ孔祥熙<sup>（馬）</sup>ノ任命ハ汪ノ主張ニモ依ルコト乍ラ蔣ヨリ宋ニ相談ノ上決定セルコトニモアリ蔣宋ノ間ハ姻戚ノ争ナレハ世上傳ヘラルル程深刻ナラサルヤニ思ハル孔トテモ宋ノ好意的援助ナクシテハ遣ツテ行ケサル故ニ目下頻ニ其趣旨ニテ奔走シ居レリ

右ノ次第二テ宋自身猛烈ナル蔣汪攻撃ヲ策シ居ルニハ非サルモ宋ハ黨部始メ各方面ニ評判惡シク且乾兒ナキ故單獨ニテ事ヲ爲シ得ルモノニ非ス又宋カ張學良ニ歸國方ヲ電報シ或ハ西南派ト結ハントセル噂ハ事實ニ非サルヘシ從來宋ト結ヒ其財的援助ヲ受ケ居タル李石曾ハ現政府ニ反感ヲ有シ（其密接ナル關係アル易培基カ故宮博物館問題ニテ裁判沙汰トナレルハ其一因ナリ）國民黨長老トシテノ勢力ヲ利用シ吳稚<sup>（馬）</sup>等ヲ語ラヒ現政府ニ不平ヲ有スル分子ヲ糾合シ他方河北ニ於ケル日支間ノ交渉カ滿洲國承認ノ結果トナルヲ

ン」ヲ生スルコトアリ得ヘキコトヲ注意シ出來得ル限り誠意ヲ披瀝シテ日本側ト接洽スルト共ニ此ノ種内政上ノ事情ハ腹藏ナク我方ニ内報シ誤解ヲ避クルニ努ムルコト肝要ナリト説キ置ケリ

右ノ機會ニ往電第五七九號新聞記事等ニ言及シ此ノ種記事カ日本ノ輿論ニ及ホス惡影響ヲ指摘シ注意ヲ促シ置キタルカ唐有壬ニモ同様ノ趣旨ヲ申聞ケ置キタリ

八日上海ヨリ歸來セル「イングラム」ノ談ニ依レハ同人ハ六日上海ニテ宋子文ニ面會セルカ前回面會ノ節意氣消沈ノ風アリシ彼ト異リ頗ル元氣ニテ自分ノ受國心<sup>（馬）</sup>ヤ財政手腕ハ世人ノ認ムル所ナリトテ現在ノ政局ヲ自己ノ有利ニ解シ居ル如ク見受ケラレタル趣ナリ

本電情報出所極秘ト致度シ

支、北平、天津、滿ヘ轉電セリ

51 昭和8年11月17日

在南京日高總領事より  
広田外務大臣宛（電報）

辭職後の宋子文動向、汪および黄への反対運動  
など内政問題に関連し結果的に滿洲國承認とな

憂フル一般ノ空氣強キニ乘シ汪虐メニ奔走シ居ル實情ニテ蔣ノ幕下中ニハ黃郛ニ對シ反感相當強キモノアリ冒頭往電（一）立法院決定ハ孫科派及胡漢民派委員ノ策動ニ係リ同電（一）ノ政治會議ハ李ノ策動ニ依リ汪ノ不在ニ拘ラス開會シ（彭ハ同電所報ノ新聞報道ハ大体眞ニ近シト述ヘ居タリ）可ナリ激シキ汪攻撃ノ氣勢ヲ舉ケタリ

現在<sup>（2）</sup>日本ニ對抗スルノ不可ナルコトハ異論ナク政府トシテモ滿洲承認ノ問題ニハ觸レスシテ局面打開ノ方策ニ努力シツツアリ黃郛ノ地位カ動搖スルカ如キコトハナカルヘキモ右ノ如キ通車及通郵問題カ滿洲國不承認ノ方針ニ累ヲ及ホスコトナキヤトノ懸念一般ニ強キ際李一派ノ策動アリ本件ニ付テハ殘念乍ラ差當リ消極的的態度ヲ執ラサレハ内政上政府ノ地位モ危クナル實情ナレハ日本側モ此ノ機微ナル政情ニ顧ミ河北問題等ニ關シ寛容ノ態度ヲ示サルコト切望ニ堪ヘス

ニ右ニ對シ本官ヨリ支那側内政上ノ理由ハ去ル事乍ラ日本側トシテハ宋<sup>（馬）</sup>黃一派ニ對シ非常ナル好意的態度ヲ示シ居ルコトニモアリ河北問題其他ニ關シ支那側カ態度ヲ翻ヘスコトアラハ直ニ日本側（殊ニ河北問題ニ關シ）ニ「リアクシヨ

### る問題は実行不可能の旨唐有壬談話について

南京 11月17日前発  
本省 11月17日前着  
\*第六〇七号

<sup>（1）</sup>十六日堀内書記官ト共ニ唐有壬ヲ往訪シ長時間會談セルカ其要領左ノ通往電第五九〇号第五九六号等ト多少ノ重複ヲ顧ミス電報ス

ニ宋子文ノ辭職ハ蔣介石ノ意思ニ基ケルモノニシテ宋ハ辭表提出後最初汪ニ對シ自分カ關稅率問題ニテ罷メラルルナラハ寧ロ光榮ナリト云ヒ次イテ一般外交事項ニ関スル意見ノ相違ナリヤト詰問シタルカ汪ハ宋辭職ハ蔣ノ決定ニ係リ自分ハ何等関知セスト答ヘタル經緯アリ（宋ハ福建獨立運動ニ資金ヲ出ス等汪院長排斥ノ爲陰謀ヲ企テ居ルヤノ噂アルカ如何ト尋ネタルニ對シ唐ハ李石曾ノ反蔣汪運動ニ宋ヲ取入レントセルニ對シテモ慎重ノ態度ヲ取り辭職後ノ宋ハ比較的謹慎ノ態度ヲ持シ疑惑ヲ招カサル様努メ居ル模様ニシテ既ニ政府部内ニハ宋ハ其内ニ復歸スルニアラスヤトノ説サヘアリト述ヘ居タリ）

ニ汪蔣反對ノ氣運漸ク濃厚トナリ來レルニ依リ蔣ハ心配シ

第六四一號(極秘)  
貴電合第二〇七一號ニ關シ

南京 11月26日後発  
本省 11月26日後着

宋子文辭職により張學良帰國の策動は一頓挫  
を来したとの危道豊よりの情報について

53 昭和8年11月26日

在南京日高総領事より  
広田外務大臣宛(電報)

参考ノ爲滿、北平、天津、濟南、漢口、廣東ニ轉電セリ  
本電宛先 支、南京

合第二〇七一號  
情報ニ依レハ支那側ニテハ張學良歸國ノ計畫ヲ具體的ニ進  
メ居ルニ非スヤト認メラルル節アリ(往電合第一八四一號  
末尾ノ如ク「ドナルド」カ歸支セルハ學良歸國ノ地ナラシ  
カ就テハ真相御探查相成ルト共ニ必要ニ應シ支宛往電第  
一二二號ノ趣旨ニ依リ支那側ノ注意ヲ喚起セラレ度陸軍側  
ニテモ出先ニ全趣旨ヲ電報セル由  
本電宛先 支、南京

本省 11月24日後7時40分発

七日汪ヲ南昌ニ招致シテ右ノ形勢ヲ告ケ自分ハ充分汪ノ  
政策ヲ支持スルモ自ラ南京ニ赴キ之等策動ノ矢面ニ立ツ  
事能ハサルニ付汪ニ於テ隱忍自重シ彼等ノ術中ニ陥ルコ  
トナキ様注意セル次第ナルカ其留守中ニ李石曾胡漢民其  
他ノ不平分子ハ八日ノ中政會ニ於テ汪攻撃ノ氣勢ヲ揚ケ  
華北問題ヲ捕ヘテ黃汪ヲ倒サント欲シ(一)華北当局ハ關東  
軍代表者トノ間ニ唐沽協定ニ基ク軍事事項以外ノ政治事  
項(通車郵便税関事項等)ニ付交渉スル得ル(二)政府ハ法律  
上事実上滿洲國承認トナル如キ協定ヲ爲スヲ得ストノ二  
原則ヲ決定シ汪歸來後種々折衝ノ結果大体右ノ原則ニ依  
リ其実施ヲ政府ニ委ヌル事ニ折合付キタリ  
三、右ノ次第ニテ最近方振武瀋東剿匪等ノ問題ニ關スル關東  
軍側ノ好意ハ大ニ多トシ居ル處ナルカ現在支那側トシテ  
ハ日本トノ間ニ又ハ滿洲國ノミニ關スル問題ニ付協定ヲ  
爲スコトハ滿洲國不承認ノ建前ニ反スルコトトナリ如何  
ナル政府ト雖実行シ能ハサル実狀ナリ依テ(一)通車問題ニ  
付通車以外ノ方法ニテ實際上交通ノ利便ヲ計ル手段ヲ講  
シ(二)通郵問題ハ中國自ラ聯盟ニ對シ主張セル行懸上差当  
リ協定スル譯ニ行カス(三)支那税関設置モ暫ク研究スルコ

トトスル外無キ次第ナルカ右ハ黃郛ニ於テ全然交渉ヲ打  
切ルト云フニハアラス実ハ黃郛ヨリ度々自分(唐)ニ對シ  
一身ヲ顧ミス難局ニ當レトノ激勵ニ接シ居タルモ昨日ハ  
黃自身頗ル悲觀的ノ電報ヲ寄せ來レルニ依リ今朝人ヲ派  
シ其奮発ヲ求ムル手筈ヲ爲セル位ニテ黃自身モ随分苦シ  
キ立場ニアルト思ハル  
四、就テハ此ノ上トモ日本側ニ於テ前記支那ノ政局ヲ案シ汪  
蔣ノ誠意ト立場トヲ諒トシテ大局ヨリ考察シ差当リ寛容  
ノ態度ヲ示サルコトヲ懇願ス  
右ニ對シ兩人ヨリ交々支那側態度ノ消極化ハ黃郛ヲ窮地ニ  
陥レ關東軍側ノ好意ヲ冷却セシメ延テ華北ニ於ケル支那側  
ノ困難ヲ増スコトアルヘキヲ指摘シ黃郛ヲ支持シテ日本側  
ノ好意ヲ繋キ局面ノ打開ヲ計ルノ肝要ナルコトヲ説示シタ  
ルニ唐ハ汪一派ノ苦衷ヲ繰返シ居タリ

52 昭和8年11月24日

広田外務大臣より  
在中国有吉公使  
在南京日高総領事 宛(電報)

張學良の帰國計画に關し真相探查方訓令

宋子文及舊東北軍一派カ學良ノ歸國方策動シ居ルコト及蔣  
汪等ハ之ニ反對シ居ル事情ハ累次電報ノ通ニシテ本官ニ於  
テモ御訓令ノ御趣旨ヲ體シ隨時支那側ノ注意ヲ喚起シ居ル  
次第ナルカ二十五日危道豊 同人ハ近頃學良ト餘リ善カラ  
サル由)カ船津理事長ニ語リタル處ニ依レハ曩ニ宋子文ハ  
歸國後頻リニ東北系將領ト共ニ學良歸國ヲ策シ(此事カ蔣  
宋不和ノ一因ヲ成セリ)學良ハ「ドナルド」ヲ歸支セシメ各  
方面ノ空氣ヲ探ルト共ニ機運ノ醸成ニ努メシムルコトトシ  
タルカ宋辭職ノ爲目下歸國問題ハ一頓挫ヲ來セリ但シ學良  
ハ歸國希望ノ念強ク在支一味ノ者ハ同人ノ歸國ハ日本ノ反對  
ヲ緩和セサレハ實現困難ナリトシ寄々方策ヲ凝シ居ル趣ナリ  
尙「ドナルド」ハ新任伊國公使ト同船着滬ノ節同人ノ舊知ナ  
ル伊國書記官ニ對シ香港ニテ學良ヨリ歐洲ニ引返ス様電報  
ニ接シタル旨ヲ語レル趣ニテ右ハ前記宋辭職ニ件フ心境ノ  
變化ヲ反映スルモノトモ觀測セラル  
唐有壬等ノ談ニ依レハ宋子文ハ學良歸國ノ理由トシテ滞在  
費ノ缺乏ヲ舉ケ居ル由ナルカ(學良ハ北平落ノ際一千萬元  
ヲ携帯セルモ上海ニテ六百萬元ヲ杜月笙ニ捲上ラレ今夏宋  
子文ト逢ヒタル時迄二百二十萬元ヲ費シタリト噂セラル)

二十五日汪精衛モ船津理事ニ對シ同様ノ事ヲ述ヘタル趣ナリ  
右聞込ノ儘不取敢

支、北平、天津、濟南、漢口、廣東、滿ヘ轉電セリ  
支ヨリ上海ヘ轉報アリ度シ

54 昭和8年12月2日 在南京日高總領事より  
広田外務大臣宛(電報)

有吉公使との会談における張學良帰国問題へ  
の汪兆銘態度について

南京 12月2日前発  
本省 12月2日後着

第六五八號

有吉公使ヨリ左ノ通

一日汪兆銘ト會談ノ際本使ハ張學良歸國問題ニ言及シ我方  
ノ態度ヲ述ヘ汪ノ意向ヲ質シタル處汪ハ學良ノ歸國ニ反對  
ナルハ自分(汪)モ日本側ト同感ナリ學良ハ本年七、八月歸  
國ヲ要求シ來リタルニ對シ蔣介石ヨリ不可ナル旨返電シ同  
時ニ何等名義ヲ與ヘテ歐洲ニ留メント試ミタルモ學良ハ名  
義ヲ受クルコトニ應セス最近又復歸國ノ希望ヲ申出テ來リ

タルカ自分(汪)ハ行懸上素ヨリ不賛成ナルモ政府トシテハ  
強ヒテ歸國ヲ阻止スルコトモ出來サル處若シ歸國スルモ南  
京又ハ上海ニ居住セシメ決シテ北方ニ返スカ如キコト無ク  
又自分カ在任スル限り策動等ハ斷シテ爲サシメサル積リナ  
リト答ヘタリ

尙前日唐有壬ハ日高ニ對シ學良ハ曩ニ政府カ同人ノ歸國ニ  
賛成セサリシ爲露國ニ赴ク計畫ヲ有シ居リタルカ露國側ヨ  
リ斷ラレタル結果中止セル由語リタル趣ナリ(以上發表見  
合サレ度シ)

支ヘ轉報シ北平、滿、廣東、天津ヘ轉電セリ  
支ヨリ上海ヘ轉報アリタシ

55 昭和8年12月14日 在天津栗原(正)總領事より  
広田外務大臣宛(電報)

張學良の帰国は我が方にとって不利であり帰  
国阻止の必要ある旨意見具申

天津 12月14日後発  
本省 12月15日前着

第五六一號

一學良ノ歸國急ニ具体化スルニ至リタルハ東北系將領及宋  
子文等英米派ノ運動ニ負フ處アランモ主トシテ蔣介石ニ於  
テ歸國ヲ容認シタル結果ナルハ明カナルカ右ハ福建獨立ニ  
伴フ政局ノ變動ニ備ヘントスル蔣一流ノ策謀ニアラスヤト  
モ思考セラル即チ中央ノ實力ヲ以テシテハ一舉福建ヲ擊滅  
セシムルニ由無ク同政府ハ自然相當期間存續スルモノト考  
フル外無キ處之カ爲共産軍ハ勢力ヲ増大シ兩廣地方モ之ト  
妥協シ完全ニ中央ト分離スルニ至ル惧アリ殘レルハ北支方

面ナルカ黃郛政權ハ最初ヨリ何等頼ルヘキ實力無ク頼ムニ  
足ラサルハ明瞭ニシテ中央ノ權威薄弱トナレハ當然崩壊ヲ  
免レス、于學忠ハ保身上容易ニ動カスト見ルモ閩錫山、韓  
復榘ヲ始メ雜軍ノ向背ハ決シテ中央ニ有利ナラサルヘク此  
ノ間ニ處シテ獨リ各派ヲ牽制シ策動ヲ封シ得ルハ今尙十五  
六萬ノ實力ヲ有スル舊東北軍ナルヘキニ付蔣ハ茲ニ着目シ  
學良ヲシテ再ヒ同軍ノ實力ヲ握ラシメ同人ヲ操縱シテ福建  
問題ヨリ波及ノ憂頗ル多キ北支ノ反蔣運動ヲ牽制セシメン  
腹ニアラスヤトモ觀察セラル

ニ右ノ如キ關係ニ顧ミ蔣ノ地位安泰ナル限り北支ハ何トカ  
現状ヲ維持シ得ヘキモ學良歸國ニ依リ舊東北軍ノ勢力挽回

セハ黃郛政權存在ノ理由漸次薄ラク一方各行政機關ノ中堅  
ヲ爲ス東北系分子モ自然勢ヲ得テ忌憚無ク排日的態度ニ出  
テ折角影ヲ潛メタル一般排日風潮ヲ再ヒ惹起スル惧アリ旁  
少クトモ我ニ不利ナル形勢ヲ馴致スルニ至ルヘキハ明カナ  
リト思考ス然ルニ本省ノ御方針ハ黃郛ヲ支持シ北支ノ安定  
ヲ計ラントスルニアル様存セラルルニ付右ノ狀態ニ付テハ  
此ノ際深甚ノ考慮ヲ加フル要アルヘシ

更ニ萬一福建問題擴大シ蔣ノ失脚ト共ニ全國混亂乃至宋子  
文等英米派ノ天下トナルカ如キ事態ヲ惹起センカ北支ハ第  
一二之ニ捲込マルル惧アリ斯ノ如キ場合ニ處スル我方唯一  
ノ策ハ北支ニ強固ナル政權ヲ樹立シ動亂ノ波及乃至英米派  
ノ策動ヲ阻止セシムルニアリト思考スルモ之ニ對スル大ナ  
ル支障ハ學良ノ存在ニ外ナラス

三當方面ハ差當リ平穩ナルモ福建ヨリ多數代表入込ミ居リ  
從來ヨリノ反蔣乃至反國民黨運動漸ク盛ナラントシ之ニ共  
産黨ノ策動モ加ハリ殊ニ學良ノ歸國ハ是等ノ運動ニ拍車ヲ  
掛ケ北支再動亂ノ切掛トナラントモ限ラス右ハ滿洲國トノ  
關係ニ顧ミルモ我方ノ默視シ難キ次第ナルヘキニ付其ノ餘  
地アル限り學良ノ歸國阻止方是非此ノ上共御考量ニ加フル

要アルヘシト存セラル  
支ヨリ南京、福州、厦門、廣東へ轉電アリタシ  
支、北平、青島、濟南、滿へ轉電セリ

56 昭和8年12月16日 在中国有吉公使より  
広田外務大臣宛(電報)

辭職後の宋子文の対日見解について

上海 12月16日後発  
本省 12月16日後着

\*第七五二号

<sup>(1)</sup>十四日大村、宋子文ヲ訪問シ当方ノ旨ヲ含ミ會談セルカ御  
参考トナルヘキ點左ノ通

一、大村ヨリ日支關係ニ對スル意見ヲ質シタルニ宋ハ支那識  
者ハ日本ノ對支意圖ニ付今尙疑惑ヲ有シ居リ例ヘハ山海  
關ノ接收未完了ノ如キハ右ノ疑惑ヲ一層深カラシムルモ  
ノナリト言ヘルニ付大村ヨリ山海關ニ關東軍力殘留スル  
ハ土匪問題等寧ロ支那側ノ都合ニ依ルモノニテ軍トシテ  
ハ速ニ撤退ヲ希望シ居ルモノト承知スルカ右ニ依リテモ  
明カナルカ如ク支那側ノ疑惑ハ總テ日本ノ立場ヲ明カニ

ト述ヘタルニ宋ハ日本人カ好感ヲ有スル支那人ハ事毎ニ  
日本ノ要望ニ聽從スル連中ナルカ右ハ自分トシテ堪ヘ難  
キ所ナリト述ヘタルニ付大村ヨリ右ハ誤解ニシテ日本ノ  
望ム所ハ盲從ニアラス單ニ合理的ナル日本ノ立場ヲ認ム  
ルコトナリ尙此ノ點ニ付宋ハ其ノ經歷ヨリ見テ英米ノ事  
情ニ精通シ居ルモ日本ノ事情ニ通セス將來日本トノ關係  
ノ調整ヲ計ルニハ此ノ際日本ヲ充分研究スルコト必要ナ

セサルニ依ルコト多シトテ日本ハ單ニ支那カ日本トノ特  
別ノ關係ヲ充分理解シ支那ニ於ケル日本ノ正當ナル權益  
即チ日本人カ支那ニ於テ自由ニ貿易企業ニ從事シ得ルコ  
トヲ尊重スルモノナル旨ヲ(脱?)説明シ支那側ニ於テ右  
日本ノ立場ヲ充分了解スレハ前記ノ疑惑ハ自然ニ氷解ス  
ヘシト言ヘルニ宋ハ右ハ相當ノ期間ヲ要スヘシト述ヘタ  
ルニ付大村ヨリ斯クノ如キ時期ニ至ラハ兩國關係ノ根本  
的調整ノ爲兩國間ノ直接交渉ハ可能ナルヤト尋ネタルニ  
宋ハ右ハ可能ナルモ其ノ場合ニテモ滿洲問題ハ「セツト、  
アサイド」シ他ノ問題ニ付調整ヲ計ルヨリ外ナカルヘシ  
ト述ヘタリ

<sup>(2)</sup>二、宋子文ノ日本觀

宋子文ヨリ戲談的ニ自分カ財政部長ヲ辞メタレハ日本人  
ハ喜ヒ居ルナルヘシト言ヘルニ付大村ハ少數ノ例外ヲ除  
キ一般日本人ハ宋ト日本トノ從來ノ關係ヲ知ラス事變後  
宋ノ反日態度ノミ傳ヘラレタルヲ以テ宋ニ對シ好感情ヲ  
有セサルハ事實ナルカ右宋ノ反日的態度ハ大部分支那人  
自身ニ依リ傳ヘラレタルモノナレハ將來宋ニ於テ日本ヲ  
了解スル態度ヲ示スニ於テハ是等惡感ハ一掃セラルヘシ

ルヘク宋自身都合着カスハ少クトモ信賴スル部下ヲ日本  
視察ニ派遣セラルルモ一案ナルヘシト述ヘタルニ宋ハ其  
ノ點ハ自分モ同感ニテ或ハ其ノ内ニ經濟委員會ノ者ヲ派  
遣スルコトトナルヤモ知レス其ノ節ハ宜敷ク配慮ヲ煩度  
シト述ヘ居タリ